

明治三十七七八年海戰史

第六部

第三篇 特設船舶ノ艤裝

明治三十七年一月日露兩國間ノ時局益、切迫スルヤ、十一日海軍大臣海軍中將男爵山本權兵衛ハ、明治三十六年度海軍戰時編制ニ準據シテ汽船三十餘隻ヲ備ヒ入レ、同實施要領書ノ定ムル所ニ從ヒ、各鎮守府司令長官ヲシテ其ノ艤裝ヲ爲サシメタリ、當時此等船舶ニ對スル呼稱ハ、單ニ假裝巡洋艦、水雷母艦、工作船、病院船及ヒ運送船ニシテ、唯艦隊附屬運送船ニ限り、其ノ用途ニ依リ、給炭用、給水用若クハ給糧用ヲ冠シ、其ノ他ハ一般ニ運送船ト呼稱シテ諸種ノ用途ニ流用スルノ主意ナリシモ、戰局ノ發展ニ伴ヒ、特種ノ艤裝ヲ要スルモノ頗ル多ク、且其ノ用途ヲ分務セシムルノ必要ヲ生シタルヲ以テ、三十八年二月十日山本海軍大臣ハ、特設船舶ノ稱號ヲ、其ノ用途ニ應シテ、假裝巡洋艦、水雷母艦、假裝砲艦、水雷沈置船、工作船、病院船、給兵船、給水船、給糧船、給炭船、通信船、救難船、海底電線沈置船等ニ區別シ、專ラ其ノ任務ニ服セシメタリ、(備考文書第一號參照)今左ニ逐次詳記スヘシ、

第一章 假裝巡洋艦

第一節 假裝巡洋艦ノ艤裝

第一目 臺中丸

第一章 第一節 第一目 臺中丸

本船ハ、大阪商船株式會社所有汽船ニシテ臺灣航路ニ從事セシカ、明治三十七年一月十二日同會社ト借入契約濟ノ後吳軍港ニ回航セシメ、十三日艤裝ニ著手シ、二十一日全部結了セリ、其ノ工事要領左ノ如シ、(附圖及ヒ章末) 要目表參照)

一、安式十二拇速射砲ヲ船首及ヒ船尾樓ニ各一門宛重四十七密速射砲四門ヲ船橋樓ノ前後兩舷ニ据附ケ何レモ發砲ニ堪ヘ得ヘキ裝置ヲ爲ス又其ノ兵員室内ニハ小銃四十挺、拳銃二十四挺ヲ備附ケタリ

一、上甲板前後部艙口上ニ「スキッドビーム」ヲ設ケ前部ニハ小蒸氣船二隻ヲ搭載シ後部ニハ傳馬船四隻ヲ搭載ス尙別ニ「オーニングデッキ」ニ在ル從來ノ四隻ノ端舟ヲ取除キ其ノ跡ニ傳馬船二隻ヲ搭載セリ而テ前部ハ小蒸氣船積卸ノ爲メ別ニ上甲板ニ「シヤース」一本ヲ建テ後部傳馬船ノ積卸ニハ在來ノ「デリック」及ヒ「ダビット」ヲ使用セリ

一、彈藥庫ハ前後ノ船艙ヲ木材ニテ區別シ之ニ必要ノ設備ヲ爲セリ

一、本艦ノ定員(第十部第 八篇參照)外ニ艦隊附屬水雷敷設隊員ヲ本艦竝ニ臺南丸ニ分乗セシメラル、ユトニ豫定セラレ居ルヲ以テ將校及ヒ下士卒室等ニハ一二等船客室ヲ以テ之ニ充テ兵員室ニハ三等船客室ヲ在來ノ儘使用シ其ノ他乗組員ニ必要ナル諸設備ヲ爲セリ

一、艦隊補給用トシテ石炭ヲ前後部ノ船艙ニ積載シ淡水ヲ二重底内ニ積メリ而テ外舷ニ一個ノ給水入口金具及ヒ此ニ必要ノ蛇管ヲ具備セリ

一、水雷敷設隊ニ要スル兵器等ハ臺南丸ト分載ス

- 一、「フープ」甲板舵柄箇所ニ豫備操舵ノ裝置ヲ施セリ
- 一、信號旗ハ海圖室及ヒ其ノ附近ニ相當ノ函ヲ設ケ格納セリ
- 一、汽機室ト船橋間ニ電話管ヲ新設ス
- 一、糧食庫其ノ他諸倉庫ハ殆ト在來ノ儘ニテ使用セリ

搭載ノ彈藥、機械水雷及ヒ附屬具左ノ如シ

十二拇彈藥	四	百	發	(二門ニ付)
本艦用 彈藥類	四十七密彈藥	千	六	百
	小銃彈藥	一	萬	二
	拳銃彈藥	二	萬	八
	十二斤彈藥	二	千	四
艦隊附屬 敷設隊用 彈藥及ヒ	重四十七密彈藥	二	千	四
	輕四十七密彈藥	千	六	百
水雷	電氣機械水雷	百		個
	右同繫維器	百		個

其ノ後本艦ハ、特務艦隊ノ旗艦並ニ艦隊附屬港務部ノ乘艦トシテ必要ナル改造ヲ要スルコトト爲リ、三十八年一月二十二日佐世保海軍工廠ニ於テ工事ニ著手シ、三月七日ヲ以テ全部結了セリ、其ノ工事要領左ノ如シ、(附圖参照)

一、無線電信用柱

從來使用ノ無線電信用柱ハ三十七年六月根據地ニ於テ假設セシモノニシテ規定ノ長サヲ有セサルニ因リ延長工事ヲ施行シ同時ニ無線電信室ノ修理ヲ行ヘリ

一、小蒸氣船用「クラッチ」及ヒ「ビーム」

「クラッチ」ハ不完全ノ爲メ又「ビーム」ハ運送船横著ノ際障礙トナルニ因リ修理ヲ施行セリ

一、大櫓用檣燈

元來備附ナキニ因リ新ニ設置セリ

一、前後砲臺

從來設置ノモノハ脆弱ナルニ因リ補強工事ヲ施行セリ

一、病室

從來病室ノ設備無キヲ以テ必要ニ際シ船内ノ空室ヲ使用シ居リシカ實際上不便尠カラサル

ニ因リ新設セリ

一、郵便室

從來使用ノ室ハ假設ニシテ不完全且破損セシニ因リ修理ヲ施セリ

一、各主管者用倉庫

各附屬假裝砲艦等へ需品ヲ供給スヘキ旨達セラレタルニ因リ從來ノ倉庫ニテハ貯藏場所狹隘ノ爲メ修理ヲ施セリ

一、前後火藥庫内亞鉛鋅張り方

從來ノ構造ニテハ濕氣ヲ吸收シ易キヲ以テ亞鉛鋅ヲ張附セリ

一、前後火藥庫入口

從來ノ構造ニテハ狹隘ニシテ託送彈藥出納ニ際シ不便尠カラサルニ因リ擴張工事ヲ施セリ

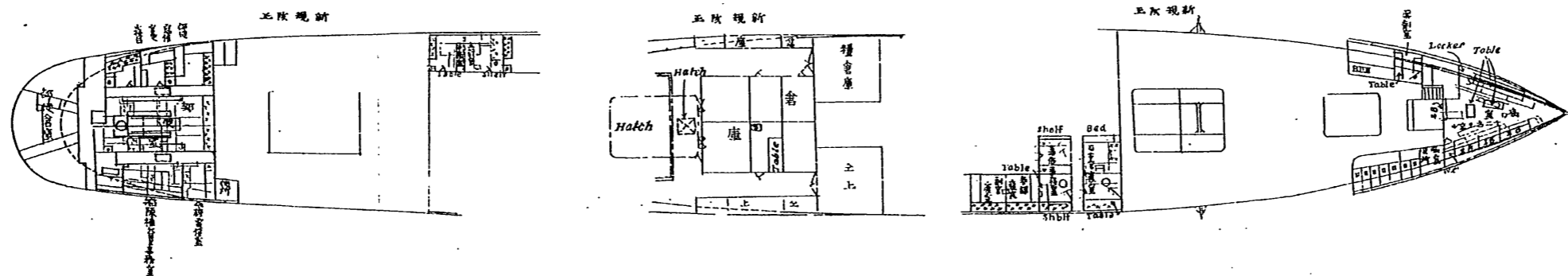
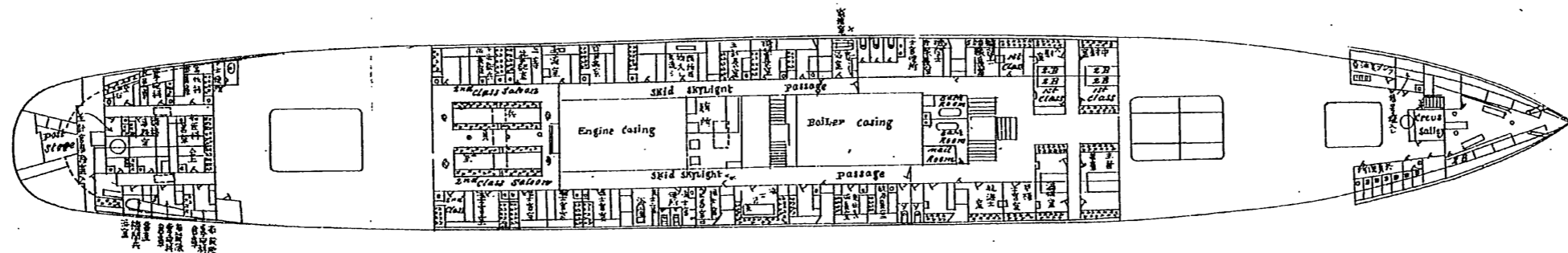
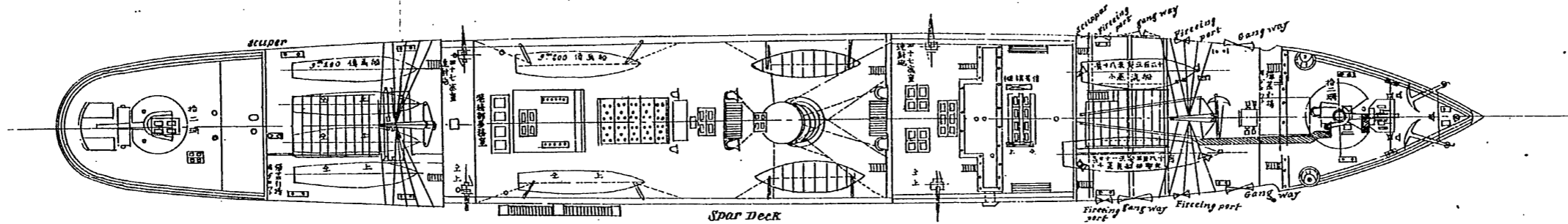
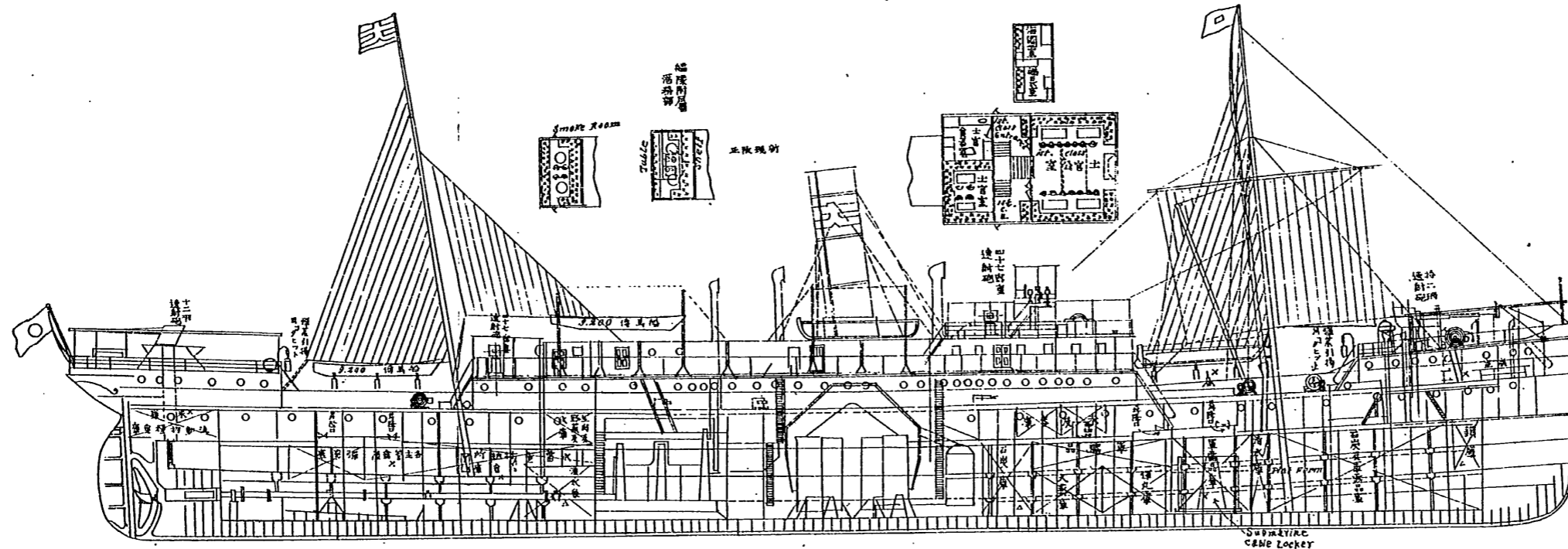
一、第一及ヒ第二小蒸氣船

開戰以來使用ノ爲メ破損尠カラサルニ因リ修理ヲ施行セリ

其ノ他海底電纜格納庫、電信室、司令官室、幕僚事務室等ヲ新設セリ、

臺中丸船内側面及上部並中甲板平面圖

縮尺三百八拾四分之二



注意

朱書工事施行ノ部ヲ示ス
 但シ△印ハ再東ノモノトス
 ×印ハ新規改正
 青線ハ取外シ

第二目 臺南丸

本船ハ、大阪商船株式會社所有汽船ニシテ、明治三十七年一月七日同會社ト借入契約濟ノ後吳軍港ニ回航シ、八日其ノ艤裝ニ著手シ、二十一日ヲ以テ全部結了セリ、其ノ工所要領左ノ如シ、

(附圖及ヒ章末
要目表參照)

一、安式十二拇速射砲ヲ船首竝ニ船尾樓ニ各一門宛、重四十七密速射砲四門ヲ船橋樓ノ前後兩舷ニ据附ケ何レモ發砲ニ堪ヘ得ヘキ裝置ヲ爲ス又兵員室內ニハ小銃四十挺、拳銃二十四挺ヲ備附ケタリ

一、上甲板前後部艙口上ニ「スキッドビーム」ヲ設ケ前部ニハ小蒸氣船二隻ヲ搭載シ後部ニハ傳馬船四隻ヲ搭載ス尙別ニ「オーニングデッキ」ニ在ル在來四隻ノ端舟ヲ取除キ其ノ跡ニ傳馬船二隻ヲ搭載セリ而テ前部ニハ小蒸氣船積卸ノ爲メ別ニ上甲板ニ「シャース」一本ヲ建テ後部傳馬船ノ積卸ニハ在來ノ「デリック」及ヒ「ダビット」ヲ使用セリ

一、彈藥庫ハ前後部ノ船艙ヲ木材ニテ區劃シ之ニ必要ノ諸設備ヲ爲セリ

一、本艦ノ定員外(第十部第
八篇參照)ニ艦隊附屬水雷敷設隊員ヲ本艦竝ニ臺中丸ニ分乗セシメラル、コトニ豫定セラレ居ルヲ以テ將校下士室等ニハ一二等船客室ヲ以テ之ニ充テ兵員室ニハ三等船客室ヲ在來ノ儘使用ス其ノ他乗組員ニ必要ナル諸設備ヲ爲セリ

一、艦隊附屬水雷敷設隊ニ要スル兵器等ハ臺中丸ト分載ス

一、艦隊補給用トシテ石炭ヲ前後部ノ船艙ニ積載シ淡水ヲ二重底内ニ積メリ而テ外舷ニ一個

ノ給水口金具及ヒ之ニ必要ノ蛇管ヲ具備セリ

一、「ブロー」甲板舵柄箇所ニ豫備操舵ノ装置ヲ施セリ

一、信號旗ハ海圖室及ヒ其ノ附近ニ相當ノ函ヲ設ケ格納セリ

一、汽機室ト船橋間ニ傳話管ヲ新設ス

一、糧食其ノ他諸倉庫ハ殆ト在來ノ儘ニテ使用セリ

本艦ニ搭載ノ彈藥及ヒ水雷等ハ左ノ如シ

十二擲彈藥 四百發宛

重四十七密彈藥 千六百發宛

小銃彈藥 一萬四千發

拳銃彈藥 二萬八千八百發

綿火藥 四百七十二筐

浮漂水雷 三十五個

觸發水雷 二十八個

尙三十七年四月二十二日海州邑碇泊中、工作船三池丸ニ於テ、發電機及ヒ探海燈ニ基据附工事ニ著手シ、二十九日竣工セリ、

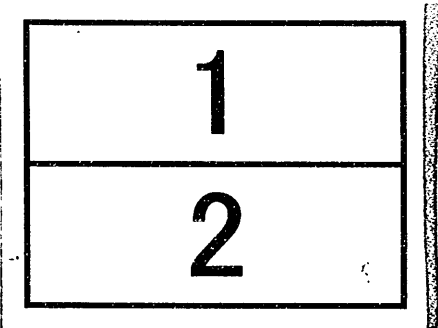
其ノ後三十八年二月九日機械水雷落下裝置及ヒ無線電信備附等ニ著手シ、三月十六日竣工セリ、其ノ工所要領左ノ如シ、(附圖參照)

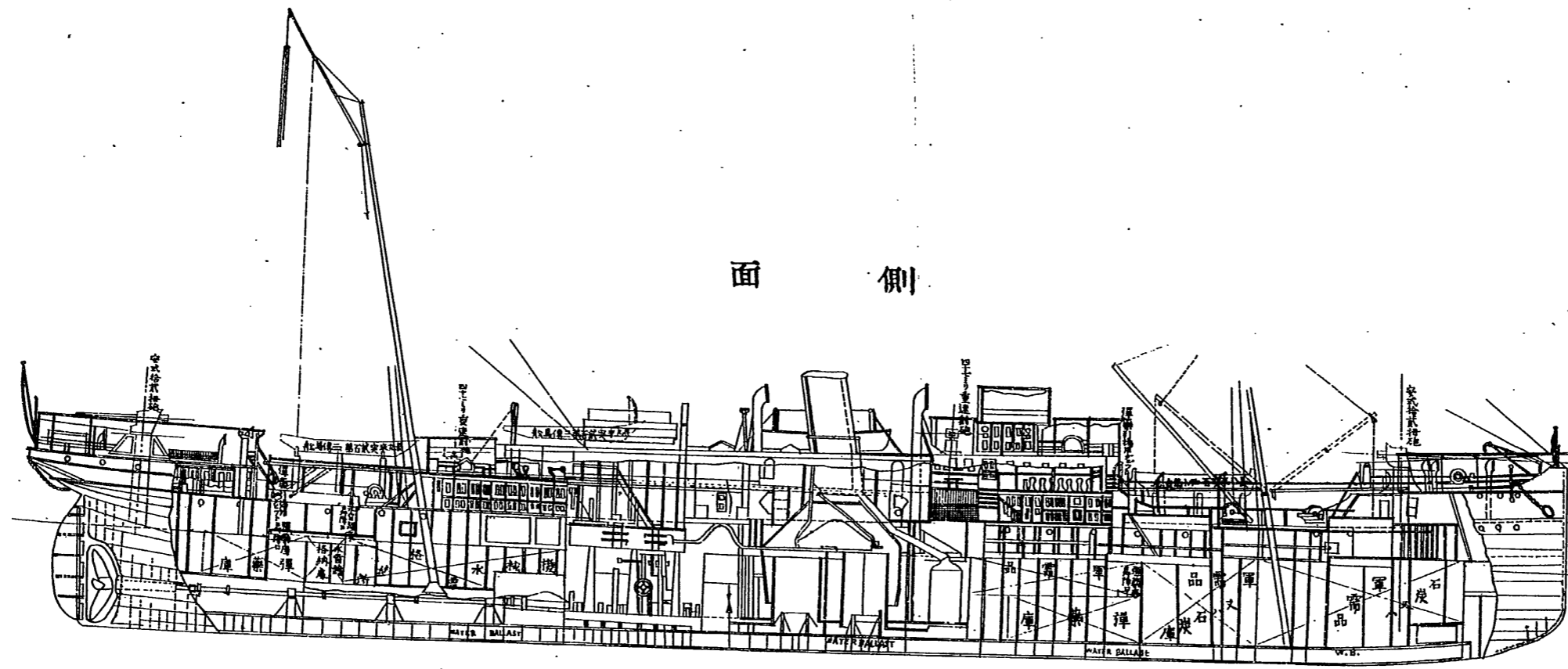
機械水雷落下装置ヲ施スカ爲メ船體中央部兩舷ニ「レール」ヲ取附ケ水雷及ヒ錘量ヲ片舷ニ二十九個宛弔下ケ得ル様ニ爲シ其ノ後端ニハ斜ニ舷外ニ突出セシメテ落下セシムル装置ト爲ス之カ爲メ第四船艙上兩舷ノ舷牆鈹ヲ長サ約四米突切り除キ舷牆鈹ニ蝶番ヲ取附ケテ開閉スルノ装置ト爲ス

無線電信備附ノ爲メ後檣現在ノモノニ長サ三十五呎ノ「ガーフ」ヲ備附ケ電信室ハ後部上甲板士官室ヲ改造シテ之ニ充ツ

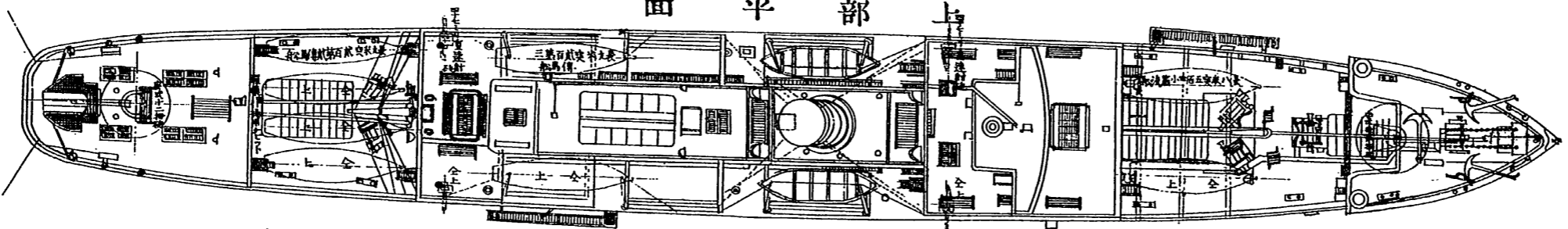
從來石炭庫ト爲シ居リタル第四船艙ヲ機械水雷格納所ト爲ス

分割撮影ターゲット

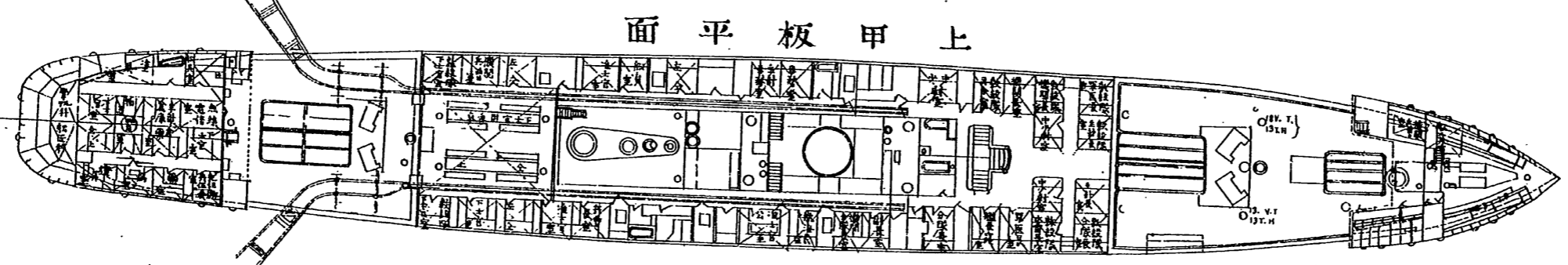
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



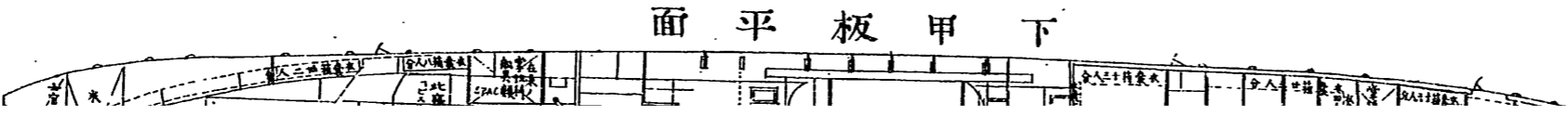
側面



上部甲板平面



上部甲板平面



下部甲板平面

臺南丸船内側面及上中下甲板平面圖

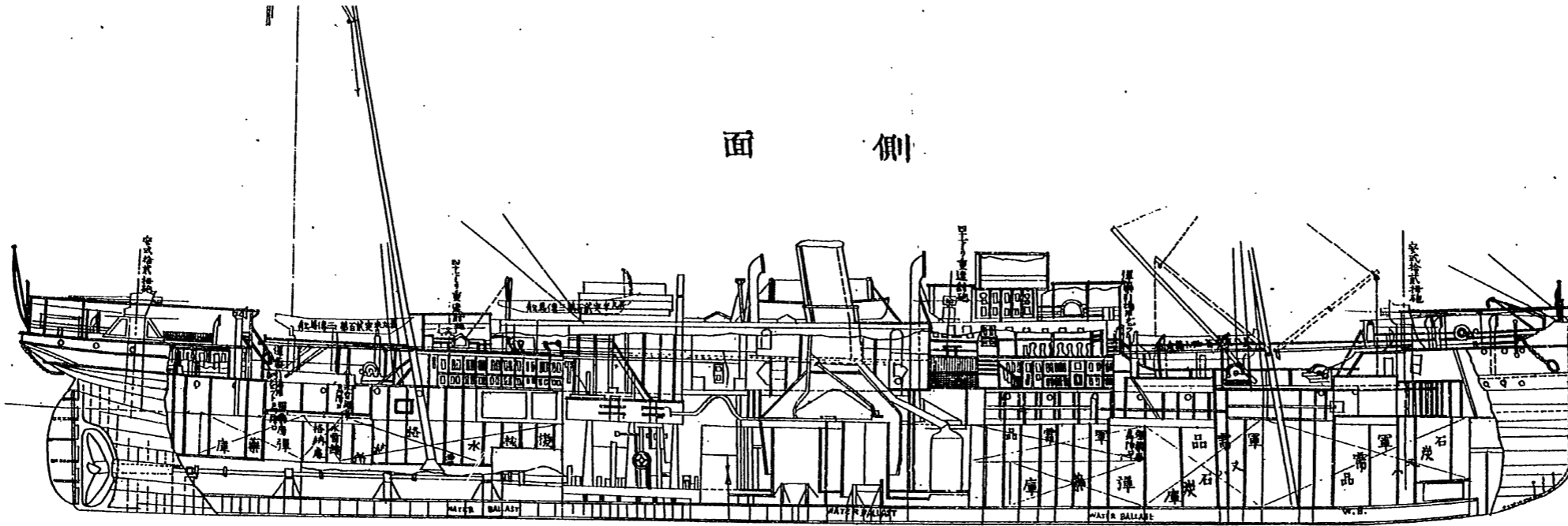
注意、朱書ハ工事施行

臺南丸船内側面及上中下甲板平面圖

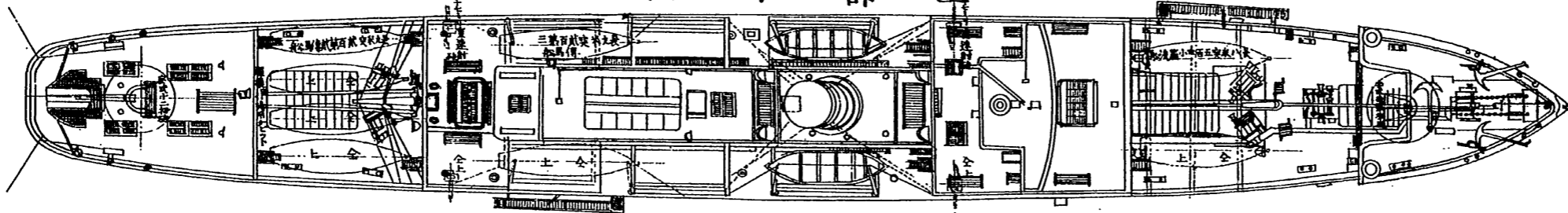
縮尺參百八拾四分之壹

注意、朱書ハ工事施行ノ部ヲ示ス

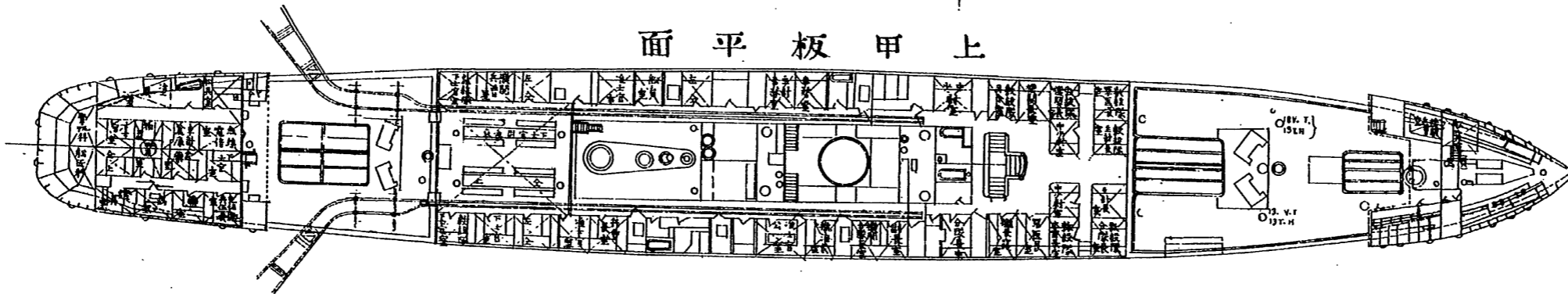
側面



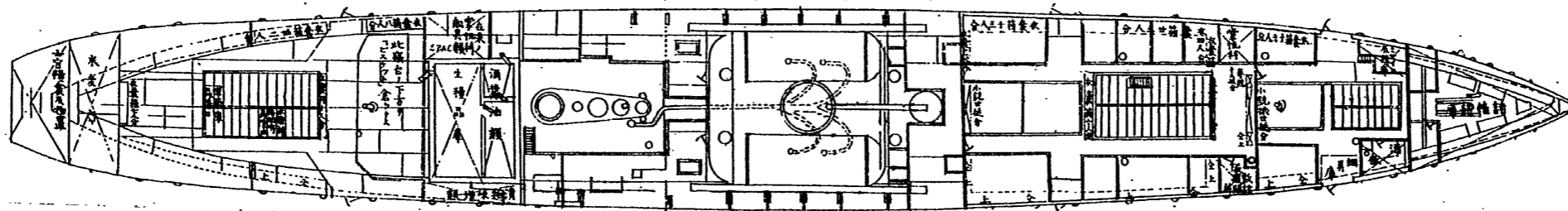
上部平面



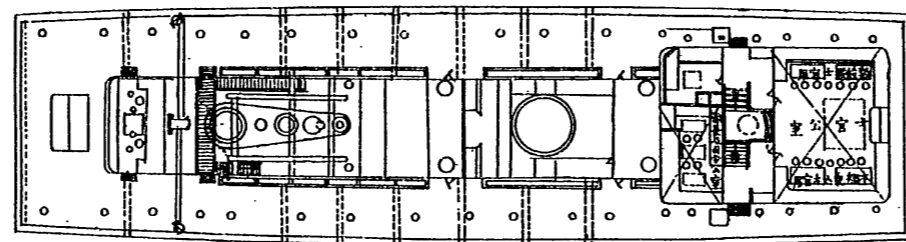
上部甲板平面



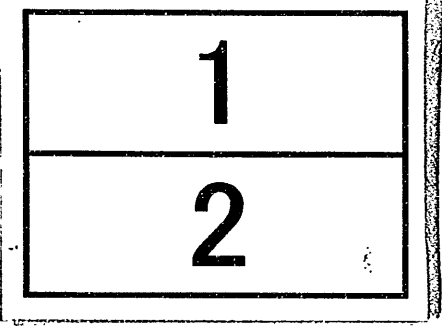
下部甲板平面



最上甲板平面

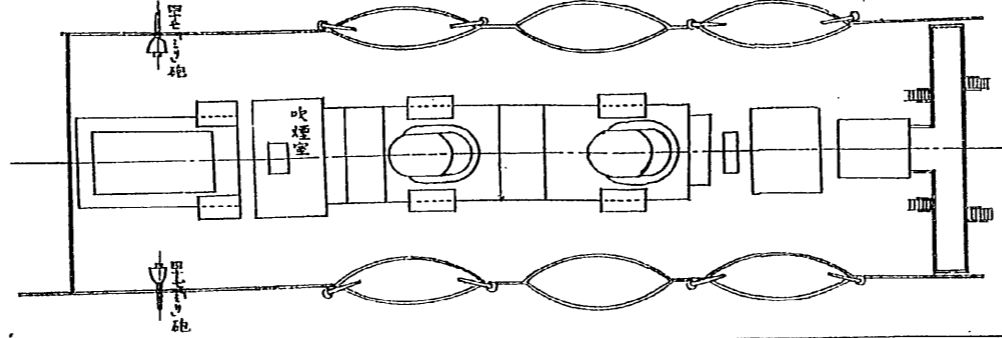
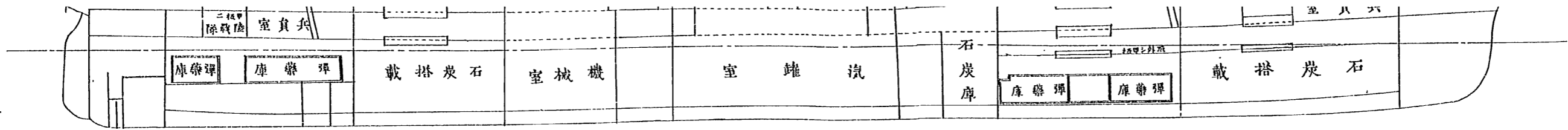


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

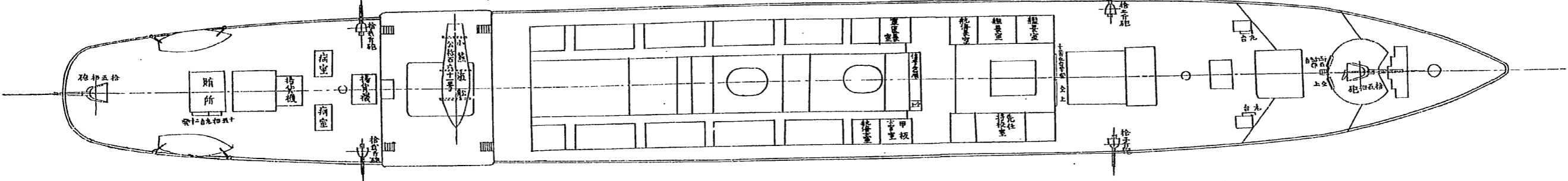
巡洋艦香港丸兵装及艦装圖

縮尺參百八拾四分之壹
朱線ハ新設及改造ノモノヲ示ス

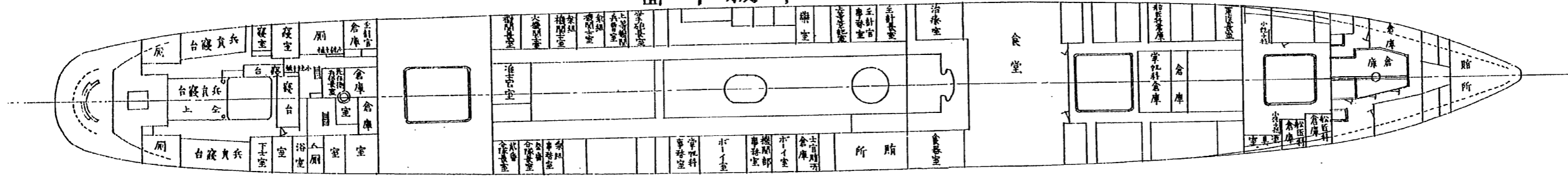


面平プープ

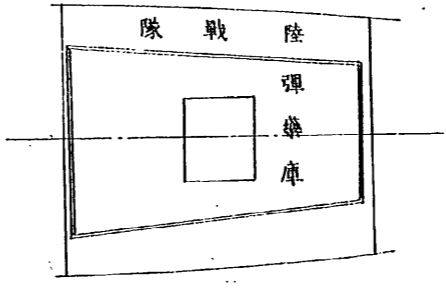
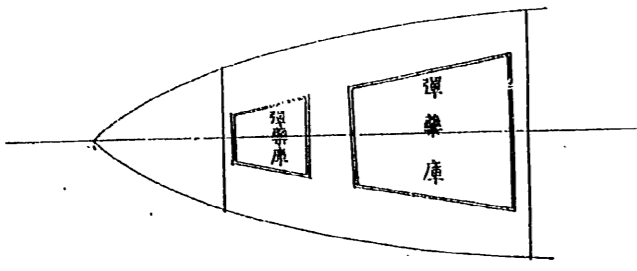
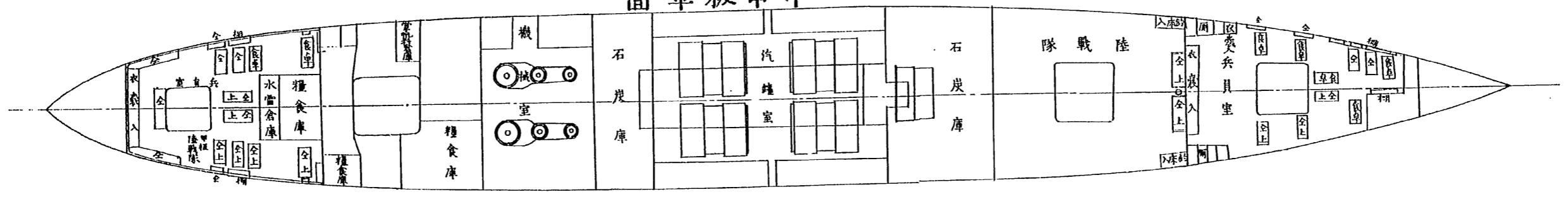
面平ルスクツホ



面平甲板



面平甲板中



第三目 香港丸、日本丸及ヒ亞米利加丸

香港丸外二隻ハ、共ニ東洋汽船株式會社ノ所有ニ係ル同型汽船ニシテ、香港丸ハ明治三十七年一月十九日、日本丸ハ同二十三日同會社ト借入契約濟ノ後横須賀軍港ニ回航シ、何レモ一月二十五日艤裝工事ニ著手シ、二月二十五日全部完成セリ、亞米利加丸ハ二月十二日借入契約濟ノ後、前二隻ト共ニ艤裝工事ニ著手セシカ、工事中偶火災ヲ起シ、豫定ノ期日ニ竣工シ能ハサルニ因リ、三月二十四日解傭セリ、然ルニ、其ノ後戦局ノ發展ニ伴ヒ、再必要ニ迫リタルヲ以テ、十二月十日更ニ同會社ト借入契約ヲ爲シ、十二日艤裝ニ著手シ、二十八年二月十日全部竣工セリ、以上三隻ヲ假裝巡洋艦ト爲スカ爲メ、船體各部ニ施スヘキ新設、改造ノ要領及ヒ其ノ方法左ノ如シ、(附圖及ヒ章末要目表並ニ備考文書第三號参照)

一、各艦ニ左ノ人員ヲ乗組マシム

准士官以上	十九名
下士	三十一名
卒	百二十三名
傭人	六名
合計	百七十九名

新設竝ニ改造方法

一、安式十五拇速射砲一門ヲ最上甲板前部ニ据附クルカ爲メ施行スヘキ工事左ノ如シ、船首樓上圖面ニ示ス位置ニ適當ナル「ガンサッポート」ヲ新設シ十五拇砲一門ヲ据附クル

ノトス面テ該砲臺ハ前部ニ「ウインドラス」アルヲ以テ砲口ハ全ク此ノ障礙物ヲ避テ得ル丈
 ケ其ノ高度ヲ高メ砲員ノ動作ニ便ナルカ爲メ周圍ニ圓形ノ「プラットフォーム」ヲ新設スルヲ
 要ス又該甲板ニハ鋼板張布シナキヲ以テ相當ノ鋼板ヲ張布シ適當ナル「スチフネス」ヲ保タ
 シムルヲ要ス

砲臺新設ニ際シ之ニ關聯セル工事ハ左ノ如シ

- 一、通風管一個ヲ取除クコト
 - 一、兩舷ニ取附ケアル舷燈臺二個ヲ取除クコト
 - 一、「フオーアマストステア」ノ位置ヲ變更スルコト
 - 一、「ウインドラス」ニ通スル「スチムパイプ」ノ一部ヲ改造スルコト
 - 一、上甲板ニ在ル水夫室寢臺ノ一部分ヲ取除クコト
 - 一、安式十五拇速射砲一門ヲ船尾樓ニ据附ケテ爲メ施行スベキ工事左ノ如シ
- 該砲ノ位置ニハ圖ニ示スカ如ク船尾ニシテ該甲板ノ下部ハ操舵機室ナルヲ以テ十分ナル
 「ガンサップポート」ヲ作ルコト能ハス故ニ甲板「ピーム」ト「ガントフレーム」トニ適當ナル鋼
 板ヲ以テ「ガーダー」及ヒ「ブラケット」ヲ固著シ十分ナル「スチフネス」ヲ保タシメ又此ノ
 甲板ニハ鋼板ノ張布無キヲ以テ必要ナル部分ニハ鋼板ヲ張布スルモノトス
- 砲臺新設ニ際シ之ニ關聯セル工事ハ左ノ如シ
- 一、後部船橋ヲ取拂フコト

一、砲ノ旋回角度内ニ在ル「ハンドレール」ハ發射ニ差支ナキ様其ノ上部ヲ切り取ルコト

一、砲臺下部ニ支柱ヲ設クルコト

一、船尾旗竿ヲ取除クコト

一、船尾ノ「ケブスタンエンジン」ヲ取除クコト(亞米利加丸ニ限ル)

一、十二斤速射砲四門ヲ最上甲板前部及ヒ船尾樓兩舷ニ据附ケノ爲メ實施スヘキ工事左ノ如シ

圖面ノ如ク前部兩舷ニ二門及ヒ後部兩舷ニ二門ヲ据附ク而テ其ノ下部ニハ適當ナル加強材ヲ取附ケ十分堅固ニ構造スルモノトス

一、各砲臺共舷側ノ「ハンドレール」ハ砲ノ發射ニ差支ナキ様其ノ上部ヲ切り取ルコト

一、四十七密重速射砲二門ヲ「ブリッチデッキ」後部兩舷ニ据附ケノ爲メ施行スヘキ工事左ノ如シ
該甲板ハ薄弱ナルヲ以テ砲臺ニ充ツ可キ部分ハ甲板最下部ニ鋼板ヲ張布シ其ノ中間ニ木材ヲ挿入シ鋼板ハ山形鋼ヲ以テ「ケビンバルクヘッド」ニ固著スルモノトス

砲臺新設ニ際シ之ニ關聯セル工事ハ左ノ如シ

一、砲臺位置ニ在ル兩舷端舟二隻及ヒ附屬ノ「ダビット」等ハ之ヲ取除クコト

一、砲臺附近ノ「ハンドレール」ハ砲ノ發射ニ差支ナキ様其ノ上部ヲ切り取ルコト

一、小銃及ヒ拳銃架ノ新設

圖面ニ示ス如ク各室内ニ前項記載ノ定數ニ對スル銃架ヲ新設スルヲ要ス

一、彈藥庫新設

彈藥庫ハ圖面ノ如ク前後兩部ニ分チ左記ノ定數ヲ搭載シ得ルノ容積ヲ保タシメ第二船艙内ニ設置スルモノトス而テ其ノ搭載數量區別及ヒ構造ハ左ノ如シ

前部彈藥庫格納數

本艦備砲用

安式十五拇速射砲	彈丸	二百個
十二斤速射砲	火藥	六百個

安式十五拇速射砲彈丸筐	六個	入	二百函	(千二百個)
-------------	----	---	-----	--------

安式十五拇速射砲	彈丸	八十個
安式十二斤速射砲	火藥	八十個

安式十五拇速射砲	彈丸	八十個	入	八十函	(八百個)
安式十二斤速射砲	火藥	八十個	入	八十函	(二千四百個)

四十七密重速射砲彈藥筐	八發	入	三百函	二千四百發
-------------	----	---	-----	-------

四十七密輕速射砲彈藥筐	二十四發	入	八十函	千九百二十發
-------------	------	---	-----	--------

後部彈藥庫格納數

安式十五拇速射砲	彈丸	二百個
十二斤速射砲	火藥	六百個

安式十五拇速射砲	彈丸	二百個	入	二百函	(八百發)
----------	----	-----	---	-----	-------

四十七密重速射砲彈藥筐	八發	入	百函	(八百發)
-------------	----	---	----	-------

小銃	彈藥	八百四十發	入	十五函	(一萬二千六百發)
----	----	-------	---	-----	-----------

小銃	空包藥	千二百六十發	三函	三千七百八十發
----	-----	--------	----	---------

艦艇補給用

伊集院信管 第一號 第二號
二十五個入 二百四十個入 (二千四百個)
二十個入 百八十個 (三千六百個)

一、彈藥庫構造

前部彈藥庫ハ第二船艙内ニ設ケ内部ノ寸法ハ幅前端二十五呎後端三十五呎八吋長サ五十呎十吋高サ九呎トス而テ庫内中央ニハ縦ニ仕切リヲ設ケ右舷ニ補給用彈藥ヲ左舷ニ補給用及ヒ本艦用ノ彈藥ヲ搭載スルモノトス又庫ノ中央ニ長サ八呎十吋幅十六呎二吋ノ彈藥供給所ヲ設ケ之ヨリ各庫ニ四箇所ノ出入口ヲ新設スルモノトス

後部彈藥庫ハ第四船艙内ニ分設シ其ノ内部ノ寸法ハ前庫ハ前端二十八呎六吋後端十八呎七吋長サ二十八呎三吋高サ九呎ト爲シ後庫ハ幅前端十五呎七吋後端九呎長サ十四呎六吋ニシテ高サ九呎ト爲スモノトス而テ前後兩庫間ニ約七呎六吋ノ間隙ヲ置キ之ヲ彈藥供給所ト爲シ之ヨリ前庫ニ二箇所ノ出入口ヲ又後庫ニ一箇所ノ出入口ヲ設クルモノトス彈藥庫ハ何レモ厚サ約一時半ノ木板二枚ヲ合セ其ノ中間ニ「フランネル」ヲ挿入シ外側ハ薄キ亞鉛板ヲ張布シ庫内ノ濕氣及ヒ庫外ノ發火ヲ防止スルモノトス而テ補給用彈藥庫ニシテ重キ彈藥筐ヲ搭載スヘキ部分ニハ特ニ天井裏適宜ノ位置ニ「アイポール」ヲ取附ケ以テ彈藥揚卸ニ便ナラシム

一、庫燈備附ノユト

前部彈藥庫ハ彈藥供給所ノ前後兩壁ニ二個宛又左右兩舷側壁ニ二個宛合計八個ノ庫燈ヲ設

後部彈藥庫ハ前庫ノ前端壁ニ一個後端壁ニ二個及ヒ右舷ニ一個合計四個ノ庫燈ヲ又後庫ニ在リテハ前端壁ニ一個ノ庫燈ヲ備附クルモノトス而テ庫燈ノ外面ハ薄キ鐵板ヲ以テ製造シ内部ニ備附クヘキ「ランプ」ハ需品庫ノ有合セ品ヲ使用スルモノトス故ニ外圍ノ大サハ其ノ際適宜之ヲ定ムルモノトス

一、庫内ニ通風裝置ヲ設クルコト

前部彈藥庫ハ其ノ兩側ニ一個宛ノ空氣入ヲ設ケ又天井ニ六個ノ空氣拔ヲ設クルモノトス又後部彈藥庫ハ前部ノ兩側ニ二個ノ空氣入及ヒ其ノ天井ニ四個ノ空氣拔ヲ又後庫ニハ一個ノ空氣入及ヒ一個ノ空氣拔ヲ設クルモノトス而テ其ノ管ハ何レモ木製角形ニシテ適宜之ヲ裝備スルモノトス

一、庫内注水裝置ヲ設クルコト左ノ如シ

第一 入渠ノ際ニ於ル注水裝置

前後トモ彈藥庫附近ノ船底適宜ノ位置ニ直徑約五吋ノ海水注入弁ヲ裝備シ其ヨリ適宜各庫ニ同徑管ヲ導キ又必要ノ箇所ニ嘴及ヒ弁ヲ新設シ以テ注水ノ便ニ供スルモノトス而テ弁棒ハ中甲板迄之ヲ引キ延ハシ該甲板ニ於テ自由ニ開閉シ得ルノ裝置ヲ設クルモノトス

第二 碇泊及ヒ航海中ニ於ル注水裝置

汽罐室若クハ機械室ニ在ル「キングストンバルブ」ヨリ各「ウォータージャストタンク」ニ通スル水管ニ支管ヲ設ケ適宜各庫ニ導キ以テ注水ノ用ニ供スルモノトス

一、庫内排水装置ノ準備

適當ナル移動唧筒一臺ヲ備附ケ蛇管ニヨリ適宜排水ヲ爲ス

一、彈丸臺新設ノコト

前後十五拇砲及ヒ十二斤砲ノ附近適宜ノ位置ニ各砲一門ニ對シ二十個乃至三十個ノ彈丸臺ヲ新設スルコト

一、砲具格納所ヲ設クルコト

各砲ノ附近適宜ノ位置ニ砲具格納所ヲ設クルコト

一、小蒸氣船一隻ヲ搭載スルコト

圖面ニ示ス位置ニ小蒸氣船一隻ヲ搭載スルノ設備ヲ爲スコト左ノ如シ

甲 揚卸用「 Derrick 」及ヒ附屬具ノ設備

圖面ニ示ス位置ニ小蒸氣船揚卸用ノ木製「 Derrick 」長サ約四十呎最大徑十七吋ノモノ一個及ヒ之ニ附屬スル諸金具竝ニ綱具等ノ裝備ヲ爲スコト

乙 小蒸氣船受臺新設

上甲板後部圖面ノ位置ニ小蒸氣船ヲ支持スルニ適當ナル受臺及ヒ動搖止具等ノ設備ヲ爲スコト

丙 日本丸ニ限リ左ノ改造ヲ行フコト

上甲板ニ小蒸氣船裝備ノ爲メ船尾樓昇降梯子ノ位置ヲ變更シ船尾樓ト同高ニ幅約二呎ノ

「プラットフォーム」ヲ新設スルヲ要ス

一、傳馬船一隻ヲ各艦ニ搭載スルコト

適宜ノ位置ニ傳馬船ヲ搭載シ之ニ必要ナル附屬具ノ裝備ヲ爲スモノトス

一、兵員室ノ新設

圖面ニ示ス如ク上甲板後部及ヒ中甲板前後部ノ三室ヲ兵員室ト爲シ乗組下士卒及ヒ傭人百六十名ノ起居ニ必要ナル規定諸具ノ裝備ヲ爲スコト左ノ如シ

甲 食卓腰掛ノ新設

食卓及ヒ腰掛ハ何レモ簡單ナル木製ニシテ一脚ニ就キ八名乃至十二名分ノ用ニ供スル丈クノ寸法ヲ保タシムルモノトス

乙 衣囊棚ノ設備

衣囊棚ハ薄キ木板製ニシテ之ヲ三室ニ分チ各乗組員ニ對スル衣囊ヲ格納シ得ルノ裝置ト爲ス

丙 「ハンモックフック」新設

「フック」ハ鐵製亜鉛鍍ニシテ兵員室内ニ配置ス而テ其ノ取附ハ可成甲板梁ニ穿孔セス

「ビーム」ノ「バルブ」ニ挾保セシムルモノトス

丁 釣床入ノ設備

木製ニシテ圖面ノ位置ニ設ケ全乗組員ノ釣床ヲ格納シ得ル如クス

戊 食器棚、手箱、帽子棚及ヒ合羽棚等新設

此等ハ木製ニシテ何レモ食卓附近ニ設備スルヲ要ス

一、傳話管ノ新設

左ノ箇所ニ内徑一吋二分ノ一乃至二吋ノ銅管ヲ以テ傳話管ノ新設ヲ要ス

前部艦橋ヨリ

前後十五拇砲ニ至ル

同

前後十二斤砲ニ至ル

同

機械室ニ至ル

同

操舵室ニ至ル

前部最上甲板ヨリ

前部彈藥庫ニ至ル

船尾樓甲板ヨリ

後部彈藥庫ニ至ル

一、「シグナルヤード」新設

前檣ニ長サ約二十五呎ノ木製信號桁一本及ヒ之ニ附屬スル綱具ノ設備ヲ爲スコト

一、「ガーフ」

後檣ニ長サ約十三呎ノ木製若クハ鐵圓棒製ノ「ガーフ」一個ヲ新設シ之ニ必要ナル綱具ノ設

備ヲ爲スコト

一、信號旗格納所ノ新設

「ブリッジ」附近信號取扱ニ便利ナル箇所ヲ選ヒ信號旗格納所ヲ設ケ且旗架ヲ造ルコト

一、准士官以上各寢室ノ設備

士官、准士官ノ寢室ニハ客室ヲ充テ別ニ新設及ヒ改造ヲ施サス

一、諸倉庫ノ準備

本船ハ何レノ部分ニ於テモ容積十分ナルヲ以テ別ニ新設若クハ改造ヲ施サス適宜ノ箇所ヲ以テ之ニ充ツルコト、ス

一、羅鍼儀臺ノ新設

前部船橋海圖室上ニ羅鍼儀一基ヲ裝備スルヲ以テ其ノ周圍ニ木製手摺ノ新設ヲ要ス

一、艦艇補給用石炭ノ搭載

第一船艙及ヒ第三船艙内ニ艦艇補給用石炭ヲ搭載スルノ設備ヲ爲スモノトス

一、防水蓆ノ裝設準備

防水蓆ノ使用ニ關スル附屬索具類ノ準備ヲ爲スコト

一、舷窓ニ遮光裝置ヲ設クルコト

各舷窓ヲ被覆シ得ル寸法ニ於テ地質適宜ニシテ光線ノ透入セサル黒色布ヲ舷窓各個ニ一枚宛準備スルコト

一、賄所改造

日本丸ニ限り船尾樓上ニアル賄所ヲ擴張スルヲ要ス

一、船底塗替ヲ施行ス

一、諸「テークル」ノ設備

「ボルトン」「ラフテークル」「ジッガー」等ノ設備ヲ爲スコト

一、清水取入及ヒ同配給装置

各艦トモ右ニ對スル管装置ヲ新設スルコト

以上艤裝工事ノ外香港丸ハ、三十七年一月二十日兵裝工事ニ著手シ、二月十二日竣工シ、日本丸ハ同年一月二十四日兵裝ニ著手シ、二月十四日ヲ以テ全部結了セリ、即チ左ノ如シ、

安式十五拇速射砲 二 門

安式十二斤速射砲 四 門

香港丸 四十七密山内重速射砲 二 門

白熱電燈増備

發電機 二 臺

安式十五拇速射砲 二 門

安式十二斤速射砲 四 門

日本丸 四十七密速射砲 二 門

揚彈用「ダビット」取附

電氣手旗及ヒ桁端速力信號燈ニ組宛取附

其ノ後日本丸ハ、任務上ノ必要ニ依リ、探海電燈ニ基竝ニ發電機ニ臺ノ裝備ヲ要セシテ以テ、

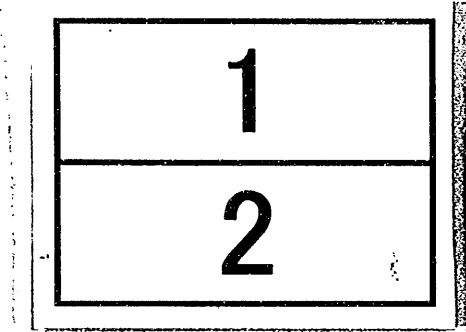
當時東京灣口防禦ニ從事セシ第二及ヒ第四震天ニ裝備シアリシモノヲ轉裝スルコト、爲リ、三十七年四月十三日横須賀工廠ニ於テ其ノ工事ニ著手シ、二十三日全部竣工セリ、尙同期間ニ於テ、無線電信機一組ヲ裝備セリ、

香港丸ハ、三十八年三月十日無線電信機竝ニ探海電燈(六十)据附ニ著手シ、二十八日竣工セリ、亞米利加丸ハ、三十七年二月十五日兵裝工事ニ著手セシカ、幾何モ無ク解備ノ命ニ接セシヲ以テ、直ニ復舊工事ニ著手シ、二十八日全部結了セリ、

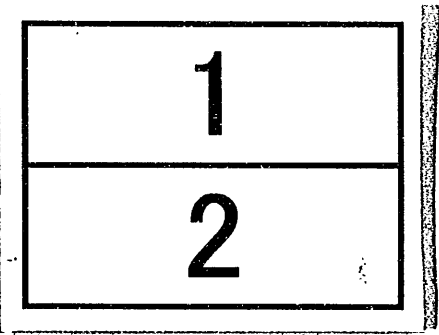
尋テ三十七年十二月再借入使用ノコト、爲リタルヲ以テ、三十八年一月二十四日兵裝工事ニ著手シ、二月十四日全部竣工セリ、即チ左ノ如シ、

- | | | |
|---------------------------|---|----|
| 安式十五拇速射砲 | 二 | 門 |
| 安式十二斤速射砲 | 四 | 門 |
| 四十七密重速射砲 | 二 | 門 |
| 無線電信機 <small>(單裝)</small> | 一 | 組 |
| 六十拇探海電燈 | 一 | 基 |
| 距離測定儀 | 一 | 個 |
| 壓搾唧筒及ヒ分離器 | 一 | 基宛 |
| 無線電信室及ヒ海圖室ニ電話器取附 | | |
| 桁端速力信號燈及ヒ電氣手旗用電路ノ敷設 | | |

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

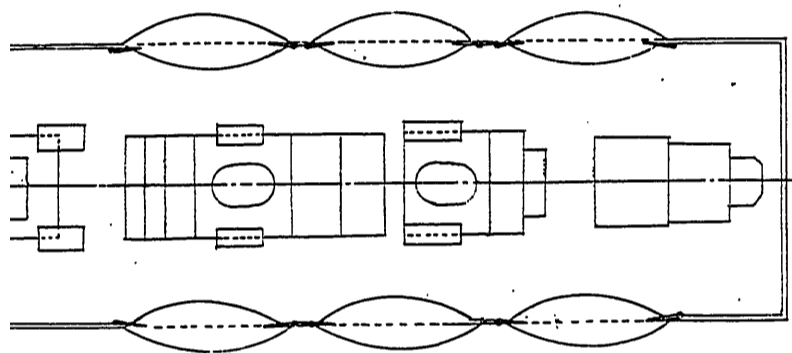
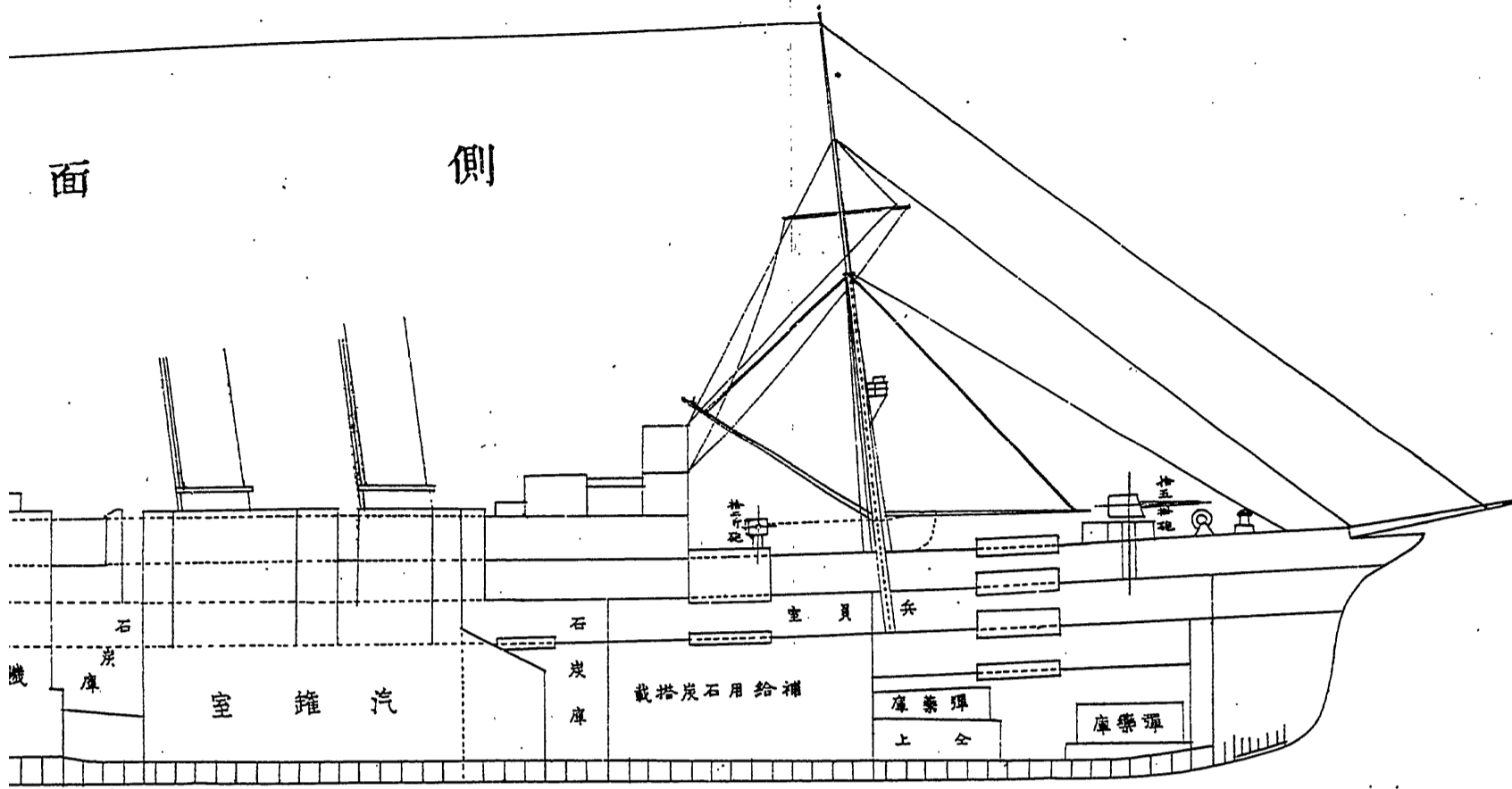
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

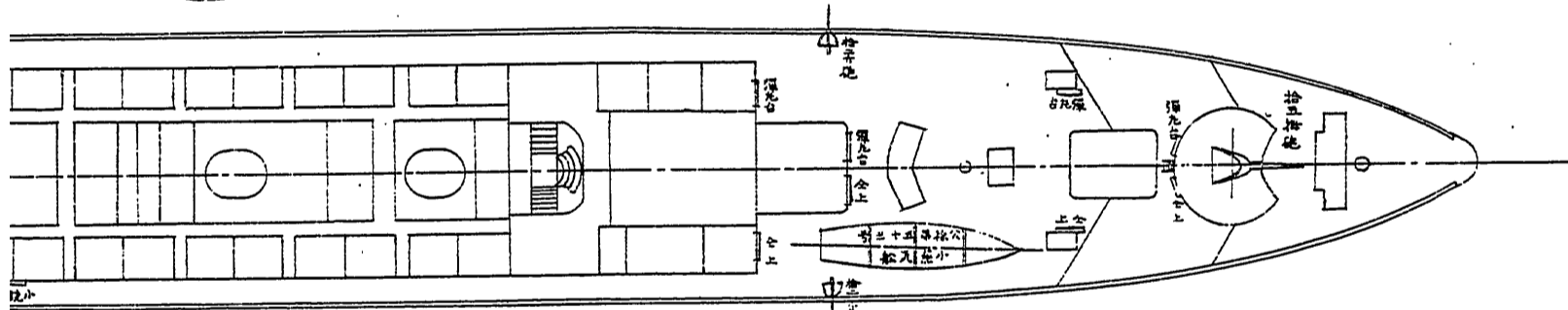
假裝巡洋艦亞米利加丸兵裝及艙裝圖

縮尺三百八拾四分之一

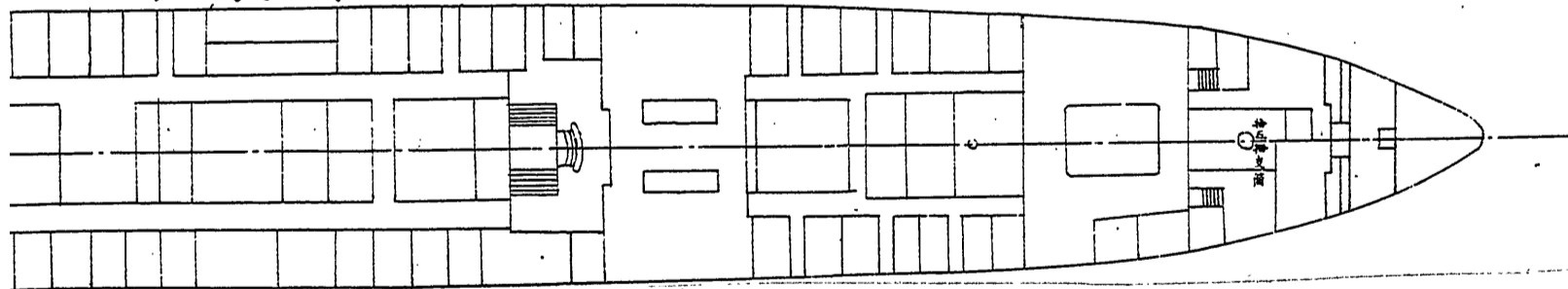
朱線ハ新設及改造ノモノヲ示ス



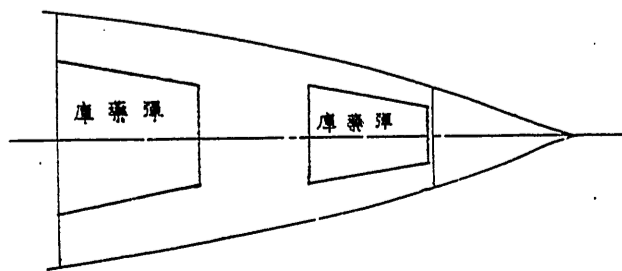
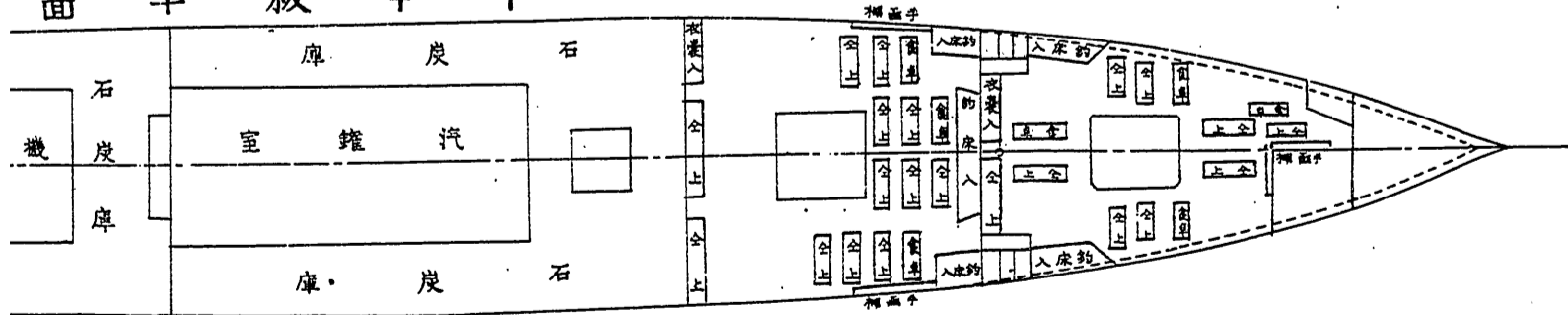
最上甲板平面圖

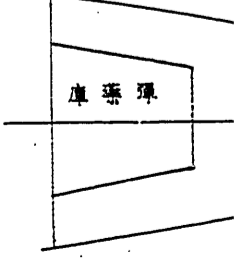
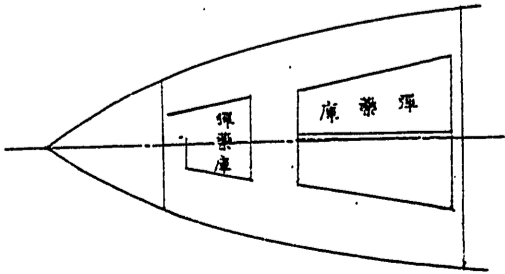
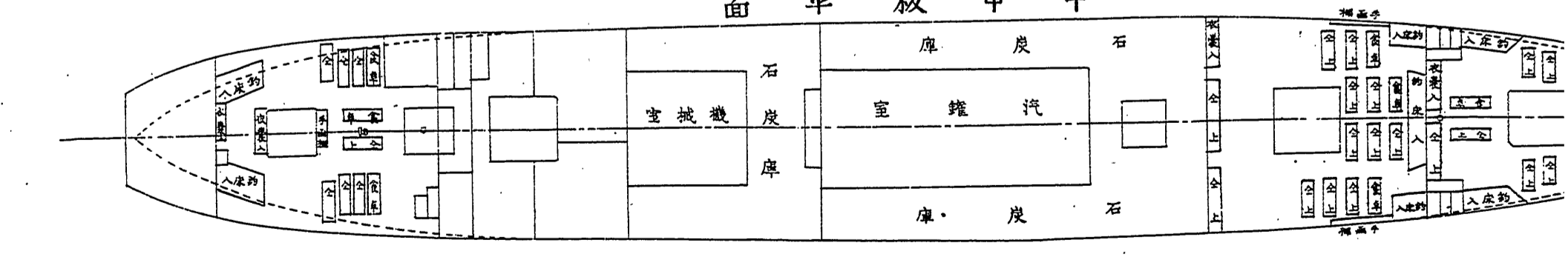
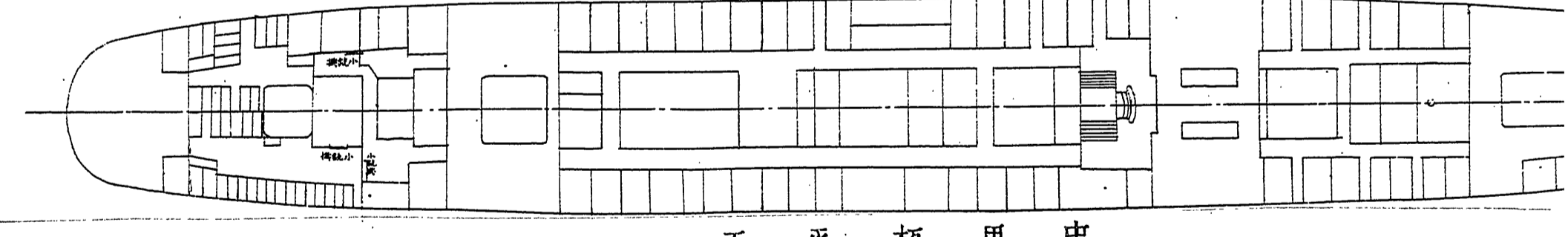
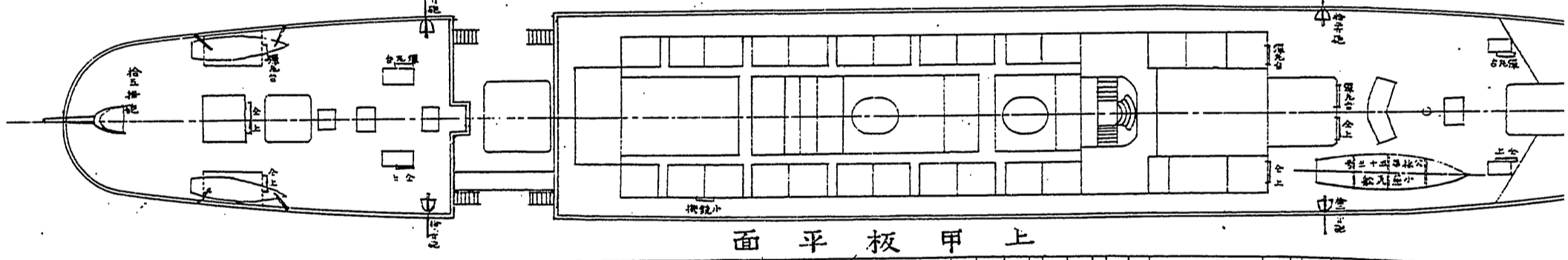
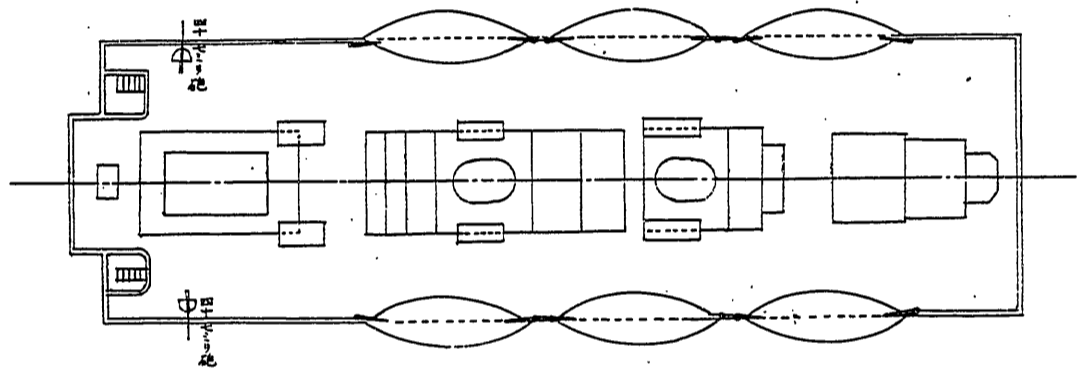
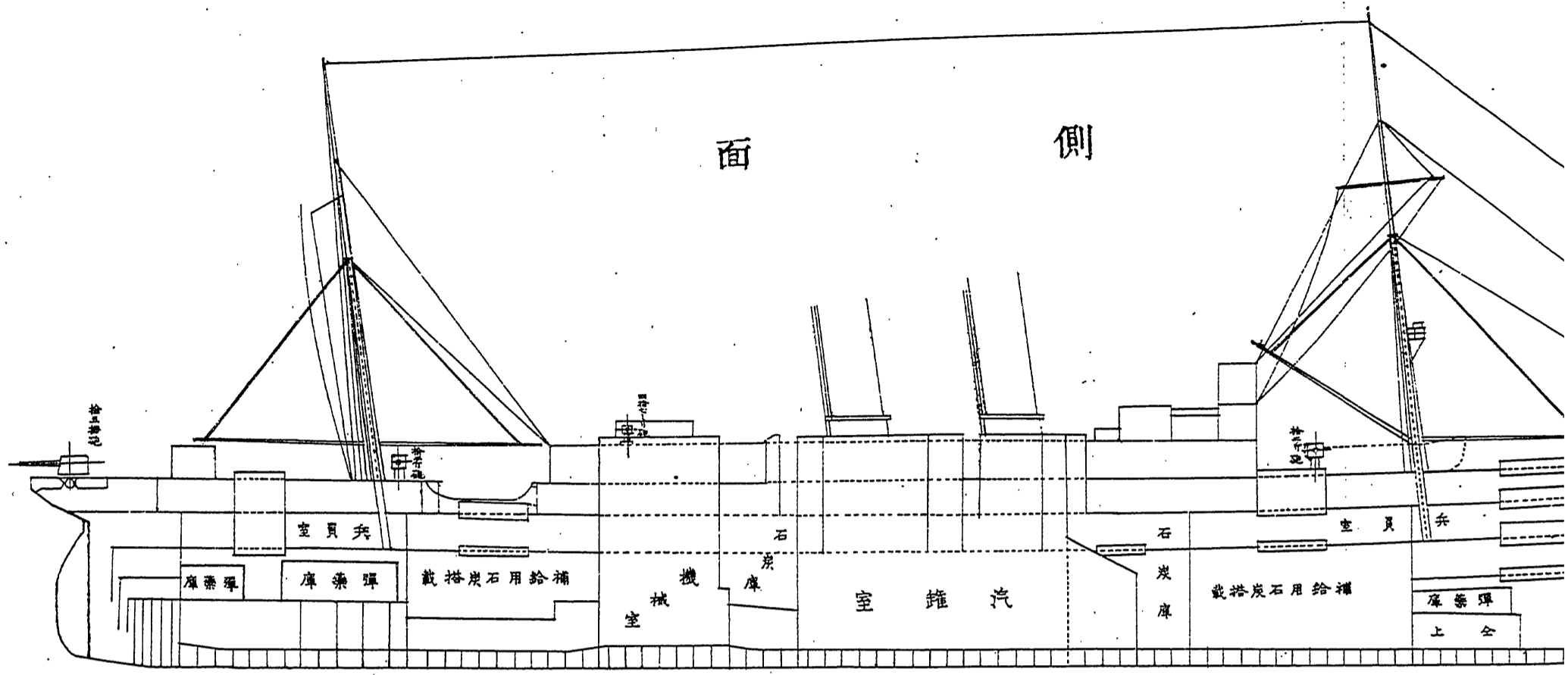


最上甲板平面圖



中甲板平面圖





第四目 八幡丸

本船ハ、日本郵船株式會社所有汽船ニシテ、明治三十七年十二月二十四日同會社ト借入契約濟
ノ後、二十七日吳軍港ニ回航セシメシモ、神戸川崎造船所ニ於テ艤裝工事施行ノ事ト爲リタル
ヲ以テ、三十一日神戸港ニ回航シ、三十八年一月二日同工事ニ著手シ、二十五日全部終了セリ、
其ノ工事要領左ノ如シ、(附圖並ニ章末
要目表參照)

一、「ゲルンフオークスル」ノ後端及ヒ「プープ」中等船客談話室ヲ撤シテ露式六尹砲座並ニ
支柱新設

一、艦橋甲板ノ前端左右舷ハ共ニ下甲板ノ直下ニ「ビーム」及ヒ「ステア」ヲ挿入シテ甲板ヲ強
メ安式十二斤速射砲座ヲ造ル

一、「プープ」ノ前端ハ左右舷共ニ前項ニ同シク安式十二斤速射砲座ヲ造ル

一、「サルーンデッキ」ノ中央左右舷ハ共ニ前項ニ同シク改造シテ保式四十七密砲座ト爲ス

一、第二「ホールド」並ニ第五「ホールド」内ニ彈藥庫ヲ新設ス

一、「プープ」上ノ病室ヲ改造シテ無線電信室ト爲シ其ノ内部ニ電話室ヲ設ク

一、第一「ツウインデッキ」下等船客ノ寢棚ヲ改造シテ兵員室ニ充テ寢臺ニ一人宛ノ區劃ノ板
ヲ設ケ百三人ヲ入ル、コトヲ得又寢臺上ニ舷ニ接シテ手箱棚並ニ食器棚ヲ新設ス

一、兵員衣囊棚三基ヲ新設シ第二「ツウインデッキ」ニ据附ク

一、兵員室「ハッチ」一個新設

- 一、小蒸氣船揚卸用トシテ七噸耐力ノ木製「デリック」ヲ前檣ニ設ク
 - 一、「スイッチングブーム」對新設
 - 一、小銃架新設
 - 一、信號旗格納箱新設
 - 一、拳銃架新設
 - 一、「バラスト」唧筒ヲ以テ「バラストタンク」ノ淡水ヲ排出シ及ヒ給水船ノ淡水ヲ艦内ニ取入ル、カ爲メ該唧筒ニ支管ヲ新設ス
 - 一、「エギゾーストタンク」内ニ於ル溜水ノ消失ヲ防ク爲メ尺餘ノ小管ヲ新設シ補助給水唧筒ノ吸管ヲ連結セシム
 - 一、甲板蒸氣管等ノ破損ノ場合ニ對スル豫備塞止弁ヲ機械室ニ二個新設
 - 一、浴室五箇所ニ蒸氣管新設
 - 一、船橋機械室間ニ傳話管一條新設
 - 一、前後部消防水管ヨリ各彈藥庫ニ注水管ヲ設ク
 - 一、船體總塗替
- 如上ノ艤裝工事ハ、豫定ノ如ク竣工セシヲ以テ、二十六日吳軍港ニ回航シテ更ニ工事ヲ施シ、二月十三日ヲ以テ全部結了ス、即チ左ノ如シ、
- 一、露國式六尹速射砲二門ヲ据附ク

一、安式十二斤速射砲四門ヲ据附ク

一、保式四十七密速射砲二門ヲ据附ク

一、露國式六尹速射彈臺(五個ノ彈丸ヲ並列シ得ルモノ)八個新設

一、三十六年式受信筐其ノ他一式ノ無線電信機ヲ裝備ス

但發信用ニハ發電機ノ電流ヲ使用シ別ニ二次電池ヲ備ヘス

一、無線電信機用電柱ハ大櫓ヲ使用シ之ニ長サ十三米突ノ一斜桁ヲ附著延長セシメ總高三十八米突九トス

一、艦橋下操舵室ヨリ無線電信室ニ至ル間ニ電話線ヲ導キ電話器二組ヲ備フ

一、「シーメン」式六十拇旋回手動裝置ノ探海電燈一基ヲ艦長室ノ直上艦橋ニ接シテ架臺ヲ設ケ其ノ上ニ据附ク

一、探海電燈電纜内ニ〇、五「オーム」ノ抵抗縮線器一基ヲ挿入ス

一、小蒸氣船一隻搭載竝ニ同船架新設

一、端舟(カッター)二隻搭載

一、傳馬船(小)一隻搭載

一、左記彈藥ヲ搭載スルカ爲メ前後兩部ニ彈藥庫ヲ設置ス

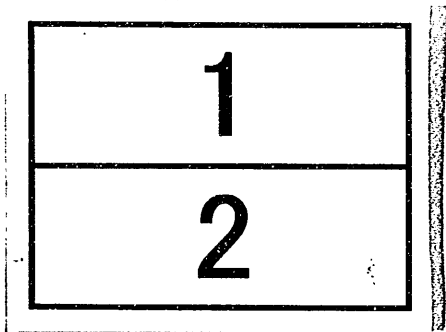
露國式六尹鋼鐵榴彈竝ニ同裝藥彈底信管各二百個 安式十二斤鍛鋼榴彈、鑄鋼榴彈、同二號、伊集院信管、彈底信管、擊發火管各六百個、同裝藥電氣火管各千二百個

保式四十七密鍛銅榴彈、鋼鐵榴彈、各四百個

一、小銃四十挺同彈藥包一萬二千個

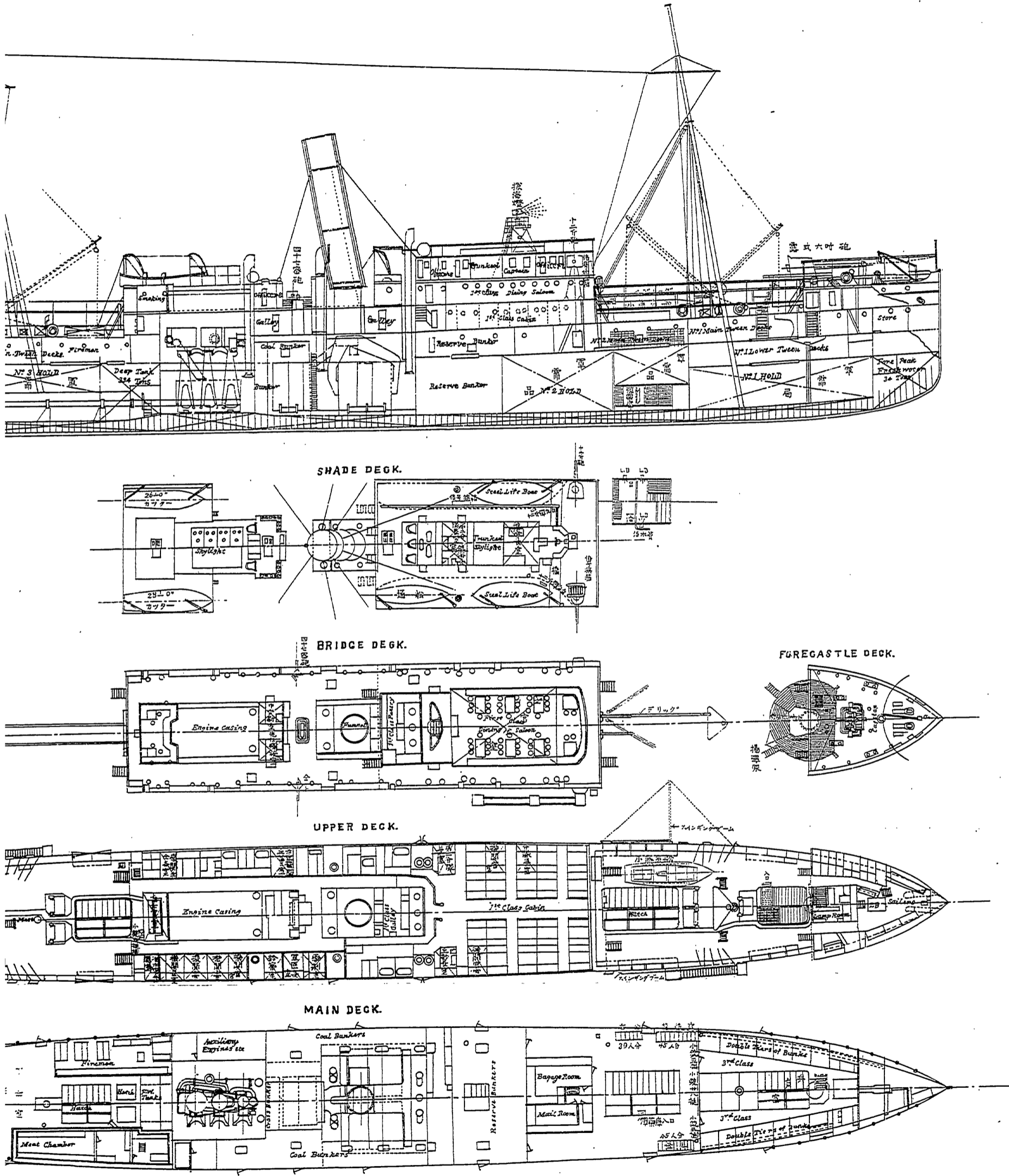
一、拳銃二十四挺、同彈藥包二千八百個

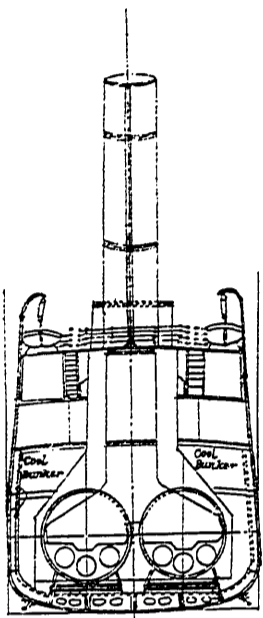
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

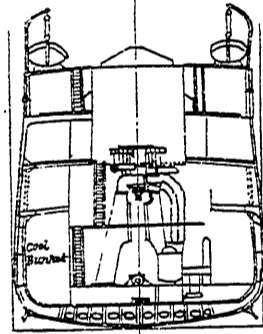
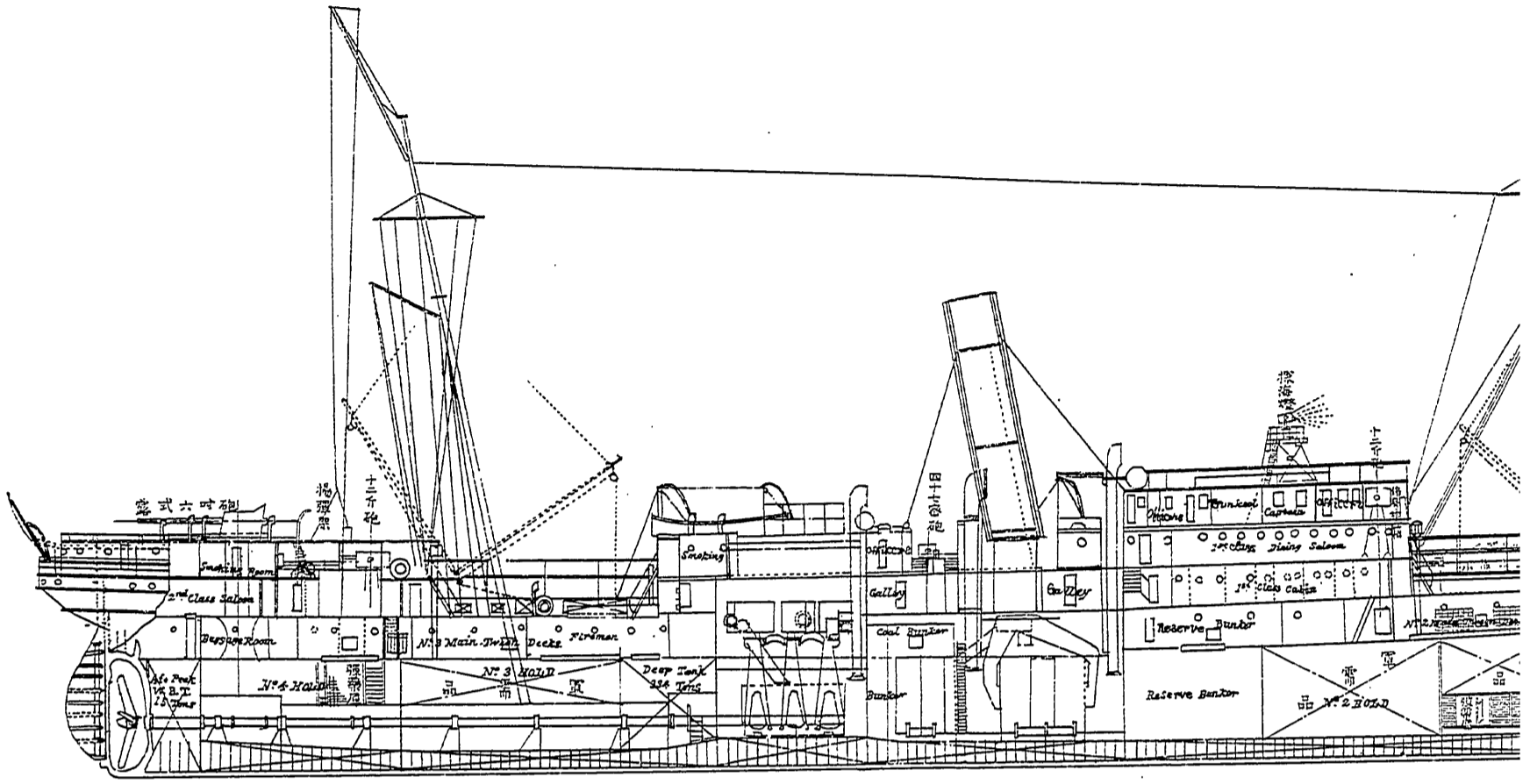
假裝巡洋艦八幡丸兵裝及艙裝圖 縮尺三百八拾四分之壹

本線ハ新設ノ部ヲ示ス

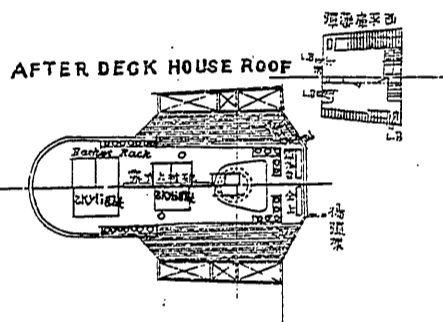




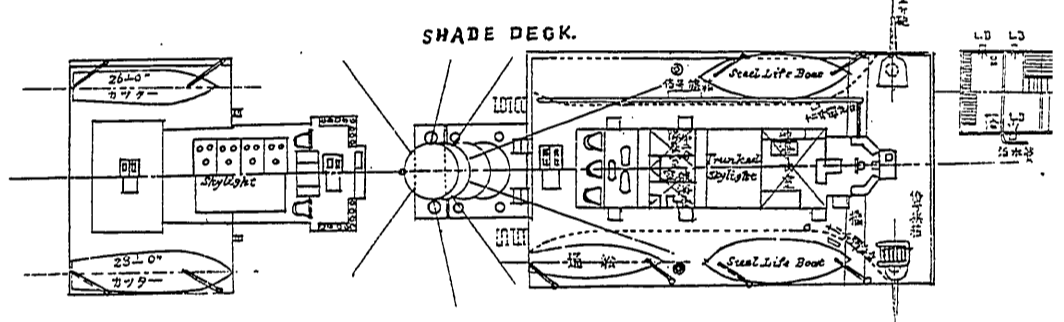
LOOKING FORWARD



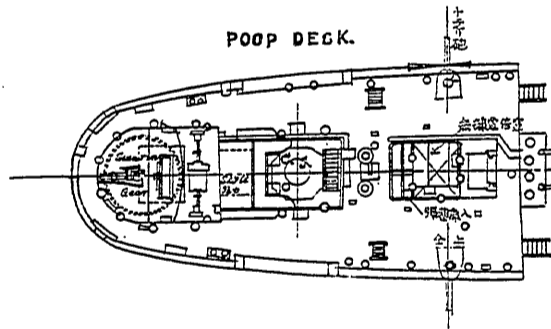
LOOKING AFT



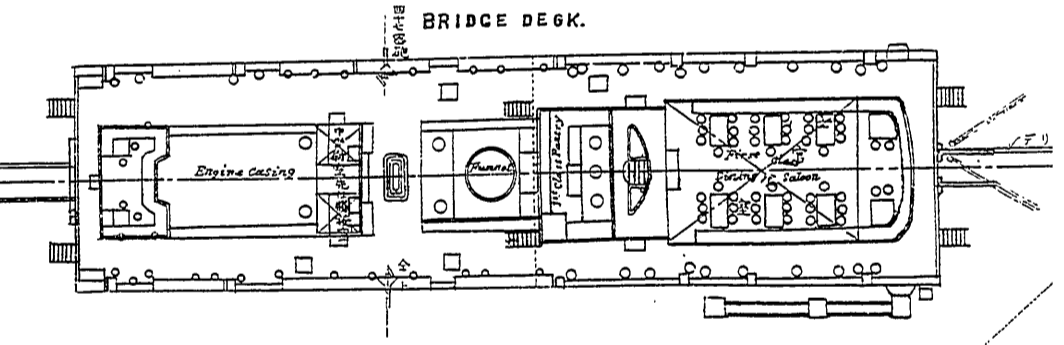
AFTER DECK HOUSE ROOF



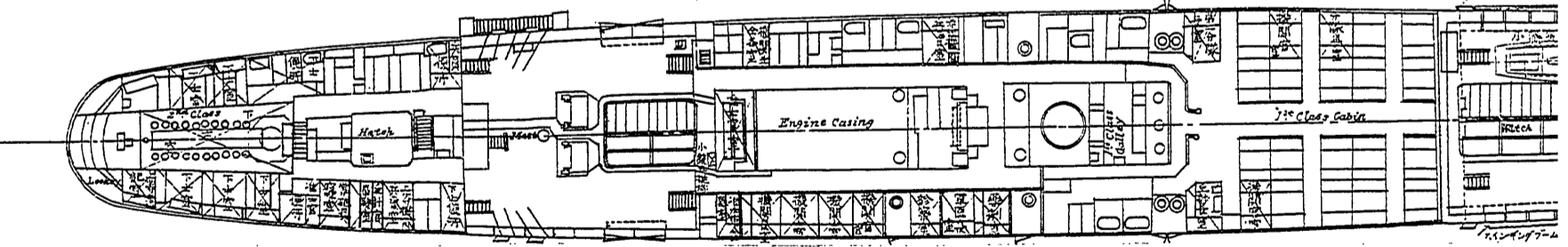
SHADE DECK.



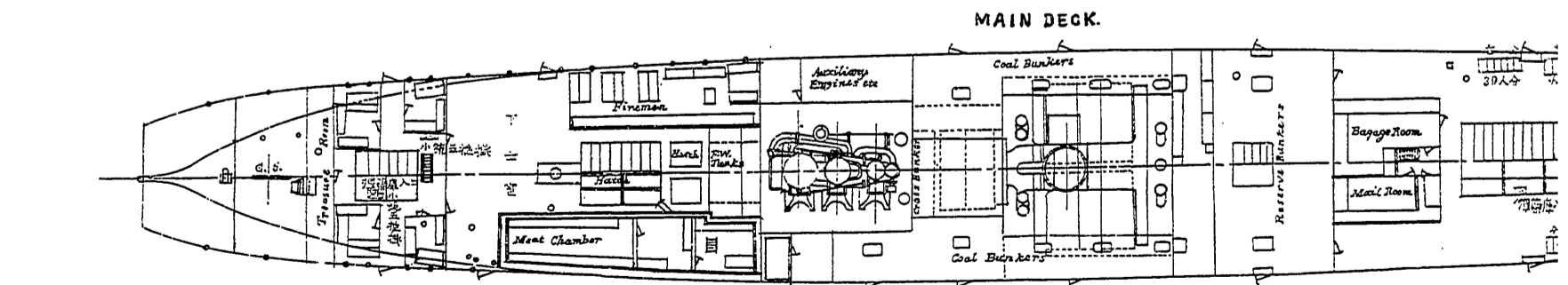
POOP DECK.



BRIDGE DECK.



UPPER DECK.



MAIN DECK.

第五目 備後丸、佐渡丸及ヒ信濃丸

備後丸外二隻ハ、共ニ日本郵船株式會社ノ所有ニ係ル略同型ノ汽船ニシテ、備後丸ハ三十八年三月五日、佐渡丸ハ八日ニ、信濃丸ハ十四日ニ同會社ト借入契約濟ノ後吳軍港ニ回航セシメ、備後丸ハ三月六日工事ニ著手シ、十九日ヲ以テ竣工シ、佐渡丸ハ三月十日工事ニ著手シ、二十三日ヲ以テ竣工シ、信濃丸ハ三月十九日工事ニ著手シ、三十一日ヲ以テ全部竣工セリ、以上三隻ノ工事要領左ノ如シ、(附圖並ニ章末ニ要目表參照)

一、前部「フオークスル」甲板上ニ十五拇速射砲一門「シエードデッキ」前部兩舷ニ十二斤速射砲各一門「ブーブデッキ」最後部ニ十二斤砲一門ヲ据附ケ何レモ大砲發射ノ激動ニ堪ヘ得ヘキ相當ノ裝置ヲ爲シ砲ノ附近ニ六十發乃至二十發分ハ彈丸臺ヲ設置セリ又上甲板中央部諸室ノ兩側ニ小銃架四十挺分、拳銃架二十四挺分ヲ取附ケタリ

一、第二「ハッチ」右舷ニム小蒸氣船左舷ニハ傳馬船各一隻ヲ搭載シ後部「ボートデッキ」上兩側ニ從來備附ケアリシ二隻ノ端舟ヲ取除キ其ノ跡ニ海軍式「カッター」二隻ヲ搭載シ之カ揚卸ニハ在來ノ「デリック」及ヒ「ダビット」ヲ使用セリ又端舟ハ適當ノ方法ヲ以テ動搖ヲ止ム

一、前部第一船艙内ヲ木材ヲ以テ區劃シテ彈藥庫ニ充テ其ノ外側ニハ薄キ亞鉛板ヲ張附シ庫内ニハ十五拇砲一門、十二斤砲二門及ヒ小銃、拳銃ノ彈藥ヲ格納ス

又最後部ノ一倉庫ヲ改造シテ十二斤砲一門ノ彈藥庫トス而テ各注水裝置ヲ施シ其ノ上部ニ揚彈架ヲ取附ケタリ

揚彈架ヲ取附ケタリ

- 一、「パイロットブリッジ」上中央ニ適當ナル臺ヲ造リ探海電燈ヲ据附ケ又左舷前端ニハ距離測定儀ヲ取附ケタリ
- 一、後檣頭ニ無線電信「ガルフ」ヲ新設シ右舷二等室ノ一室ヲ以テ無線電信室ニ充テ電話室其ノ他ノ設備ヲ爲セリ
- 但信濃丸ニ限リ「プーブデッキ」上ノ病室ヲ改造シテ無線電信室ニ充テ電話室其ノ他ノ設備ヲ爲セリ
- 一、前檣ニ「シグナルヤード」一本ヲ新設シ之ニ伴フ裝置ヲ施シ信號旗箱ハ「パイロットブリッジ」上後端ニ裝置セリ
- 一、艦隊補給用トシテ「バラストタンク」ニ淡水ヲ積ミ外舷ニ一個ノ給水口金具ヲ取附ケ之ニ必要ノ蛇管ヲ備具セリ
- 一、乗組員ハ本船定員表(第十部第八篇參照)ノ通りニシテ將校下士室ニハ一二等室ヲ以テ之ニ充テ兵員室ニハ在來ノ三等船客室ヲ使用ス其ノ他乗組員ニ必要ナル諸設備ヲ爲セリ
- 一、汽機室、船橋間ニ傳話管ヲ新設ス
- 一、船尾ニ速力信號燈架ヲ設置ス
- 一、信濃丸ニ限リ中央部「ブリッジデッキ」上「スモークングルーム」ヲ二分シ其ノ一ヲ主計官事務室ニ他ヲ衛兵伍長室ニ改造シ物入其ノ他ノ設備ヲ爲セリ
- 一、前部中甲板第二艙目ノ兩舷ニ木材ニテ區劃ヲ作り糧食ヲ貯藏ス其ノ他ノ倉庫ハ殆ト在來

ノ儘ニテ使用セリ

一、舷窓及ヒ士官室明取等ハ總テ漏光遮蔽装置ヲ施ス

一、兵員食卓ヲ新設ス

搭載セル彈藥員數ハ左ノ如シ

一、十五拇彈藥

二 百 發

一、十二斤彈藥

六百發(二門ニ付
二百發宛)

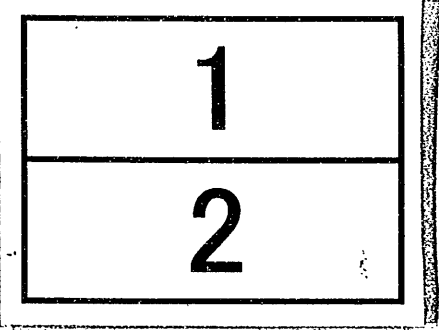
一、小銃彈藥

一 萬 四 千 發

一、拳銃彈藥

二 萬 八 千 八 百 發

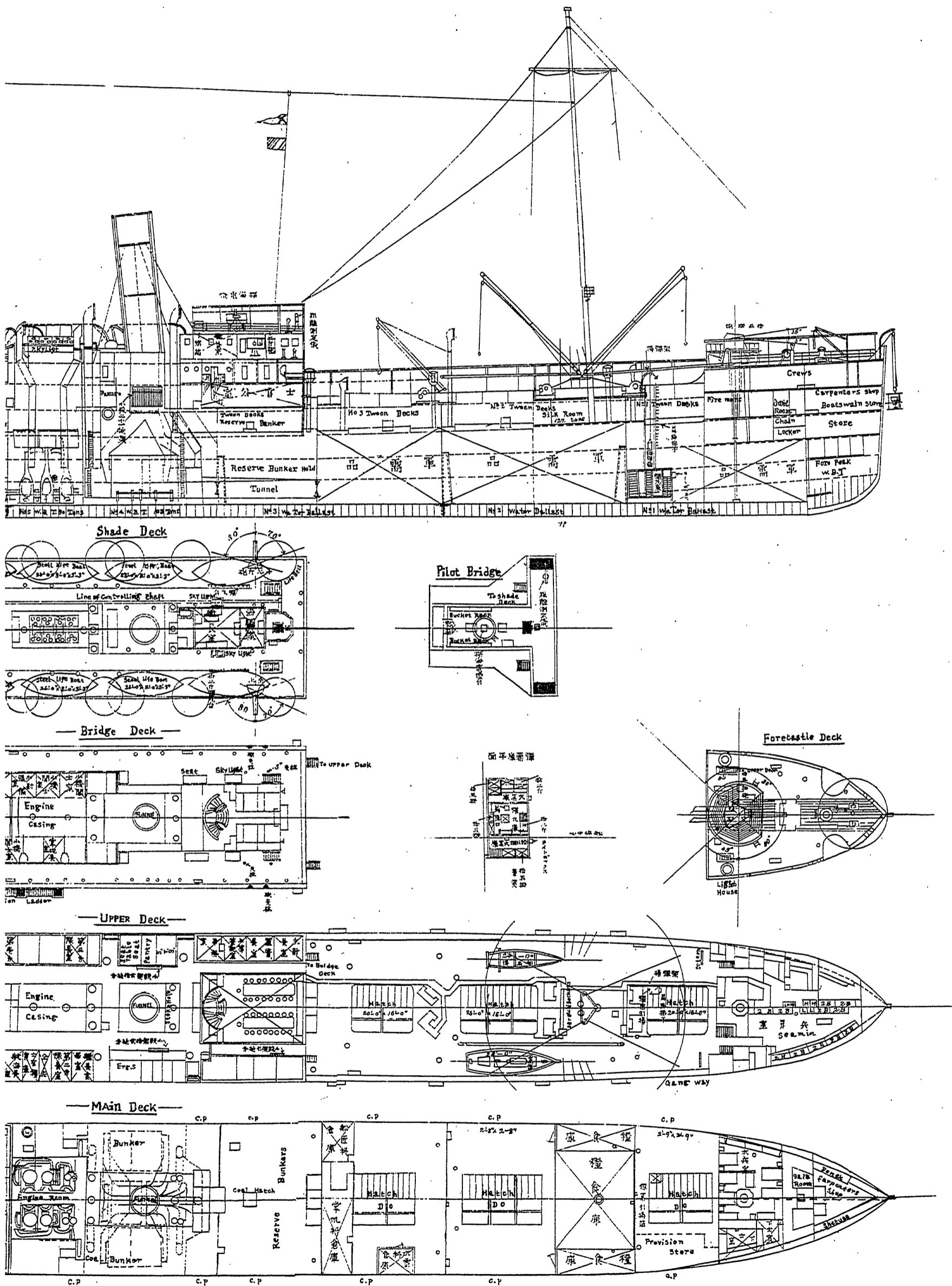
分割撮影ターゲット

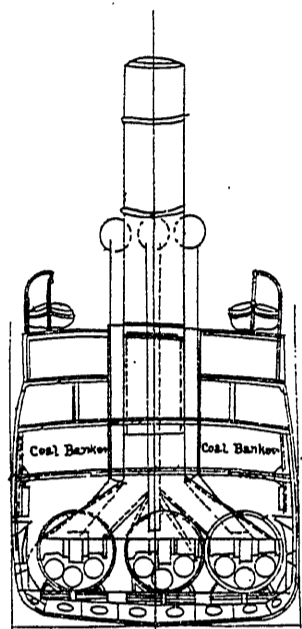
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

假裝巡洋艦備後丸兵裝及艙裝圖

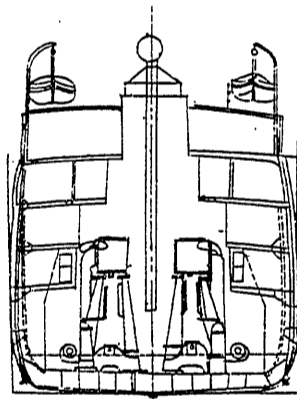
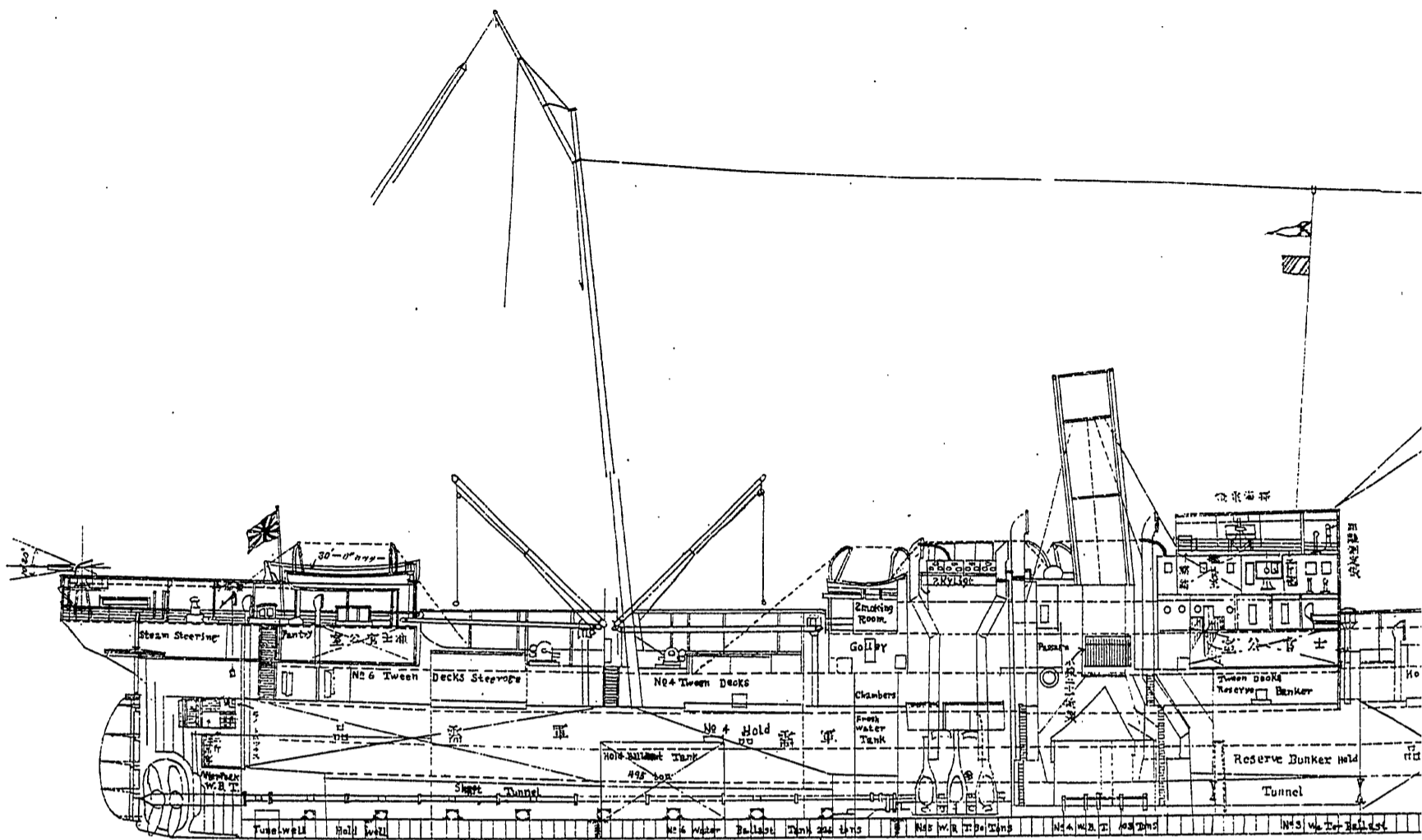
朱線ハ新設ノ部ヲ示ス

縮尺參百八拾四分之二壹

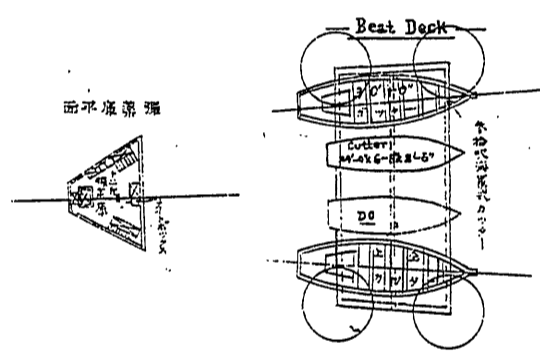




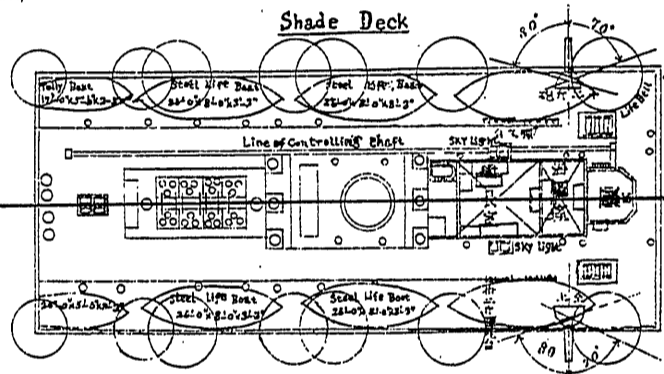
Looking Forward



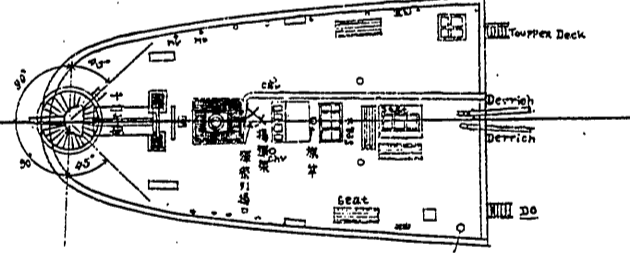
Looking Forward



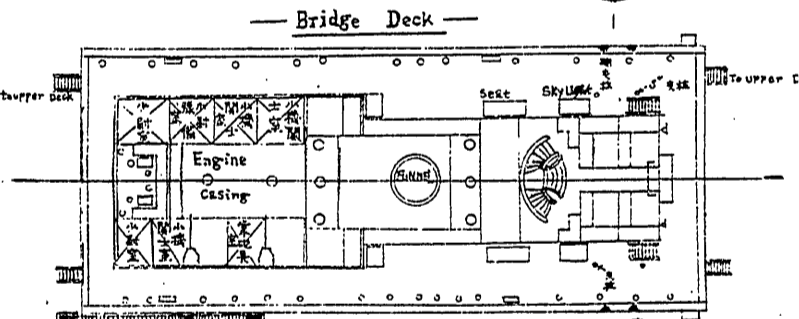
Boat Deck



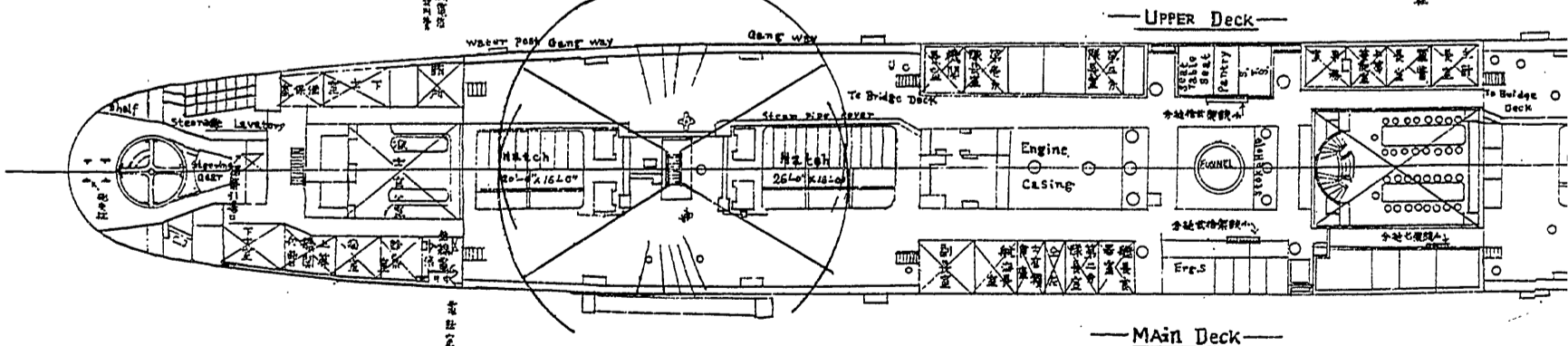
Shade Deck



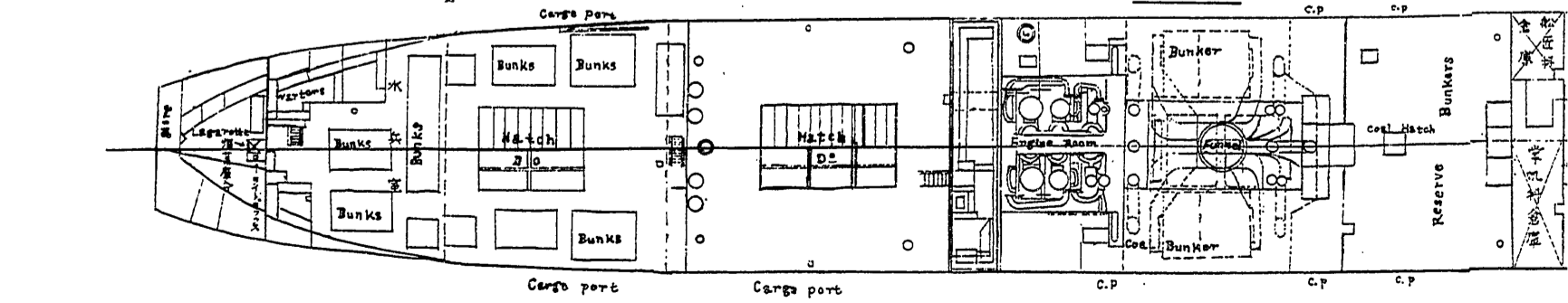
Poop Deck



Bridge Deck

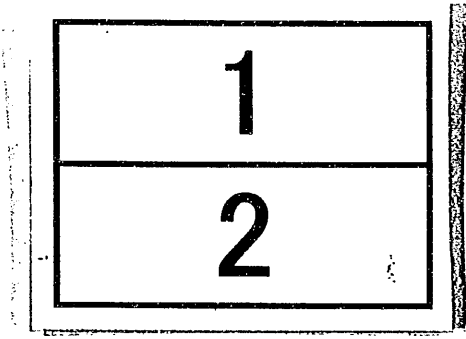


Upper Deck



Main Deck

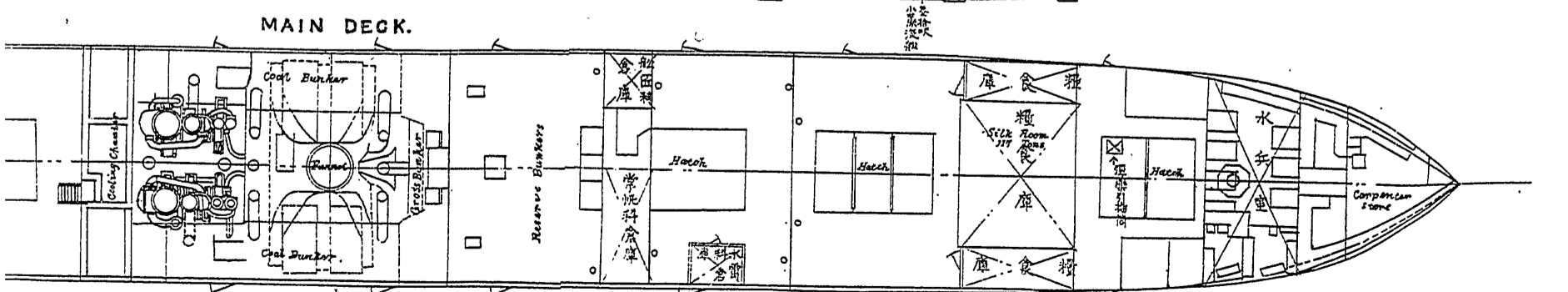
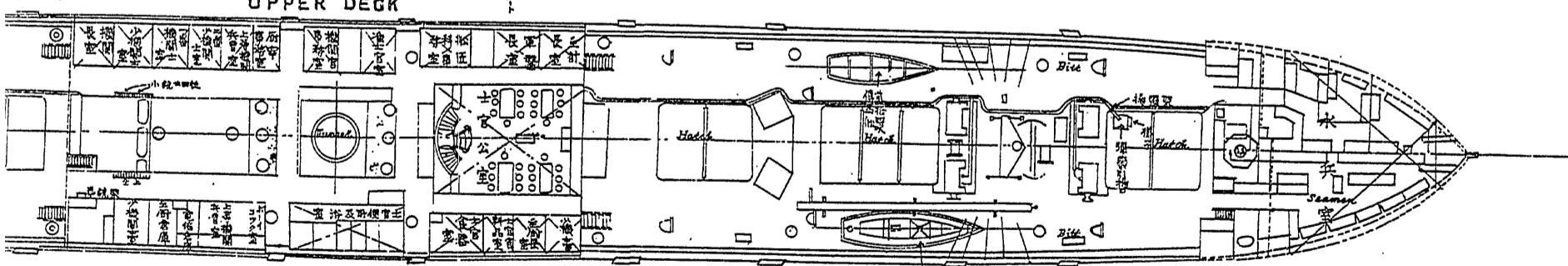
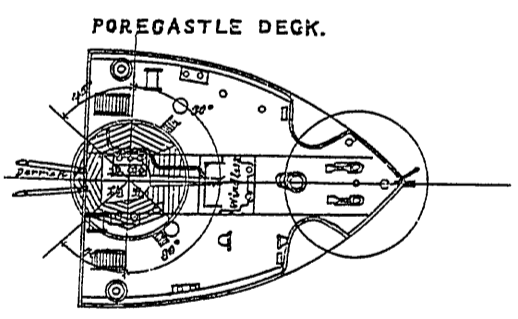
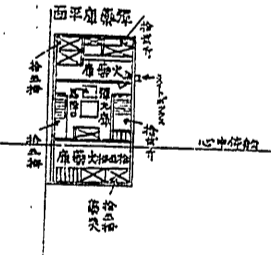
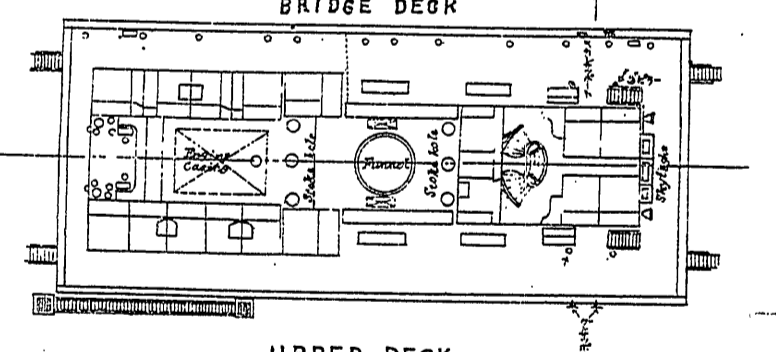
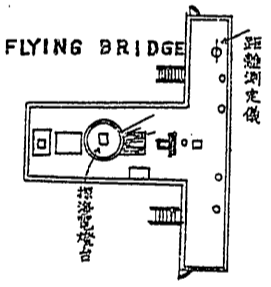
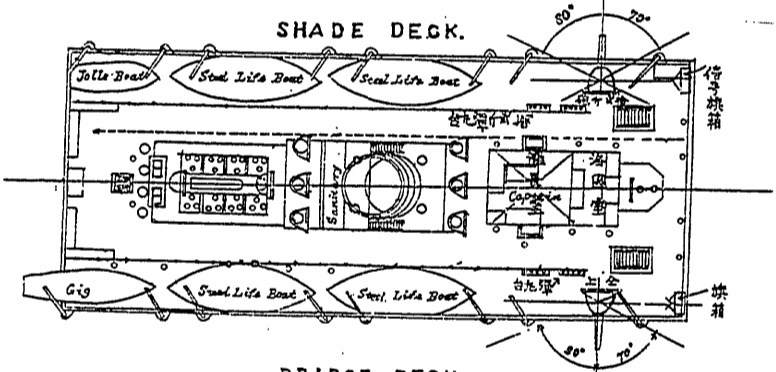
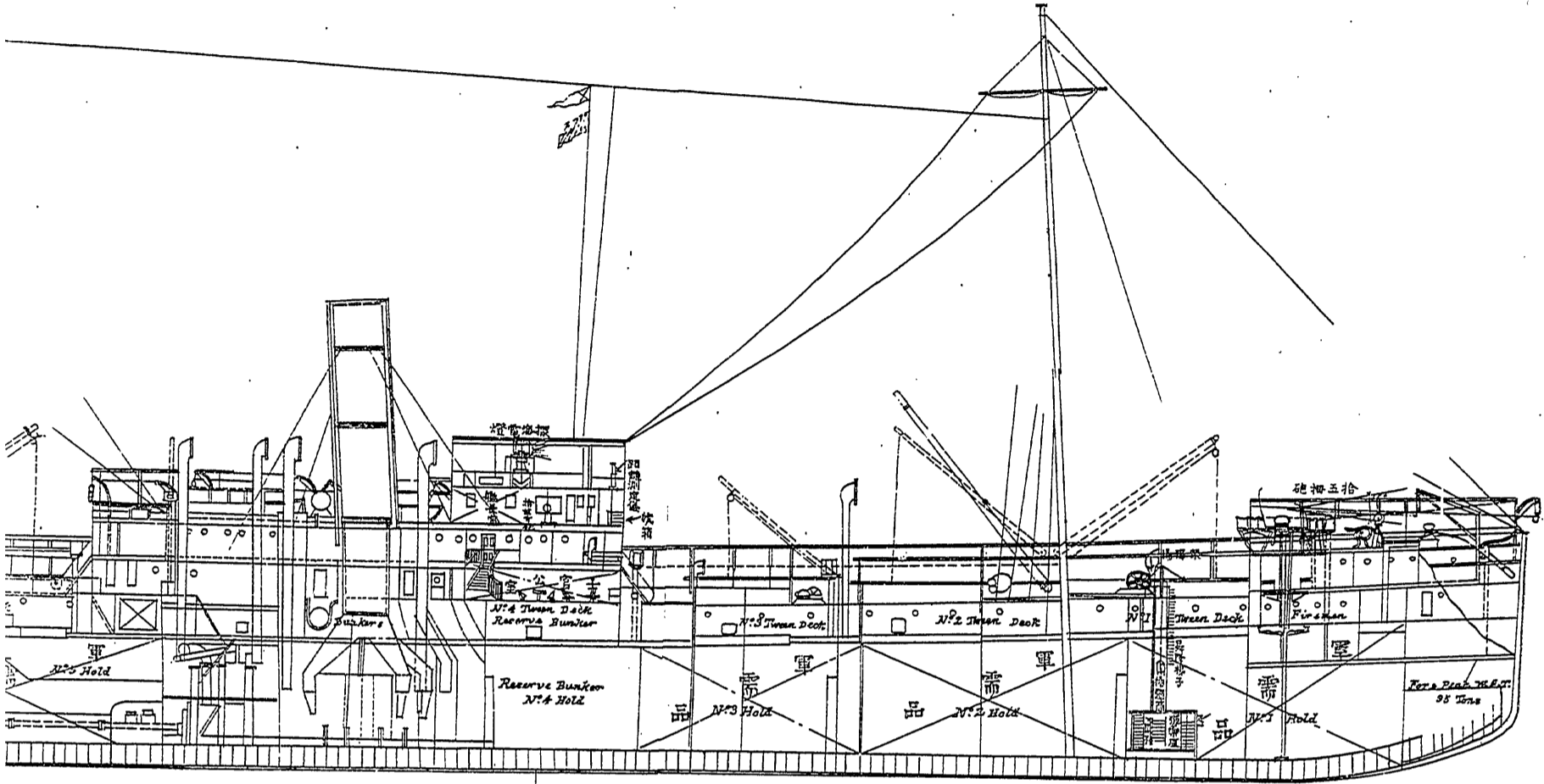
分割撮影ターゲット

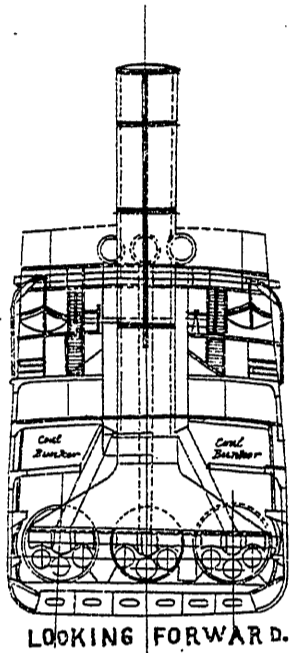
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

假裝巡洋艦 佐渡丸 兵裝 艦裝圖

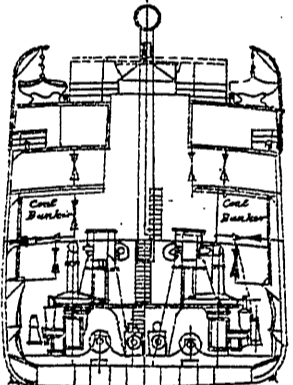
朱書ハ新設ノ部ヲ示ス

縮尺三百八拾四分之壹

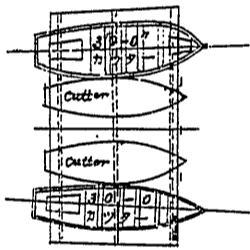
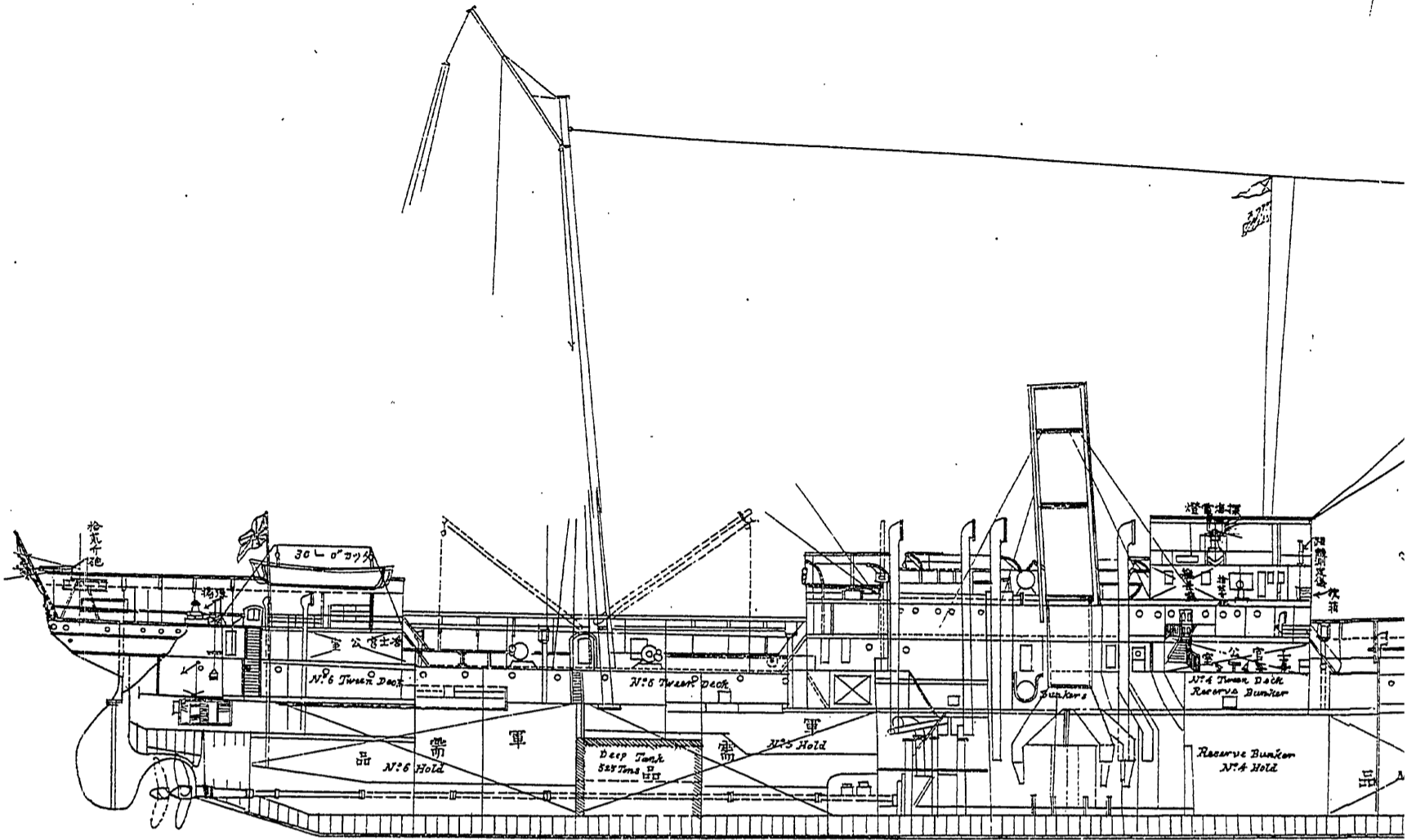




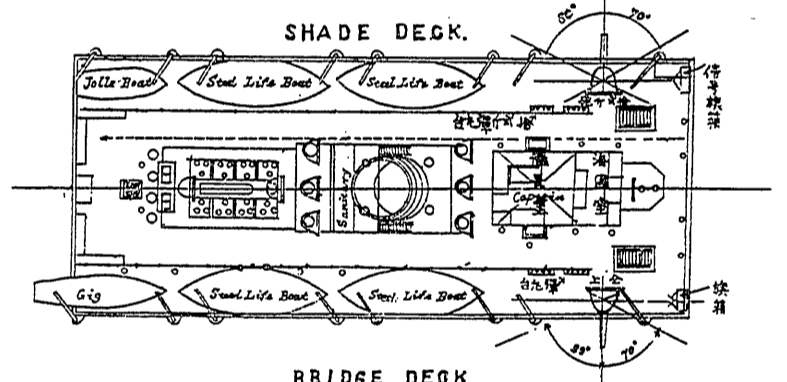
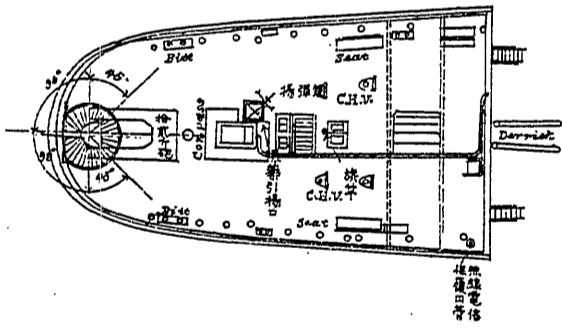
LOOKING FORWARD.



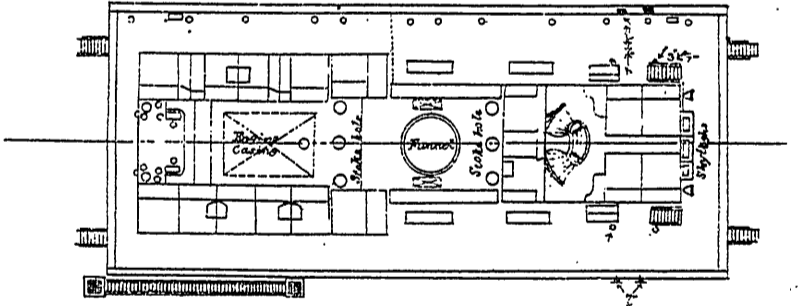
LOOKING AFT.



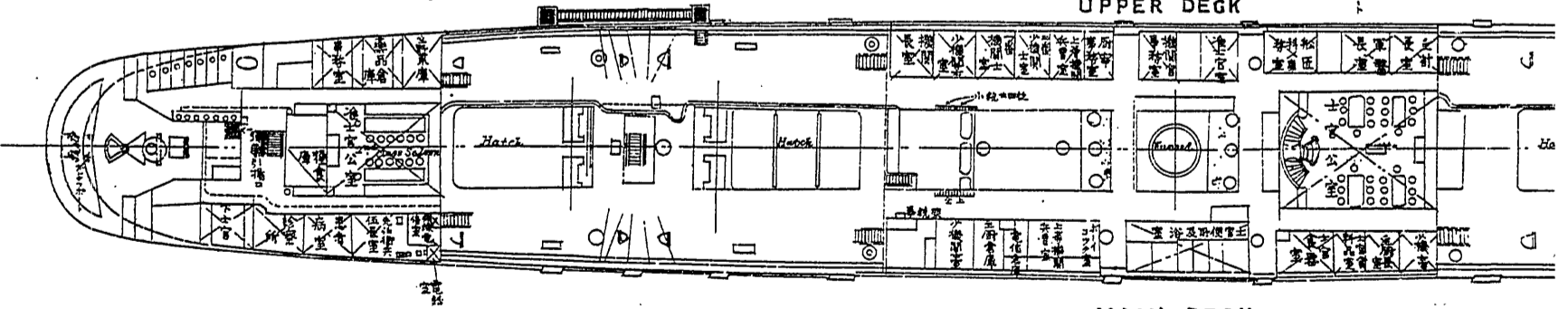
POOP DECK.



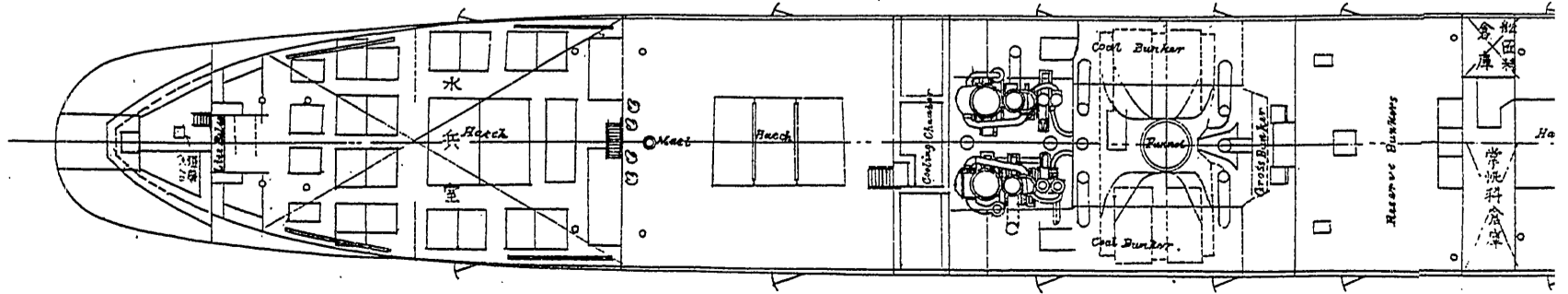
BRIDGE DECK



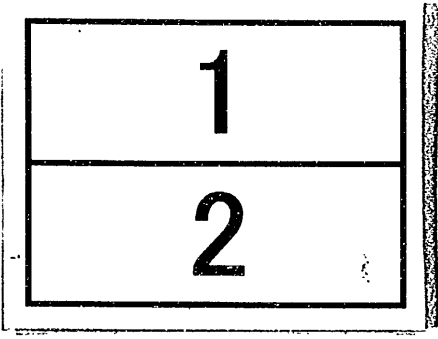
UPPER DECK



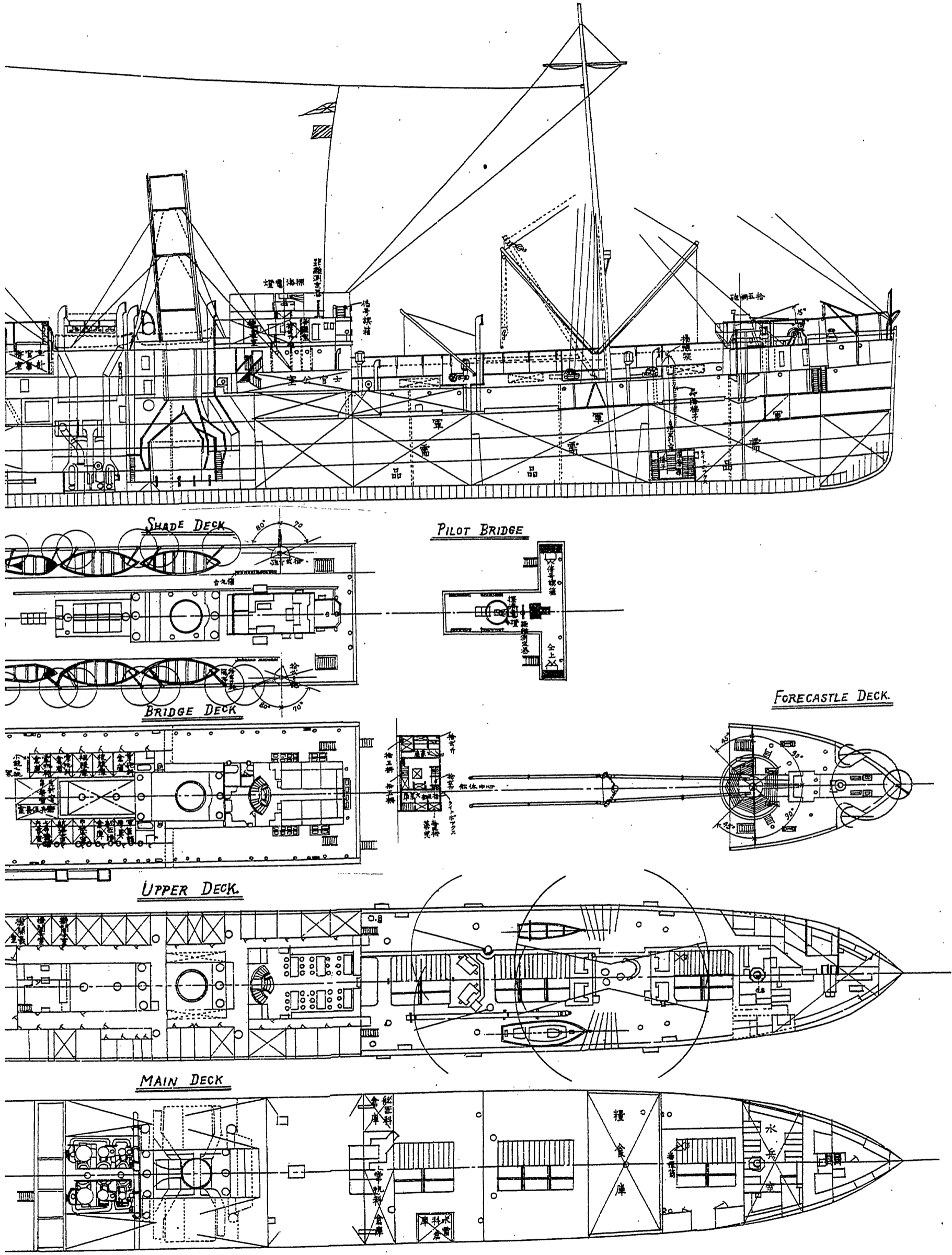
MAIN DECK.

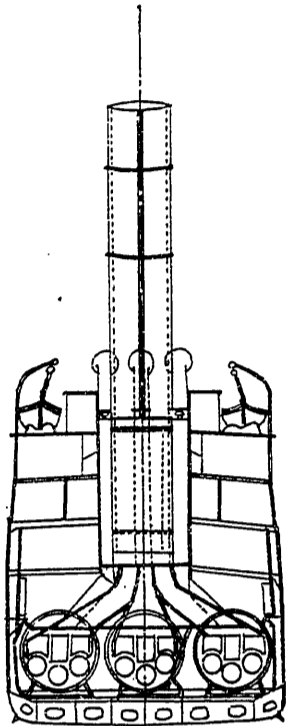


分割撮影ターゲット

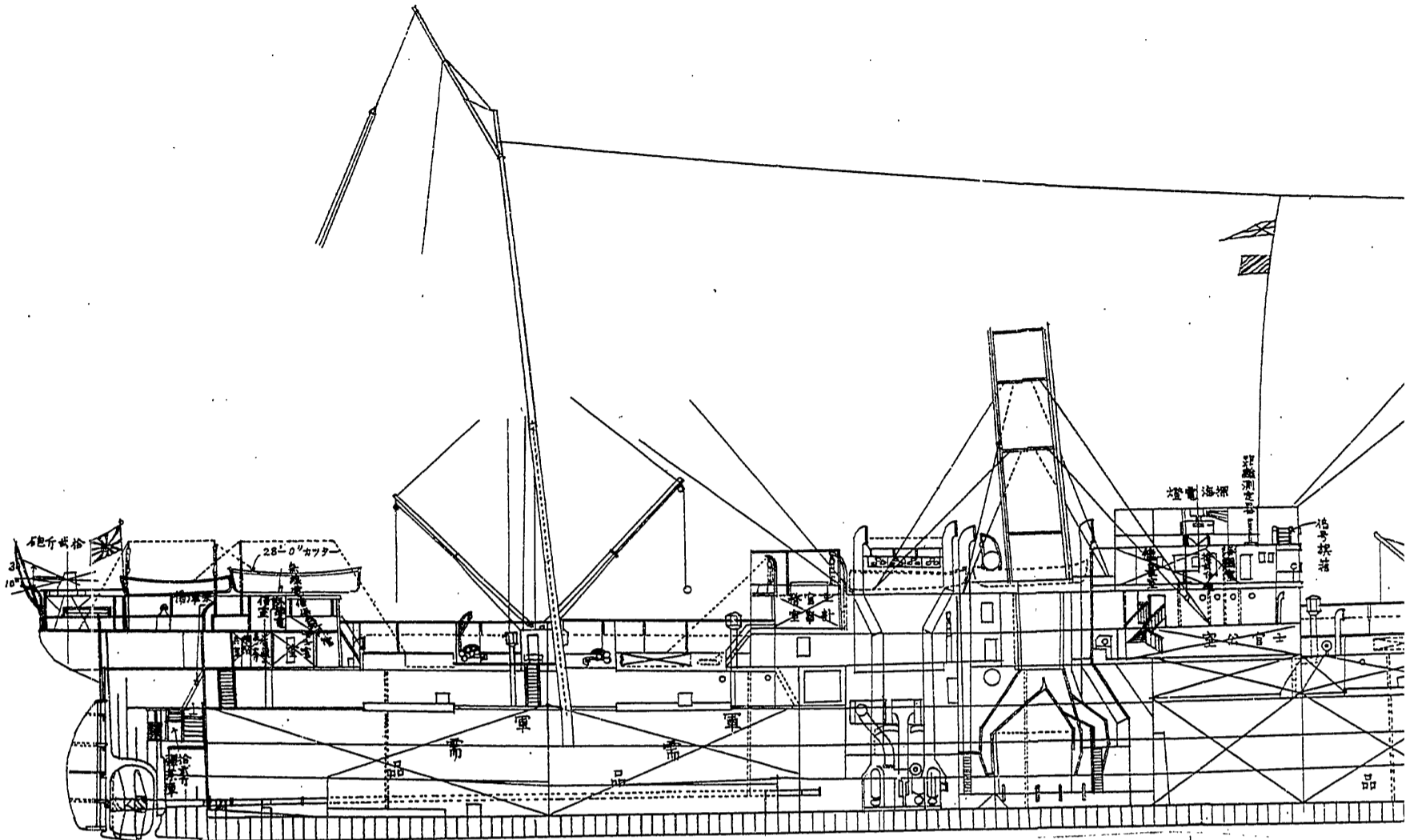
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

假裝巡洋艦信濃丸兵裝艦裝圖 縮尺三百八拾四分之壹

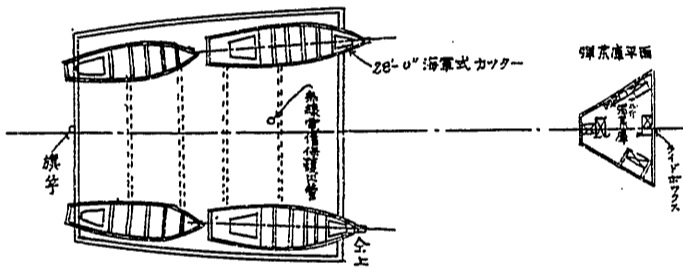




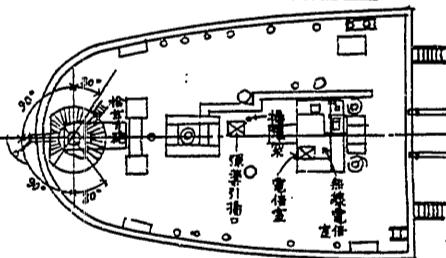
LOOKING FORWARD



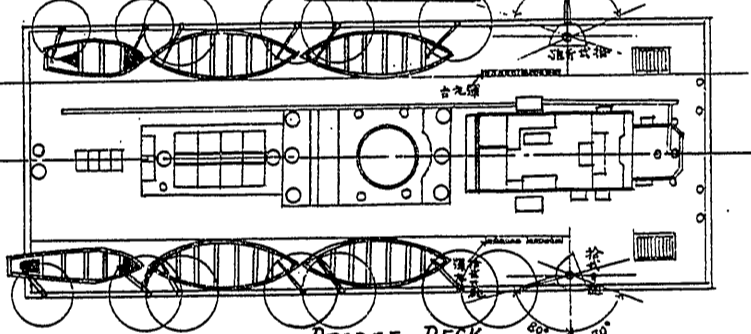
BOAT DECK



POOP DECK

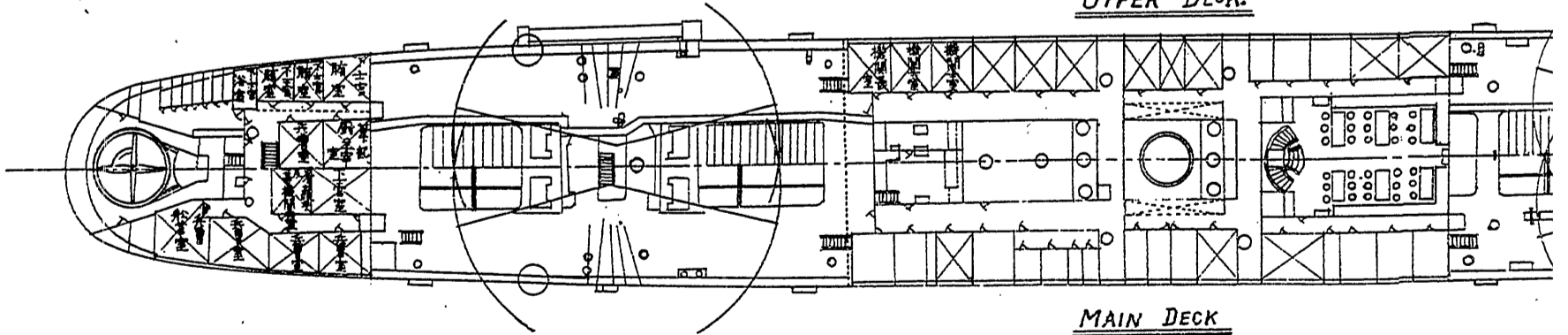


SHADE DECK

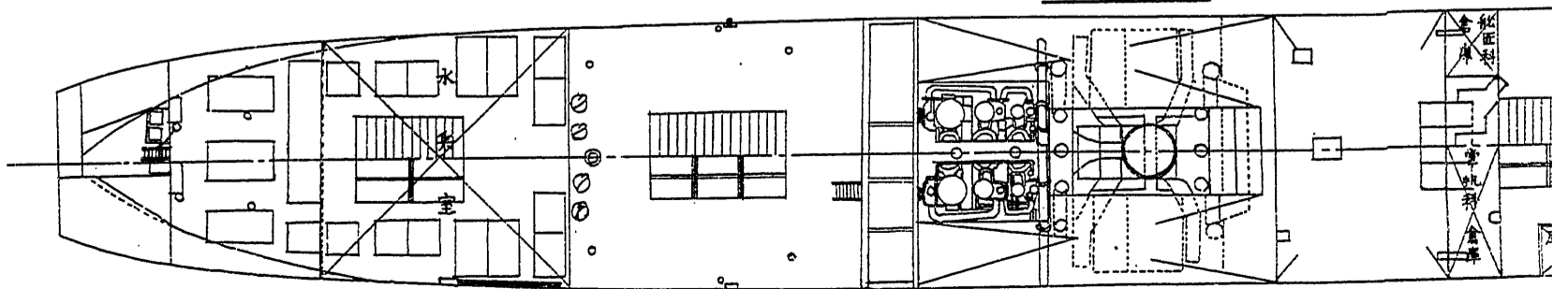


BRIDGE DECK

UPPER DECK



MAIN DECK



第六目 滿州丸

本船(元露國東清鐵道會社所有汽船)ハ、明治三十七年二月十七日長崎港ニ於テ捕獲シ、審檢中特別任務ニ使用セシカ、三十八年二月四日捕獲檢定確定ノ後帝國ノ所有ニ歸シ、爾來我カ海軍ニ於テ通信用ニ使用シ、三月十日更ニ假裝巡洋艦トシテ艤裝スルコト、爲リタルヲ以テ、十五日吳海軍工廠ニ於テ工事ニ著手シ、二十四日全部結了セリ、其ノ工事要領左ノ如シ、(附圖及ヒ章末要目表參照)

一、前部上甲板後部「ポートデッキ」上ニ十二斤速射砲各一門ヲ中央部「ポートデッキ」上艦長室兩舷ニ保式重四十七密砲各一門ヲ据附ケ大砲發射ノ激動ニ堪ヘ得ヘキ相當ノ裝置ヲ爲シ砲ノ附近ニハ各二十發内外ノ彈丸臺ヲ設備セリ又中甲板前部第二「トランクハッチ」ノ兩側ニ小銃架四十挺分及ヒ拳銃架二十四挺分ヲ取附ケタリ

一、前部第一船艙内ヲ木材ヲ以テ區劃シテ彈藥庫ニ充テ其ノ外側ニハ薄キ亞鉛板ヲ張附シ庫内ニハ十二斤砲一門、四十七密砲二門及ヒ小銃、拳銃ノ彈藥ヲ格納ス又下甲板最後部ノ一倉庫ヲ改造シ十二斤砲一門ノ彈藥庫トス而テ各注水裝置ヲ施シ其ノ上部ニ揚彈架ヲ取附ケタ

一、前部第一「カーゴハッチ」ノ左舷ニ小蒸氣船一隻ヲ搭載ス又中央部「ポートデッキ」上ニ從來備附ケアリシ三隻ノ端舟ヲ取除キ右舷ニハ海軍式「カッター」及ヒ傳馬船各一隻左舷ニ同型「カッター」一隻ヲ搭載シ適當ノ方法ヲ以テ動搖ヲ止ム

一、前檣從來ノ「デリック」ハ小蒸氣船ヲ釣上クルノ力ナキヲ以テ新規製造シ適當ノ方法ニテ

「マスト」ニ取附ケタリ

但之ニ要スル附屬品一切ハ新規トス又他ノ端船ノ揚卸ニハ在來ノ「ダビット」ヲ使用セリ

一、「フライングブリッジ」上中央ニ適當ナル臺ヲ造リ探海電燈ヲ据附ケ其ノ前端ニ距離測定儀ヲ取附ケタリ

一、「ポートデツキ」上三個ノ信號旗格納箱竝ニ信號旗掛ヲ設置セリ

一、二重底内ニ淡水積込ノ爲メ上甲板側ニ一個ノ給水口金具ヲ取附ケ之ニ必要ナル蛇管ヲ備具セリ

一、兵員食卓ヲ新設ス

一、船尾ニ速力信號燈架ヲ設置ス

一、乗組員ハ本船定員表(第十部第 八篇參照)ノ通りニシテ將校下士室ニハ一二等客室ヲ以テ之ニ充テ兵員室ニハ在來ノ三等船客室ヲ使用ス其ノ他乗組員ニ必要ナル諸設備ヲ爲セリ

一、糧食諸倉庫ハ殆ト在來ノ儘使用セリ

一、舷窓及ヒ士官室明取等ニ漏光遮蔽裝置ヲ施ス

搭載セル彈藥員數左ノ如シ

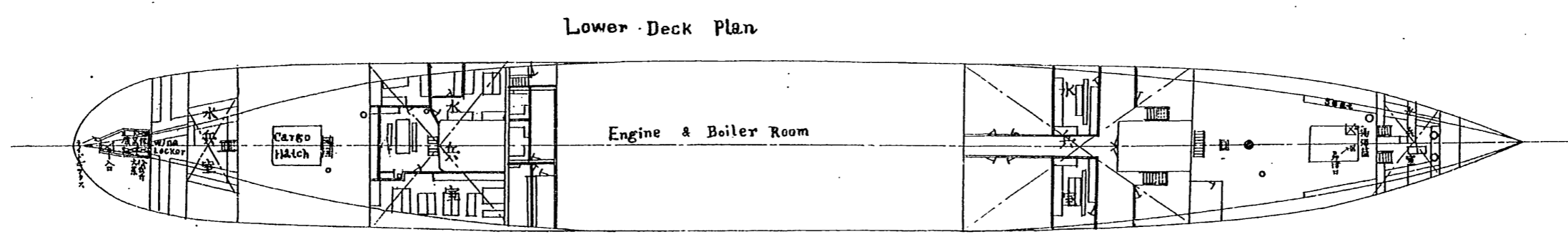
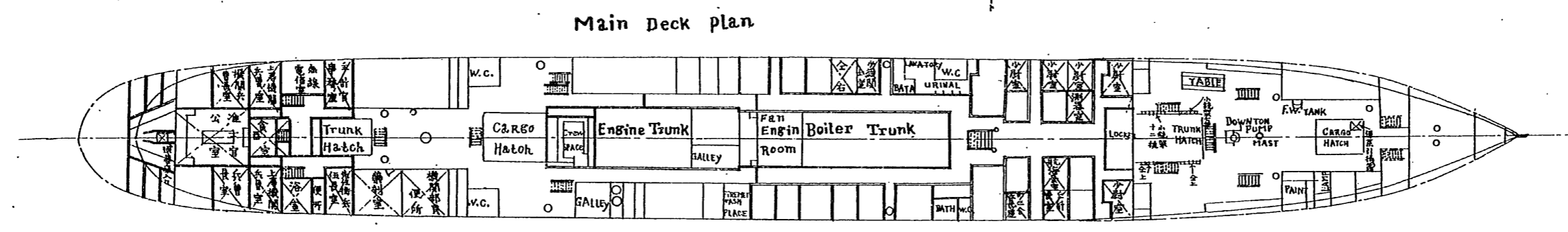
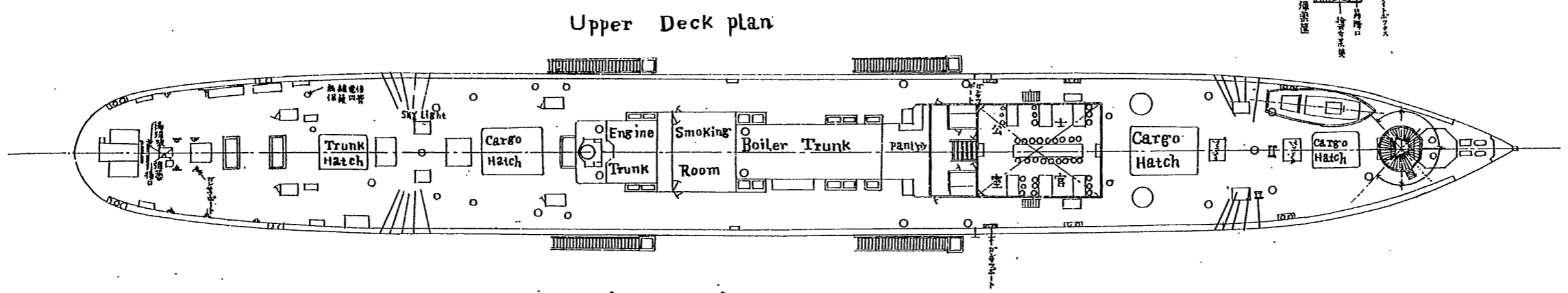
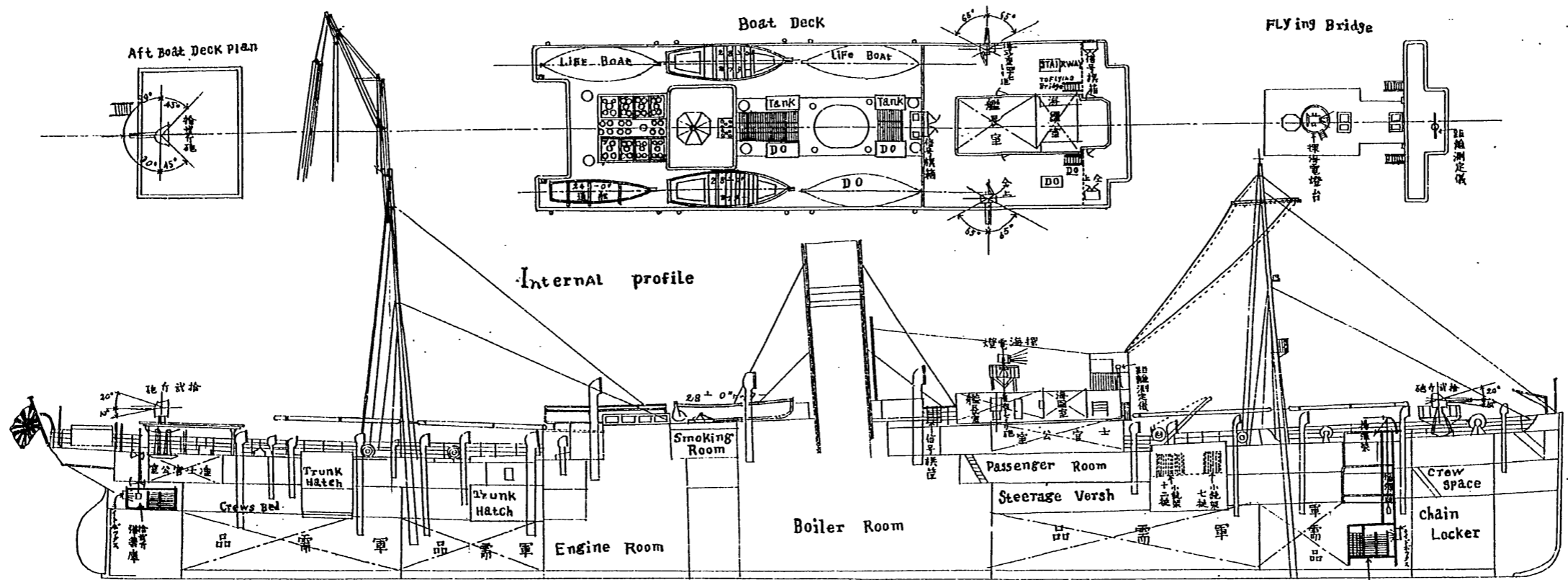
十二斤彈藥 四百發(一門ニ付二百發宛)

四十七密彈藥 八百發(一門ニ付四百發宛)

小銃彈藥 一萬四千發

拳銃彈藥 二萬八千八百發

如上記載ノ外本船ハ曩ニ特別任務ニ服セシ際、必要ニ依リ三十七年五月二十七日無線電信機
(單裝一組)ノ裝備竝ニ各部白熱電燈及ヒ該電線ノ修理ニ著手シ、六月九日竣工セリ、



假裝巡洋艦滿州丸兵裝艙裝圖 縮尺三百八拾四分壹

朱線ハ新設ノ部ヲ示ス

第七目 揚武

本船ハ、開戰當時三井物産合名會社ニ於テ、韓國政府ヨリ借入レテ本邦ニ回航シ、其ノ筋ノ認
許ヲ得テ横須賀軍港ニ碇繋セシカ、明治三十七年二月二十七日同會社ト借入契約濟ノ後、假裝
巡洋艦トシテ熾裝スルコトニ定メラレタルヲ以テ、三月七日起工シ二十三日全部完成セリ、今
同船ヲ假裝巡洋艦トナスカ爲メ、船體各部ニ施行スヘキ新設改造ノ要領及ヒ其ノ方法ハ左ノ
如シ、(附圖並ニ章末)
(要目表參照)

一、彈藥庫新設

前後部船艙内圖面ニ示ス位置ニ彈藥庫ヲ新設スルモノトス

(イ) 構造

周圍ハ約一吋半ノ木板二枚ヲ合セ其ノ中間ニ「フランネル」ヲ挿入シ外側ハ薄キ亞鉛板
ヲ張附シ濕氣及ヒ火氣ヲ防止スルヲ要ス

(ロ) 庫燈

前後部トモ適宜ノ位置ニ二個宛計四個ヲ備フルモノトス

(ハ) 通風法

適宜空氣入及ヒ空氣拔ヲ備ヘ通風ニ便ナラシムルヲ要ス

(ニ) 注水裝置

前後トモ彈藥庫附近ノ船底適宜ノ位置ニ海水注入弁ヲ新設シ夫ヨリ適宜各庫ニ導キ必

要ノ箇所ニハ嘴及ヒ弁ヲ備ヘ以テ海水注入ニ便ナラシムルヲ要ス

一、小蒸氣船

圖面ニ示ス位置ニ小蒸氣船一隻ヲ搭載シ適宜ノ受臺ヲ設ケ動搖止金具等ヲ完備スルモノトス

一、「デリック」新設

圖面ニ示ス位置ニ「デリック」四本ヲ設ケ之ニ附屬スル金具及ヒ綱具等ヲ完備スルモノトス

一、兵員室ノ諸設備

圖面ニ示ス位置ニ衣囊棚、釣床入、清水罐、靴棚等ノ設備ヲ爲スモノトス

一、諸倉庫ノ設備

上甲板前部左舷ニ掌帆科倉庫ヲ中甲板後部左舷ニ機關部倉庫ヲ同右舷ニ糧食庫ヲ設ケ諸般ノ物品ヲ格納シ得ル設備ヲ爲スモノトス

一、浴室新設

上甲板前部左舷圖面ニ示ス位置ニ浴室ヲ設ケ浴槽、洗面鉢等所要ノ設備ヲ爲スモノトス

一、厠新設

上甲板前部右舷圖面ニ示ス位置ニ下士用厠ヲ新設スルモノトス

一、「ウインチ」新設

前後「マスト」附近圖面ニ示ス位置ニ新設スルモノトス

一、昇降口新設

上甲板ヨリ前部船艙内彈藥庫へ昇降口ヲ新設スルモノトス

一、外舷及ヒ船底塗粧

船底ハ適宜塗替ヲナシ外舷ハ戰時特定ノ通り塗粧スルモノトス

兵器ハ從來備附ノモノヲ其ノ儘使用シ別ニ新設ヲ施サ、ルモノトス

一、清水取入及ヒ同配給装置

右ニ對スル管装置ヲ新設シ尙蒸餾器一個ヲ艤裝スルヲ要ス

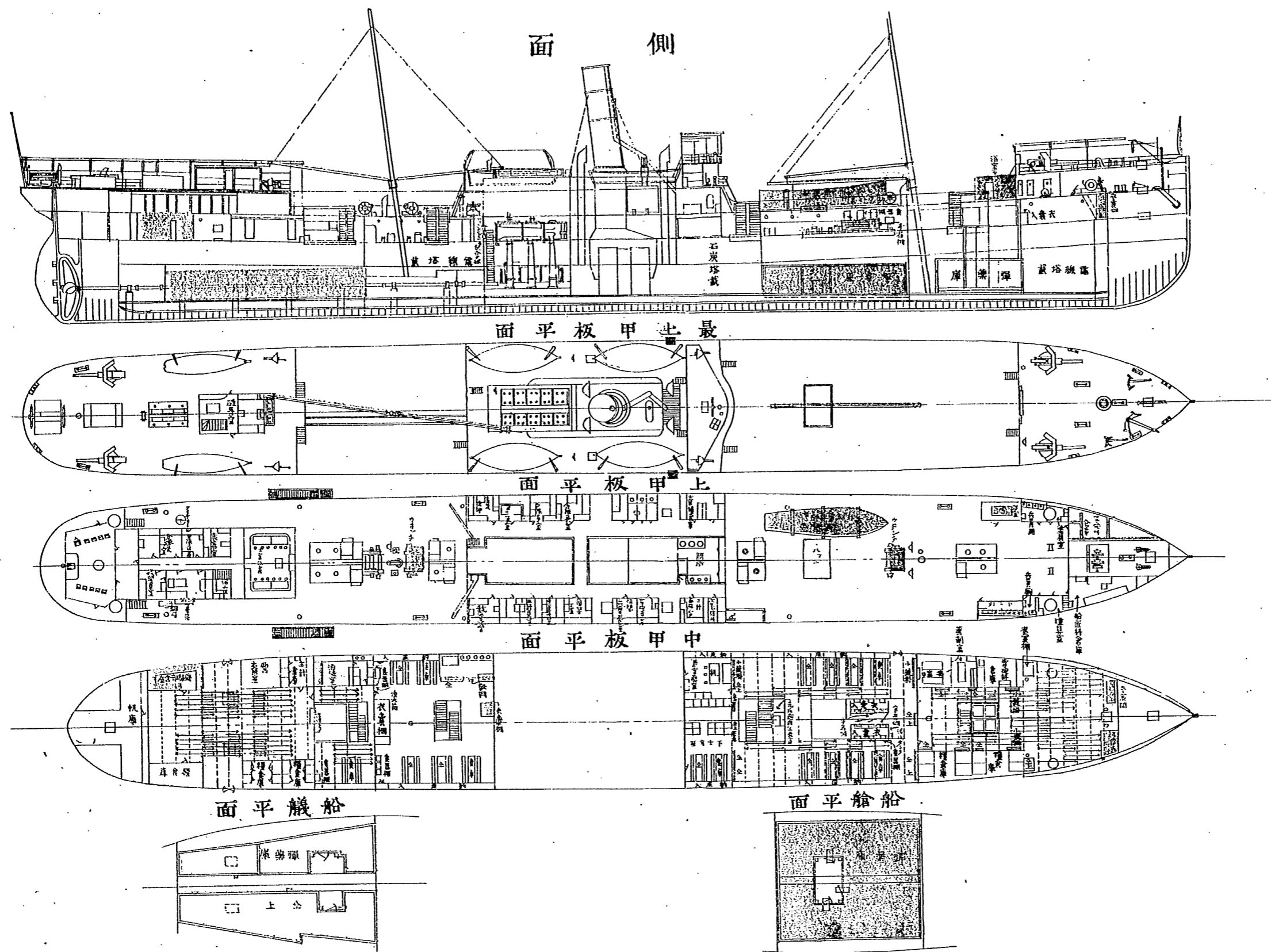
假裝巡洋艦揚武兵裝及艦裝圖

縮尺三百八拾四分ノ壹

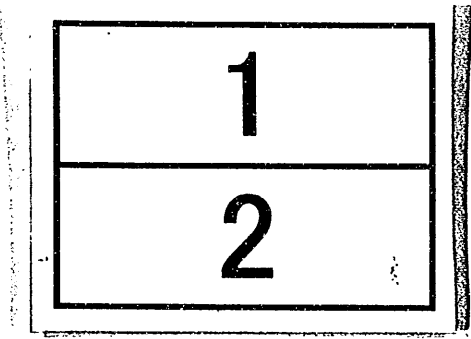
● 着色ノ分新設

諸室名称ノ内

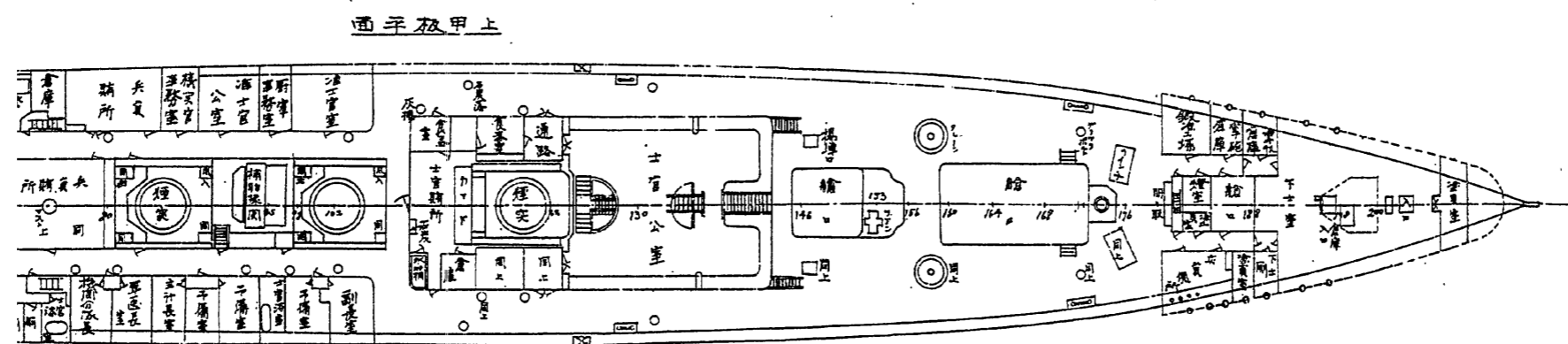
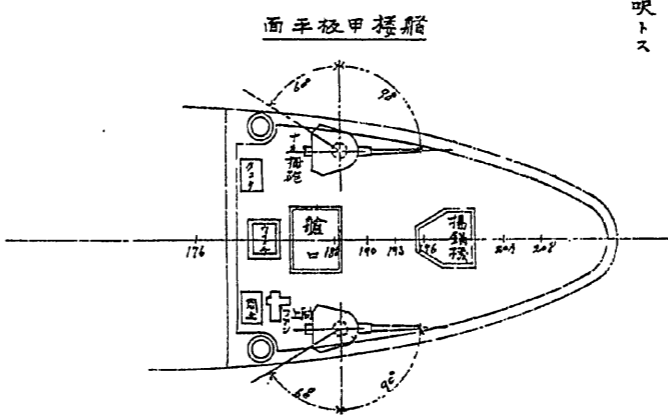
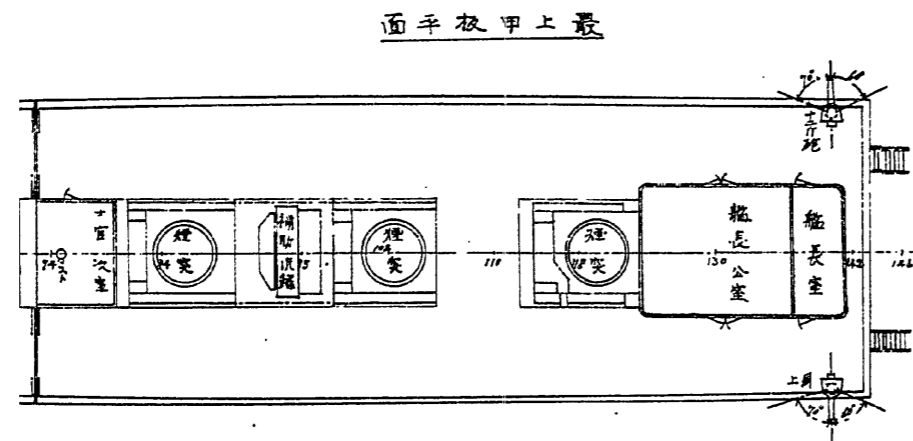
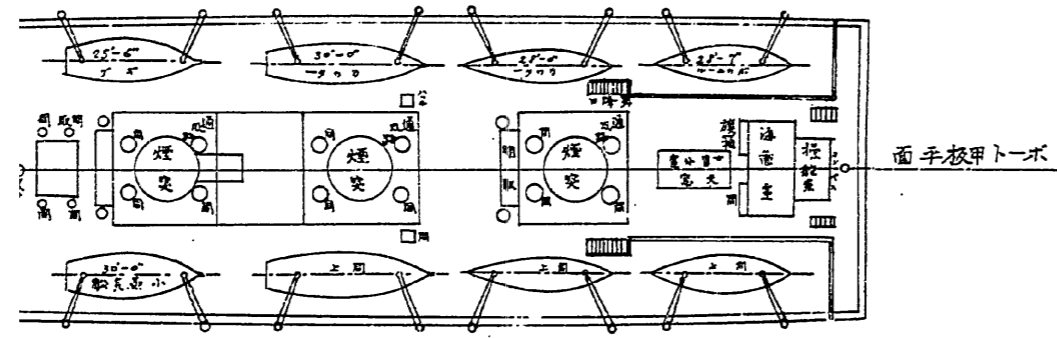
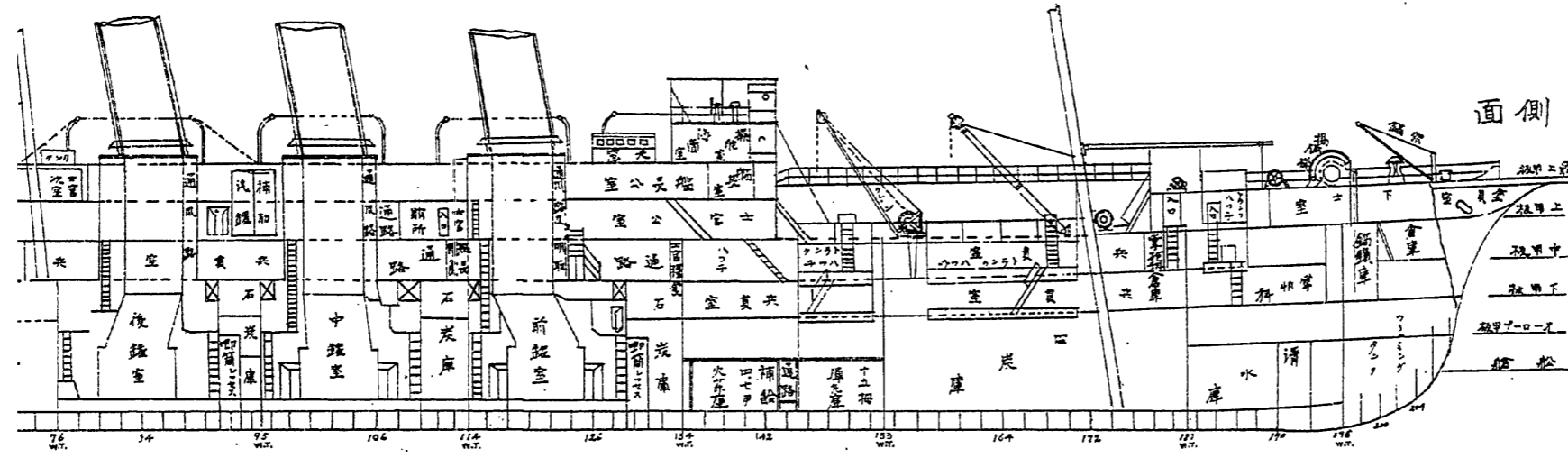
朱書ニテシルモ着色ナキモノハ新設ニラス



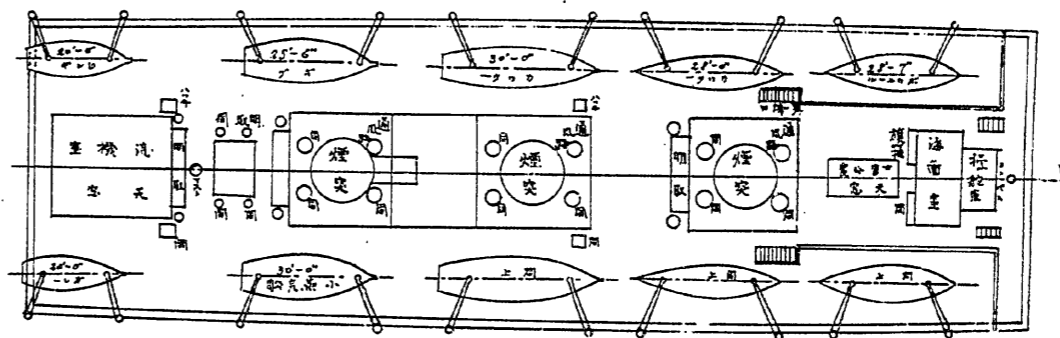
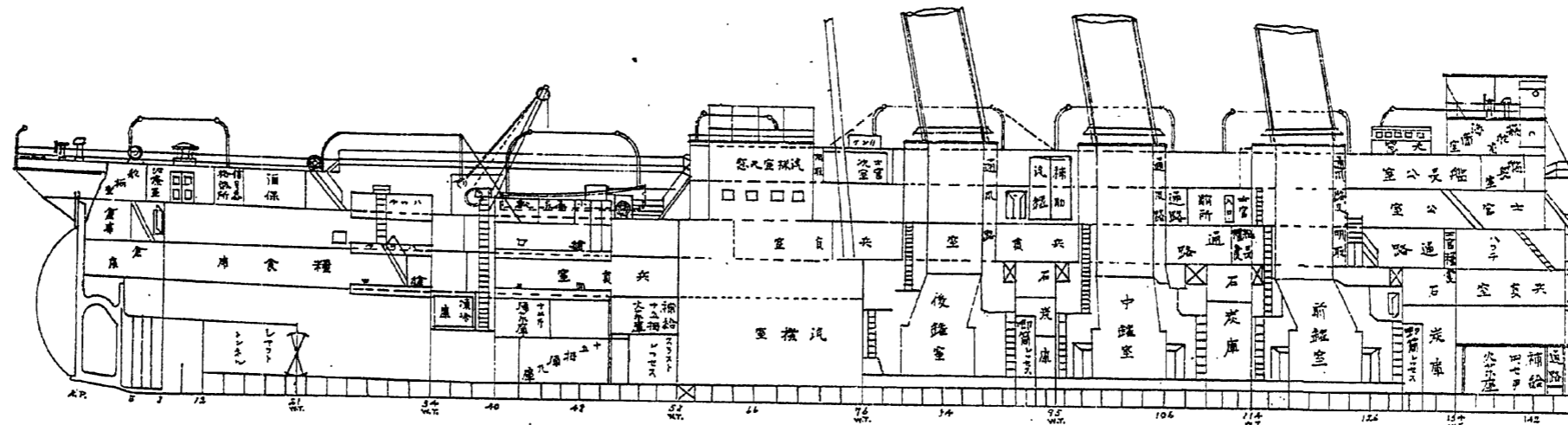
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

假裝巡洋艦姉川丸船内側面及七諸甲板平面圖

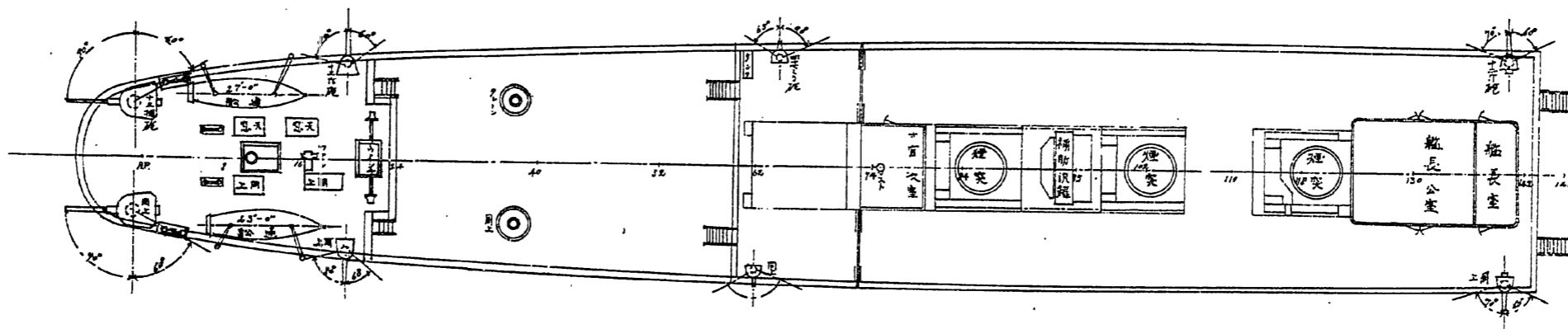


縮尺三拾前分之壹吋ヲ壹呎トス

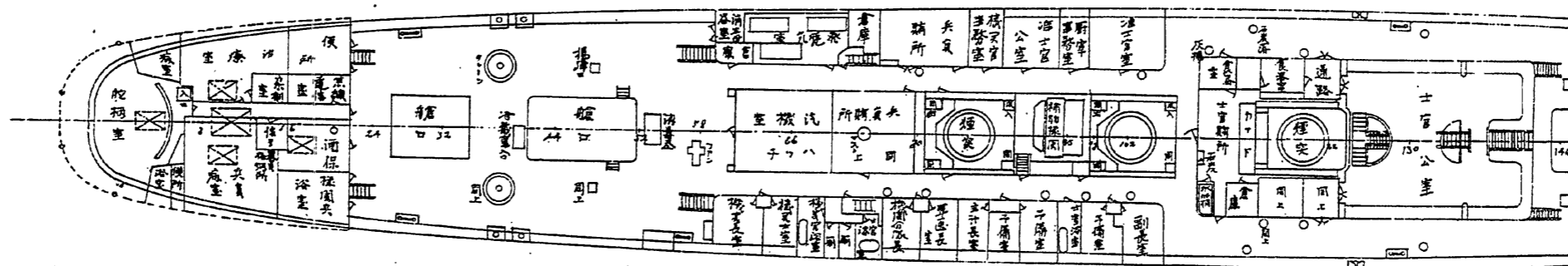


面平及甲樓艙

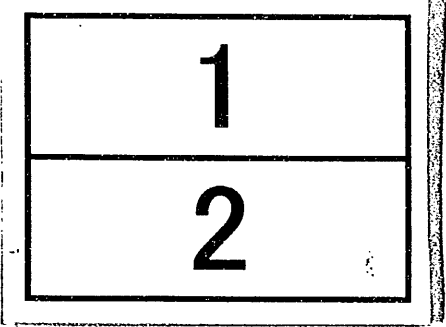
面平及甲上最



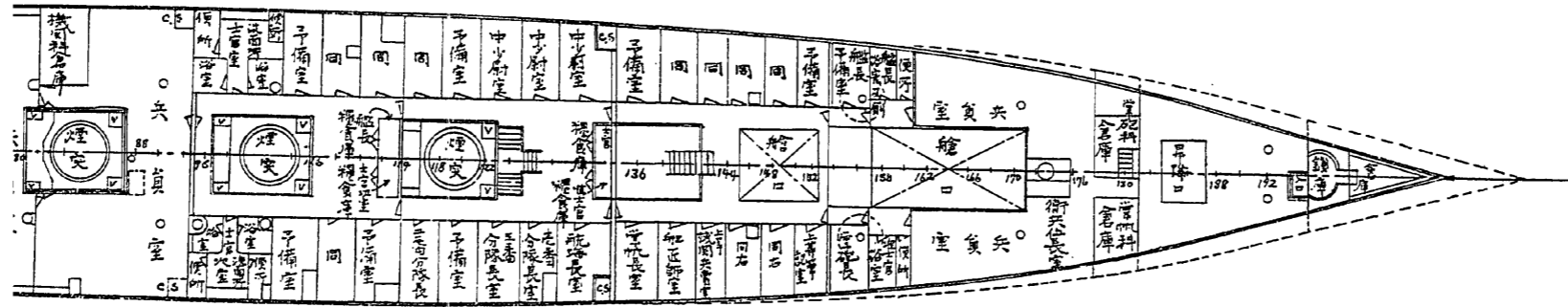
面平及甲上



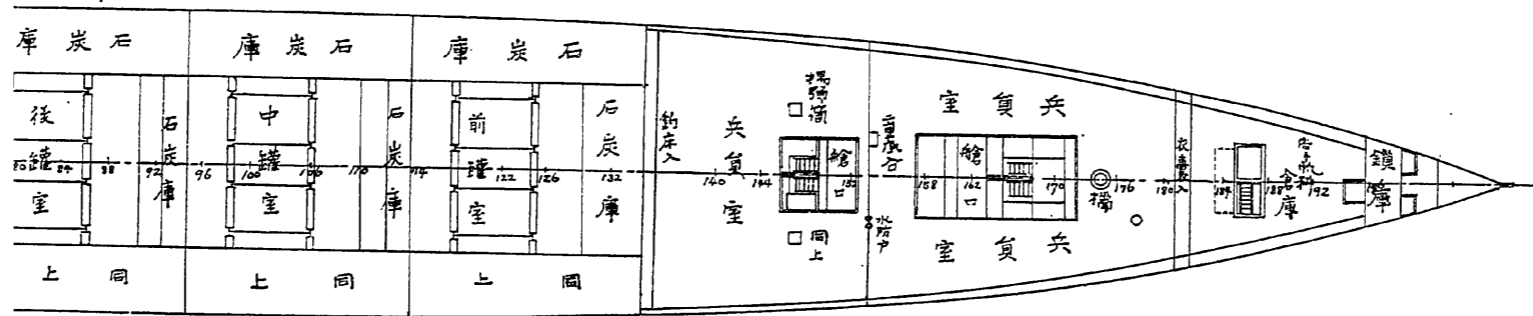
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

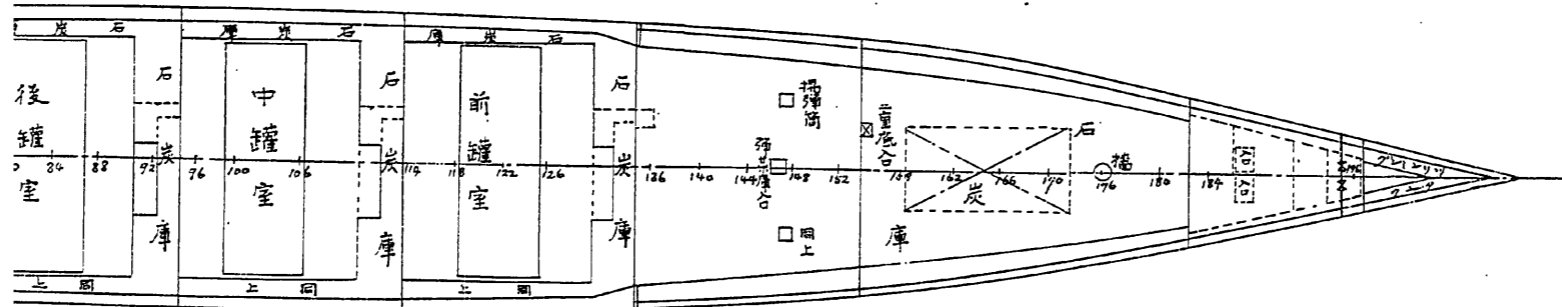
面平板甲中



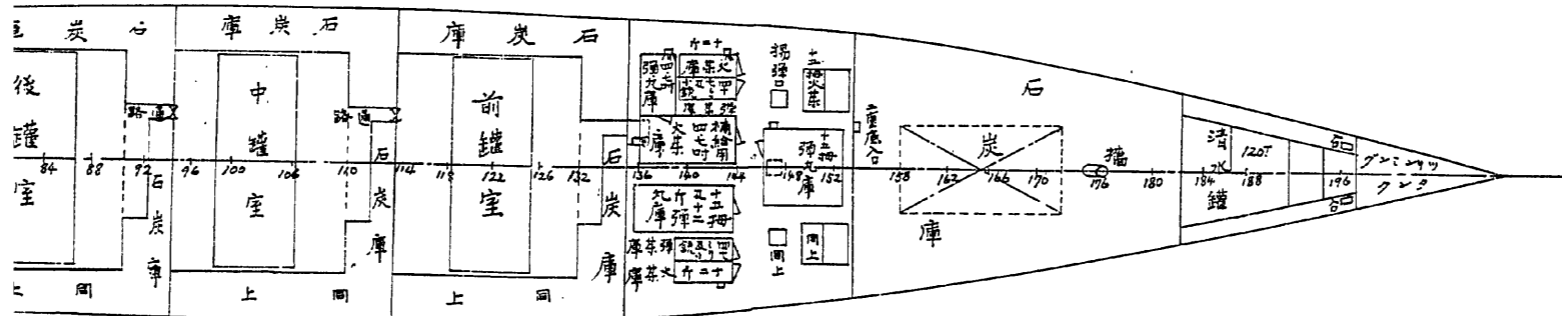
面平板甲下



面平板甲フーロ一才

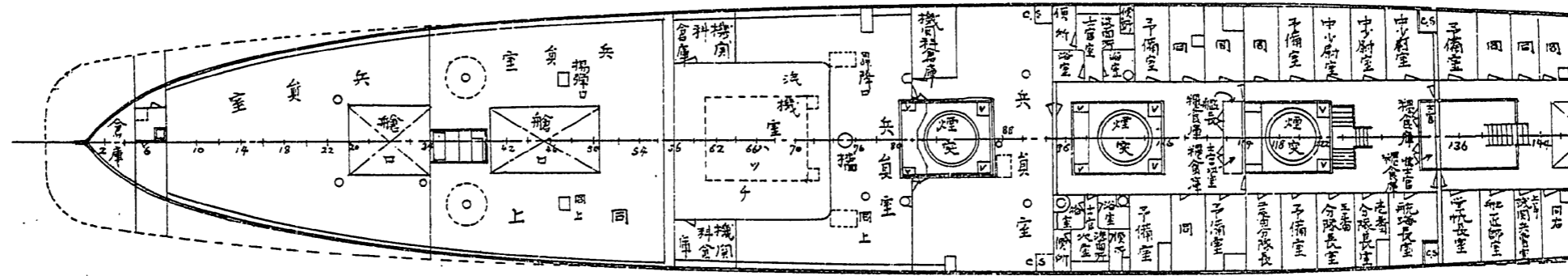


面平船艙

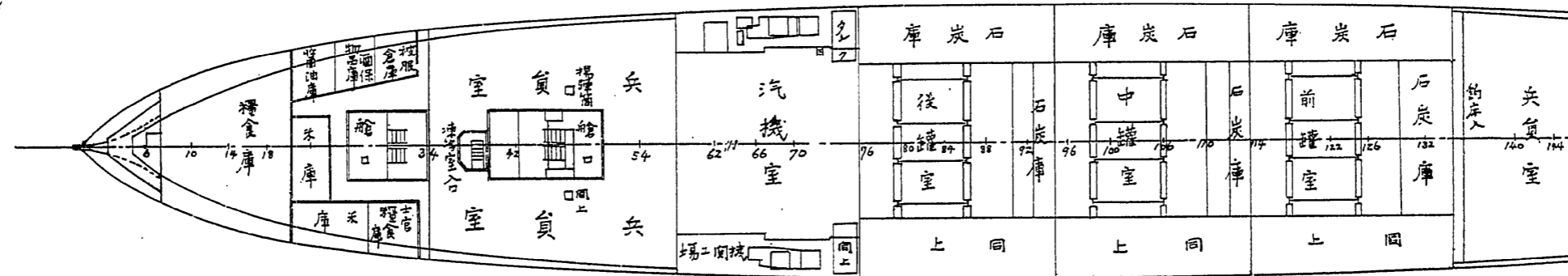


假裝巡洋艦姉川丸諸甲板平面圖 縮尺世二分一壹吋ヲ以テ壹呎トス

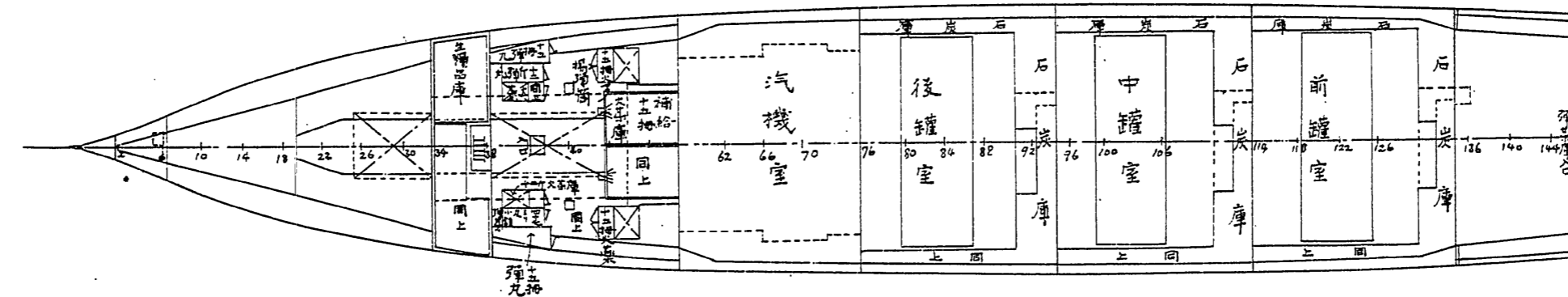
面平板甲中



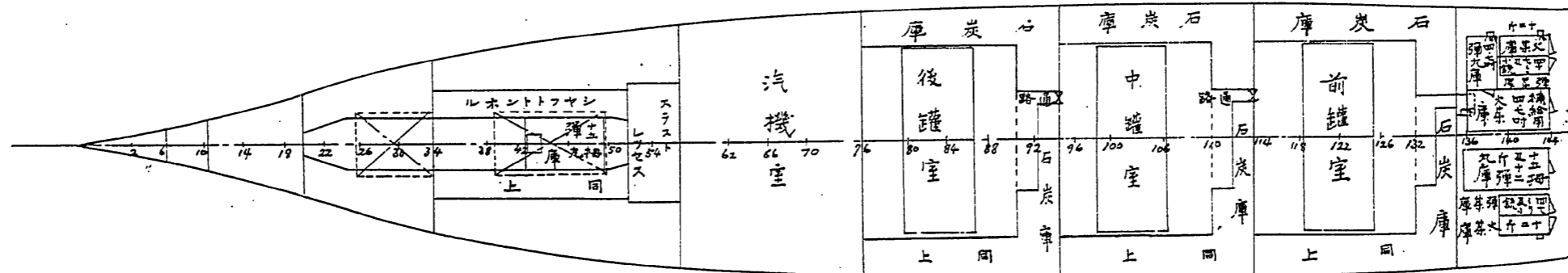
面平板甲下



面平板甲パーロ一才



面平船舩



第八目 姉川丸

本船(元露國假裝巡洋艦「アンガローラ」號)ハ、旅順開城後帝國海軍ノ所有ニ歸セシカ、當時我カ砲彈ノ爲メ撃沈セラレ、旅順口港内ニ沈没シアリシヲ以テ、我カ海軍ニ於テ引揚工事ニ著手シ、明治三十八年五月十二日浮揚ノ後假修理ヲ施シ、超テ六月二十四日旅順口ヲ發シ、七月六日吳軍港ニ回航セリ、尋テ七月十五日假裝巡洋艦トシテ艤裝スルコト、爲リタルヲ以テ、吳海軍工廠ニ於テ工事ニ著手シ、十月一日全部結了セリ、其ノ工事要領左ノ如シ、(附圖及ヒ要目表參照)

工事要領

「コンバズブリッヂ」

一、距離測定儀一個据附及ヒ同用木製「グレーチング」臺新設

一、探海電燈一基据附及ヒ同軌道敷設

「ポート」甲板

一、在來ノ端舟ノ内四隻ヲ除キ小蒸氣一隻、端舟三隻搭載及ヒ同附屬諸「ギヤ」設備

一、左右舷燈及ヒ同燈框各一個据附

船首樓甲板

一、安式十五拇速射砲二門 砲架共

一、左右舷ニ一門宛据附ノ爲メ「ガンサツポート」ヲ設ケ尙砲据附箇所附近ノ「スタンション」ヲ

適當ノ位置ニ移ス

一、左右舷ニ在リシ舷燈臺ヲ取外ス

最上甲板

一、安式十二斤速射砲二門 砲架共

前部左右舷ニ一門宛据附ノ爲メ適當ナル補強ヲ爲シ尙砲附近ノ「スタンション」ノ配置ヲ改ム

一、四十七密山内輕速射砲二門 砲架共

後部左右舷ニ一門宛据附ノ爲メ適當ナル補強ヲ爲シ尙砲附近ノ「スタンション」ノ配置ヲ改ム

一、「スモ」キングルーム」ヲ艦長公室トシ其ノ前部ニ接スル一室ヲ艦長寢室トス

一、汽機室「ケーシング」ノ前部ニアル一室ヲ士官次室トス

船尾樓甲板

一、安式十五拇速射砲二門 砲架共

後部左右舷ニ一門宛据附ノ爲メ「ガンサツポート」ヲ設ケ尙据附箇所附近ノ「スタンション」

ヲ適當ノ位置ニ移ス

一、安式十二斤速射砲二門 砲架共

前部左右舷ニ一門宛据附ノ爲メ適當ノ補強ヲ爲シ尙砲附近ノ「スタンション」ノ配置ヲ改ム

一、通船二隻ヲ片舷ニ一隻宛搭載ノ爲メ「クラッチ」ヲ設ク

上甲板前部

一、最前部ニ塗具室ヲ設ケ其ノ後部ノ一區劃ヲ下士室トシ釣床、食卓、食器棚、衣囊棚、帽子棚、

靴箱等必要ノ鑿裝ヲ爲ス

- 一、下士室後部ノ左舷ノ諸室ヲ掌帆科倉庫、掌砲科倉庫、鍛冶場トシ右舷ヲ下士厠、塗具室、兵員便所トス

上甲板中央部

- 一、「サルーン」ヲ士官公室トシ通路ヲ隔テ、士官食器室ヲ置ク其ノ後部ヲ士官賄所トス
- 一、左舷ノ諸室ヲ順次准士官室、廚宰室、事務室、准士官公室、機關官事務室トス次ヲ兵員賄所トシ飯炊釜ヲ設ク

- 一、發電機室ハ在來ノ儘トシ其ノ前部一室ヲ電氣科倉庫トシ其ノ後部一室ヲ消毒器室及ヒ機關部倉庫トス

- 一、右舷ノ諸室ヲ副長室豫備室、士官浴室豫備室、主計長室、軍醫長室、機關分隊長室、士官浴室及ヒ便所、機關分隊長室、機關長室トス

上甲板後部

- 一、左舷ニ兵員便所、無線電信室、藥劑室、治療室及ヒ病室ヲ又右舷ニ兵員浴室、酒保、兵員病室、同浴室及ヒ便所、信號器具格納所ヲ設ク

- 一、最後部ヲ舵柄室トス

中甲板

- 一、前部ヲ倉庫トシ次ニ掌砲科倉庫及ヒ掌帆科倉庫ヲ設ケ次ニ兵員室ヲ設ケ釣床及ヒ格納所

等之ニ必要ナル艤裝ヲ爲ス尙其ノ一部ニ衛兵伍長室ヲ設ク

一、中央部ハ左舷ニハ艦長浴室及ヒ厠、中少尉室豫備室及ヒ士官室洗面所、浴室、便所ヲ又右舷ニハ准士官浴室、厠、准士官室、航海長室竝ニ分隊長室及ヒ士官次室洗面所、浴室及ヒ便所トス之ヨリ後部ニ區劃ヲ兵員室トシ釣床格納所等必要ナル艤裝ヲ爲シ其ノ一部ニ機關科倉庫ヲ設ク

下甲板

一、前部ニ鎖庫次ニ掌帆科倉庫ヲ設ケ次ノ二區劃ヲ兵員室トシ釣床及ヒ格納所等必要ナル艤裝ヲ爲ス

一、汽機室ノ後部ノ一區劃ヲ兵員室トシ必要ナル艤裝ヲ爲シ次ノ二區劃ヲ被服庫及ヒ糧食庫トス

「オーロップ」甲板

一、汽機室後部ノ一區劃ヲ左ノ如ク區別ス

補給用十五拇火藥庫 十五拇火藥庫 十五拇彈丸庫 十二斤火藥庫 十二斤彈丸庫 四十
七密及ヒ小銃彈藥庫

次ノ一區劃ヲ冷藏庫トシ生糧品ヲ格納ス

船艙甲板

一、最前部ニ「ツリムミンクタンク」及ヒ清水罐アリ

一、前罐室前部ノ一區劃ヲ左ノ如ク區別ス

十五拇彈丸庫 十五拇火藥庫 十五拇及ヒ十二斤彈丸庫 十二斤火藥庫 補給用十二拇彈

丸庫及ヒ同火藥庫 四十七密砲及ヒ小銃彈藥庫ヲ設ク

但彈火藥庫ハ在來ノ「タンク」ヲ用ヒタルモノト別ニ船艙ニ木製區劃ノ一室ヲ設ケタルモノトアリ

一、後部軸室ノ間ニ十五拇彈丸庫ヲ設ク右ノ外「スピードマーク」艦尾速力及ヒ舵柄信號燈、電話器、傳話管、無線電信裝置一切竝ニ兵員室ニ小銃架、拳銃架等ヲ新設ス

第九目 松江丸

本船ハ、元東清鐵道會社所有汽船ナリシカ、明治二十七年二月九日仁川港ニ於テ爆沈シタルヲ以テ、我カ海軍ハ、三菱合資會社ニ之カ引揚工事ヲ委託セシニ、八月六日引揚ナ了シテ長崎港ニ回航セルニ由リ、二十五日同會社ヨリ之ヲ受領シ、尋テ二十八年九月五日假裝巡洋ト定メラレ、專ラ測量ノ任務ニ服スルコト、爲リタルヲ以テ、其ノ方針ニ從ヒ、佐世保海軍工廠ニ於テ織裝シ、十月二十七日全部竣工セリ、其ノ工事要領左ノ如シ、

工事 要 領

一、左記乗員ニ對スル諸設備ノ織裝

准士官以上 十二人

下 士 十四人

卒 五十八人

水路官 四人

技 手 六人

舟 夫 二十人

一、左記汽船及ヒ端舟ヲ新規ニ搭載ス

一、二十八呎小蒸氣船 一 隻

一、二十八呎「カッター」 一 隻

一、二十三呎通船

一隻

一、三十三呎押送船

三隻

一、「デリック」 荷物及ヒ押送船揚卸用トシテ前部ニ二個、後部ニ一個ヲ設ク

一、「ダビット」 小蒸氣船用一組、「カッター」用一組、通船用一組ヲ設ク

一、製圖室及ヒ水路官用測器格納所倉庫ヲ設ク

一、左ノ彈藥ヲ格納スルニ適スル彈藥庫ヲ設ク

十二斤砲ニ對スル彈藥

一千二百發

小銃彈藥

一萬二千發

拳銃彈藥

千八百發

一、小銃四十挺拳銃十二挺ニ對スル「アームラック」ヲ設ク

一、船底塗換

一、發電機用蒸氣管新設

船名	本船番 號	信 號 符 字	噸數			載貨噸數		尺 度			平均喫水			乾 舷	構 造 ノ 種 類	使 用 ノ 目 的	樁 數	避 雷 針	煙 突 數	ヨサ		網 具 裝 置	船 首 形	船 體 ノ 材 料	船 體 塗 色
			總	登 簿	排 水	方 積	重 量	長 尺	幅 尺	深 尺	載 尺	空 尺	上 大 板 ノ 面 高							リ マ ス ト マ ス ト					
臺中丸	1,754	HLKJ	3,319	1,804	6,030	3,214	3,400	333,00	43,00	24,00	23- 0	13-10	5-8		貨客	2	—	1	98-0	—	スライ	直立	鋼	黒	
臺南丸	1,728	HLGQ	3,311	1,788		3,214	3,262	333,00	42,25	25,28	23- 2	13- 0	5-8		„	2	—	1	98-0	—	„	„	„	„	
香港丸	3,241	HSNL	6,169	3,447	10,755	4,450	5,940	421,05	49,30	29,70	26- 7	17-11	6-5	重甲	„	2	2	2	100-0	76-0	„	突出	„	白	
日本丸	2,806	HQSL	6,168	3,442	10,755	4,450	5,940	420,55	49,30	29,65	26- 6	17-10	6-5	„	„	2	2	2	100-0	76-0	„	„	„	„	
亞米利加丸	3,068	HRTW	6,307	3,460	10,360	4,800	5,660	422,20	49,80	29,75	26- 7	17-10	6-7	„	„	2	2	2	94-0	86-0	„	„	„	„	
八幡丸	3,647	HVGN	3,816	2,366	6,968	3,968	3,738	282,05	43,10	29,75	24- 0	13- 2	5-5	„	„	2	2	1	102-6	—	„	直立	„	黒	
備後丸	1,876	HLVM	6,247	3,873	12,550	9,464	7,690	452,15	47,80	30,05	25- 4	14-11		„	2	2	1	118-0	—	„	„	„	„		
佐渡丸	2,475	HPKL	6,226	3,860	12,260	9,525	7,600	455,55	47,75	30,10	25-10	14- 1	8-7	重甲	„	2	2	1	117-0	—	„	„	„	„	
信濃丸	6,487	JBQH	6,337	3,960		9,023	7,500	453,70	47,50	30,05	26- 0	11- 4		„	2	2	1	118-0	—	„	„	„	„		
滿州丸		GQPW	2,981	1,888		1,400	1,800	346- 0	43- 0	30- 0	18- 0	14- 0			客	2					„		„		
揚武	1,521	HKLT	3,435.97	2,130.3		4,770	3,850	346,30	41,37	27,39	24- 0	13- 9			貨客	2	—	1	前109.0 後109.0	前280 後290	„	„	鋼鐵	黒	
姊川丸		GQSK	7,267	3,967				508- 0	58- 1	37- 0						2			前111.0 後115.0	カマフラ ンク		鋼			

脚筒ノ數			操舵機		揚籠機		製氷機ノ種類	冷蔵庫容積 立升	白電		深電		電働機		揚貨機				備附艇舟									
海	清	移	手	汽	手	汽			數	燭	數	燭	數	馬	用	「ウインチ」		「クレーン」		「デリック」		汽艇	救命艇	「カッタ」	「ギ」	「シヨリ」	傳馬船、艇舟	
																數	力	數	力	數	長							力
2	1	1	2	1	—	1		1,746	154	16	—	—	—	—	3	3	—	—	5	38-0 40-0	—	4	2	1	1	—		
2	1	1	2	1	—	1		1,988						3	3	—	—	5	30-8 34-5	—	6	1	1	—	—			
2	3	1	1	1	1	1	炭酸瓦斯式	1,154 1,147 1,142	3	30	1	4,500	8	1/16	扇風	5	6	—	—	4	33-0 42-0	12	—	8	1	1	—	
2	3	1	1	1	1	1	”	肉 89 野菜 83	360	16	2	45,000	8	1/16	”	5	6	—	—	5	40-4 32-0	12	—	8	1	1	—	
3	2	1	1	1	1	1	”	1,980			1	12,000	8	1/16	”	5	6					—	8	1	1	—		
3	3	2	1	1	1	1	「リント」氏 「アンモニヤ」	2,287	7 1 50 322	64 50 32 16	—	—	1	1.54 .07	”	6	3			6	34-0 36-0	5	—	6	1	1	—	
2	3	1	1	1	1	1	安母尼亞式	1,198	11 72 37	64 50 32 16	1	12,000	15 1	.07 .13	通風	10 1	6 30					—	8	2	1	1	—	
2	3	1	1	1	1	1	「リント」氏 安母尼亞式	1,824	29 255	32 16	1	12,000	10 1	.07 .23	扇風	10 1	6 30	—	—	10 1	46-0 34-0 34-0	8 30	—	8	2	1	1	—
2	3	1	1	1	1	1	炭酸瓦斯式	1,584	4 75 222	50 32 16	1	12,000	—	—	—	10 1	6 30					—	8	2	1	1	—	
							有		有						6	2												
1	1	1	1	2	1	1	—	—	有										5 3		5	—	—	3	—	1	—	

旅客定員				浴室ノ數			便所ノ數			乗組定員					炊米具		上得 甲板ニ 設置シ 置シ	中下甲板へ搭 載シ得ヘキ人 馬數		繪得 内へ 設置 シ數	内繪假 甲板及 へ特ニ 得ル人 馬		上 板 其 他 搭 載 シ 得 ル 數	長サ約四十呎重量約二十噸 ノ汽艇ヲ搭載シ得ル數		
一 等	二 等	三 等	一、 二 等 用	三 等 用	船 員 用	一、 二 等 用	三 等 用	船 員 用	船運 長 及 ヒ士	機 關 長 士	事務 長 員	甲 板 部	機 關 部	自 餘 乗 組	一 回 ニ 炊 キ 得 ル 量 升	同 要 ス ル 時 間 分		人 ナラハ	馬 ナラハ		人 ナラハ	馬 ナラハ				
28	—	52	—	628	4	—	2	大6 小6	大5 小3	大5	5	4	4	21	26	29	2-5	30	17	398	144	78	—	—	—	
28	—	50	—	296	4	—	2	大6 小6	大5 小3	大8	5	4	4	21	26	31	2-5	30	15	372	137	66	—	—	—	
101	21	20	—	522	9	1	2	大10 小6	大11 小1	大2	5	8	5	25	60	55	6-0	60	70	686	290	65	300	—	6	
109	30	20	4	481	10	1	2	大10 小4	大11 小1	大2	5	8	5	28	60	55	6-0	60	70	707	290	65	—	—	6	
103	24	20	—	584	9	1	2	大10 小5	大11 小1	大2	5	8	5	38	60	55	6-0	60	70	838	338	65	300	—	6	
61	20	24	11	150	7	—	5	大7 小7	大6 小2	大9 小6	5	5	2	20	26	39	7-2	50	32	392	69	94	—	—	—	
26	—	20 特 12	—	157	3	1	5	大4 小3	大7 小3	大9 小3	5	7	2	26	38	29	7-2	50	81	808	197	132	288	—	2	
35	16	20 、 12	2	190	4	1	5	大5 小4	大7 小1	大9 小4	5	7	2	26	38	29	7-2	50	81	808	197	132	280	—	2	
36	18	— 、 12	—	369	4	1	5	大4 小3	大7 小3	大9 小3	5	7	2	25	37	31	4-8	50	80	760	202	156	264	—	2	
57	—	—	—	88	—	—	—	—	—	—	5	8	—	21	35	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
18	18	—	—	12	一 等 1	—	2	大 小 2	—	10	4	4	—	19	21	10	1-0	30	前25 後15	734	304	128	744	148	2	

舷梯ノ數	甲板層數	支水隔壁ノ數	單底或ハ二重底	汽罐ノ種類	主汽罐		補助汽罐		汽ノ總用種類		發電機ノ種類式及ヒ數				推進器	馬力		速力		製造年月	製造地名	航路定限	製造入又ハ價格
					種類及ヒ數	汽壓制限 <small>「ボルト」</small>	種類及ヒ數	最大汽罐 <small>「ボルト」</small>	主汽罐	補助汽罐	種類及ヒ數	汽壓 <small>「ボルト」</small>	電壓 <small>「ボルト」</small>	電流 <small>「アンペア」</small>		公稱	實強	最尋常	尋常				
2	2	6	二重	三聯 1	第 4	180	直立 1	80	滑	滑	1		100	150	單	310	3,500	16,0	13,0	30-5	英	近	617,853
2	2	6	”	” 1	” 4	180	” 1	80	”	”			100	150	”	310	3,500	16,0	13,0	30-6	”	”	625,126
3	2	7	”	” 2	第 4 第 1	180	筒 1	80	”	”	2	80	100	130	雙	568	7,500	17,7	15,0	31-4	”	遠	1,200,000
3	2	7	”	” 2	” 4 ” 1	180	” 1	80	”	”	2	80	100	130	”	570	7,500	17,5	15,0	31-4	”	”	1,200,000
3	2	7	”	” 2	” 4 ” 1	180	” 1	80	”	”	2	80	100	130	”	569	8,100	18,2	15,0	31-3	”	”	1,200,000
2	2	6	”	” 1	” 2	185	” 2	185	”	”	2	185	100	260	單	313	4,306	16,8	13,5	31-5	蘇	”	890,000
2	2	7	”	” 1	” 2 ” 2	200	—	—	”	—	2	200	65	340	雙	312	4,256	14,3	12,0	30-8	”	”	900,000
2	2	7	”	” 2	” 2 ” 2	200	—	—	”	—	2	200	80	290	”	312	4,000	14,0	12,0	30-8	愛	”	900,000
2	2	7	”	” 2	” 2 ” 2	200	—	—	”	—	2	200	65	400	”	311	5,143	15,3	11,9	33-1	蘇	”	1,031,816
4	3	7	”	” 2	第 5	180	直立 2	90	”	滑					雙	364,35			12,0	34-	埃		
2	2	7	前後 單復	” 1	” 1	160	圓筒 1	160	淡	海					單 暗 單	263,4	1,750	13,5	10,5	13-5	”	”	250,000
			二重	” 2											雙					30-	英		

検査年月日及ヒ右効期限				最近出渠年月	獎勵金		石炭庫容		清水貯量				歴 船 物	常全汽 備速ノ 常運ノ 態ニ於 ル水容 量	常速力ニテ一晝夜消費高						蒸餾器 器ノ種類				
特 別	期 限	定 期	期 限		造 船	航 海	常 用	豫 備	飲 用 水 槽	汽 給 給 シ 得 ヘ キ	必 得 川 ノ 時 飲 用 ニ 供 シ	其 他			石 炭	内 部 油	外 部 油	點 燈 油	獸 脂	絲 屑	汽 罐 補 給 水	種 類 及 ヒ 數	一 晝 夜 蒸 溜 量	種 類 及 ヒ 數	一 晝 夜 蒸 化 量
					—	—	653	100	32	201	81	263		105	58	1,5	5,0	3,5	1,5	25,0	27	—	—	1	672
					—	—	552	100	32	75	78	354		107	58	1,5	5,0	3,5	1,5	30,0	28	—	—		
					—	有	1,900	—	50	655	186	69	500	160	100	0,5	12,0	4,0	1,0	4,0	10	2	4,000	2	
					—	„	1,900	—	50	655	186	69	500	190	98	0,5	9,0	1,0	1,0	5,0	10	2	1,792		
					—	„	1,900	—	50	635	185	96	—	190	110	1,0	11,0	1,0	1,0	4,0	10	1	4,000		
37-2	4	38-3	1	38-3	—	„	624	639	36	229	46	650		183	61	0,5	7,0	2,3		9,1	16	「アナス」 2	2,400		
					—	„	520	1,019	40	192	142	1,399	—	90	65	1,0	10,0	4,0	—	7,5	20	1	6,000		
					—	„	544	1,006	40	199	131	1,429	—	96	63	0,8	9,5	1,5	—	8,9	22	1	6,000	1	4,800
					—		536	1,035	40	202	126	1,411	—	106	64	0,6	9,0	1,6	—	8,0	24	1	6,000		
							500		33	310					58							2			
					—	—	420	165	24	—	111	—	—	100	35	$\frac{3}{8}$	3	1	0	2	0	1	3 回	—	—

載シ得ル数 約二噸ノ解舟ヲ搭 長サ約三十呎重量	船口		船籍港	所有者		
	上甲板ニ	端釣艇ニ			數	太サ 呎 吋 呎 吋
	2	6	3	20-0×13-6	大阪	大阪商船株式會社
	2	6	3	20-0×13-6	”	”
	8	8	4	17-2×13-3 16-7×16-7	東京	東洋汽船株式會社
	6	8	5	25-0×16-0 20-6×16-0	”	”
	8	8	4	17-2×13-3 10-3×16-7	”	”
		8	4	24-0×12-0 18-0×12-0	”	日本郵船株式會社
	6	8	5	20-0×16-0	”	”
	6	8	5	25-0×16-0 20-0×16-0	”	”
	7	12	5	25-0×16-0 20-0×16-0	”	
			4	12-6×9-8 15-6×12-6		
	10	6	4	2-5×2-8 2-5×2-5	兵庫	三井物産合名會社

第二章 水雷母艦

第一節 水雷母艦ノ艤裝

第一目 日光丸

本船ハ、日本郵船株式會社所有汽船ニシテ、明治三十七年一月五日同會社ト借上契約濟ノ後横須賀軍港ニ回航セシメ、三十六年度海軍戰時編制實施要領書(第十部第(八篇參照))ノ定ムル所ニ從ヒ、三十七年一月十日艤裝ニ著手シ、二十三日竣工ス、今本船ヲ水雷母艦ト爲スニ當リ、船體各部ニ施行スヘキ新設、改造ノ要領及ヒ其ノ方法左ノ如シ、(附圖及ヒ章末要目表並ニ備考文書第二號參照)

新設並ニ改造ニ關スル工事

一、十二斤速射砲据附帶工事

船首樓「ブリツヂデッキ」中央及ヒ船尾樓後部兩舷ニ二門宛合計六門ヲ裝備スルコト

砲臺ノ構造ハ適當ナル方法ヲ以テ甲板ニ加強材ヲ取附ケ十分堅固ニ構造スルヲ要ス

各砲臺舷側ノ「ハンドレール」ハ砲ノ發射角度ニ差支ナキ様其ノ上部ヲ切取ルコト

一、四十七密重速射砲据附帶工事

船尾樓兩舷ニ二門ヲ裝備スルコト

砲臺構造ハ適當ナル方法ヲ以テ甲板ニ加強材ヲ取附ケ十分堅固ニ構造スルヲ要ス

各砲臺共ニ舷側ノ「ハンドレール」ハ砲ノ發射角度ニ差支ナキ様其ノ上部ヲ切取ルコト

一、小銃及ヒ銃架ヲ新設スルコト